

# 女性に関することわざと現代の女性

アジタ・シンデ

## はじめに

ことわざは人間の生活体験から生み出されたもので、広く世人に支持され、長く世に伝えられて来ました。数えきれないほどの言葉の中には朝生まれ夕に消えていくものも多いのに、ことわざは今も私達の暮らしの中に生きています。

以下、女に関することわざを分類し、ことわざとその説明をまとめました。男性から女性を見て女性に付いて表現している、という印象を受けることわざが多いと思います。つまり、ことわざにおける視点の中心が女性ではなく男性にあるのではないかと思うものが多いということです。今日にも通じる普遍的なものもありますが、この考え方は古いのではないかと思います。

## 1

男性の立場から女性を見下していると思えるもの。女は知恵がなく馬鹿なものだ、と決めつけている。賢い女の存在を認めず、子供と同様に扱うことで、一番賢いのは男だ、と言っているようなことわざ。

女の話は一里限り

：女は話題の範囲が狭く限定されていることをいう。

女子の言用う可からず

：見識のない女性や子供のことばをとりあげてはならない。

類句：

\* 女の知恵は鼻の先。

女の賢いのと東の空明かりとは当てにならぬ

：東の空が明るくても晴天になるあてがないのと同じく、女が賢くてもあてにならない。

女わらべの言う事用うべからず

：考えの浅い、女や子供のことばに迷ってはならないということ。

女は会釈に余れ

：女は大いに腰を低くしておじぎをするのが良い。

女の知恵は鼻の先

：女は目先のことしか見ず、遠い将来を考えないということ。

類句：

- \* 女の鼻の思案。
- \* 女の利発牛の一散。
- \* 女の猿知恵。
- \* 女の知恵は後へまわる。
- \* 女の利口より男の馬鹿。
- \* 女賢しうして牛売り損なう。
- \* 女料簡。
- \* 女分別。
- \* 女が口を叩けば牛の値がさがる。
- \* 女の言うこと用うべからず。

悪妻は百年の不作

：悪い妻を持つと自分一人だけではなく、子孫の代にまで悪い結果を残すということ。悪い女と一緒にあった男の不運をかこったことば。

類句：

- \* 悪妻は六十年の不作。
- \* 悪妻は一生の不作。
- \* 悪妻は家の破滅。
- \* 悪妻にまさる不幸なし。

女に白い歯は見せられぬ

：(白い歯は笑った時に見える歯のこと) 優しい笑顔を見せると、つけあがって男をあなどるから、見せてはいけないということ。

類句：

- \* 女と子供には白い歯を見せるな。

女賢しくて牛売り損なう

：女の利口なのは目先にとられるため、大局を見失い、多くは事を仕損じる。牛を売るときに、少しでも高く売ろうとして、横から口を出して「この牛には欠点がない」と言

えば、買い手はこれに刺激されて足の傷を発見したりする。

類句：

- \* 女の賢いのと東の空明りとは当てにならぬ。
- \* 女の発明で牛の値が下がる。
- \* 女が口を叩けばうしの値が下がる。
- \* 女の知恵は鼻の先。
- \* 女の猿知恵。
- \* 女の知恵は場限り
- \* 女の利口より男馬鹿。

女の知恵は後へ回る

：女の知恵は浅はかで回り方が遅く、事柄が終わったあとに出る。

類句：

- \* 女の猿知恵。

女の力と首のない石仏

：使い道がなく、役に立たないもののたとえ。

女の腕まくりと朝雨には驚くな

：女が腕をまくって脅してもこわくないし、朝雨もすぐ晴れるので、ともに驚くにあたらないことを言う。

傾城の千枚起請

：遊び女が金になる客には幾人にも真実を誓って起請文を渡すこと。あてにならない、信用できないもののたとえ。

女の商談と七の段は割り切れず

：七のつく数が割り切れないように、女の商談は決断が遅い。

女の張る弓は射られず

：女は邪念が多いので、女の張った弓では的に射当てることができないの意。

女の目には鈴を張れ

：女の目は鈴のように、丸く大きいのがよい。

女の湯巻きと世間の付き合いは狭いが良い

：ともに費用を節約することができることをいったもの。

女は人間を左右にせよ

：「ひとあい」は、人とのつきあい。女は誰に対しても愛想をよくしなければいけない。

女の手から物を取った出家は五百生の間手のない者に生まれる

：僧が女の手から直接物を受け取ってはならないということ。

女三人あれば身代がつぶれる

：娘が三人あれば、娘入り支度の為に財産がすっからかんになる。たいていの娘は努めて娘入り支度の一部をかせぐが、とても追いつくものではない。

類句：

\* 娘三人持てば身代つぶす

\* 女の子三人あれば囲炉裏の灰もなくなる。

\* 女三人は一身代

## 2

以下のことわざは女のずるさを言っている。このようなずるさは現在にも残っているのではないかと思う。現在の女性も、全てではないが、いろいろなことを考えながら、かけひきしているのではないだろうか。

いやじゃいやじゃは女の癖

：女は心ではOKの時でも、口ではいいと言わないで、いやを連発するものだ。

いやと頭を縦に振る

：表面と内実と反対のことにいう。女は心で何かを求めているも、まただれかを好いていても、口では「いらないよ」とか「きらいだ」とか言う。

類句：

\* いやいや嬉しい。

\* 娘はイエスと言う意でノーと言う。

女の夫をたばかるには男の知恵には増す

：女が夫をだます時は男以上の知恵を動かす。女が夫をだます時は上手なことを言う。

女は敷居をまたきながらも七十企み

：女はいつもあれこれと知恵をめぐらすということ。

女郎の空泣き

：遊女が客の前で悲しくもないのに涙を流して客をだますこと。

類句：

- \* 女郎の嘘泣き。
- \* 女郎の空起請。
- \* 傾城の空涙。

女の怖がると猫の寒がるはうそ

：ともによく見せる動作だが、内心とちがうことがある。

女の知恵は欲が元

：女の考えは欲が先に立つ。

女は地獄の使い

：女はやさしい姿をしているけれども、男を迷わし僧をすら破滅されることがあるところからいう。

七人の子はなすとも女に心許すな

：七人の子供までもうけて夫婦仲であろうとも、女と言うものに気を許してはならない。  
永年一緒に暮らした妻にも油断してはならないということ。

類句：

- \* 七人の子を生むとも女に心許すな。
- \* 女は死んでも信ずな。
- \* 女に大事は明かされぬ。

悪女の賢者ぶり

：性質の良くない女が利口ぶり、外見を装うことで、鼻持ちならない偽善を言う。

愛の道には女賢しい

：人を愛をすると男より女のほうが判断力があってしっかりしている。また男よりもはかりごとがたくみで機転がきく。

金の切れ目が縁の切れ目

：金銭のなくなった時が関係の切れる時。遊客と遊び女、顧客と商人などの一見親しそうな関係も、実はそれは金銭の利害損得によるものであって、それ以上の金銭の見込みがないとなると、あっさりとそれまでの関係を絶ってしまうということ。

類句：

- \* 愛想尽かしは金から起きる。
- \* 金のないのは首のないのに劣る。

男は上恋、女は下恋

：男は身分の高い女に恋し、女はいやしい男に恋することをいう。

### 3

女の習慣や、特性を言っている。話し好きであったり、服を大切にしている、と言う点は、現在も多く女性にあてはまると思う。結婚して色気がなくなる、と言う話しもよく耳にすることであるし、心が変化しやすい、ということもよくあることではないだろうか！また女の方が執念深いというのも言えると思う。

愚痴は女の常

：女はよく愚痴をいうものである。

女は口さがないもの

：女は話をする時、うわさ話とか、他人のことをあれこれ口うるさく批評するのが好きである。

女同士は、角目立つ

：女は心が狭いため互いに争い合うことが多い。

女の仕返しは三層倍

：男にだまされた女は、何倍にもして仕返しをするの意。

女の一念岩をも透す

：女は決心の固いものだと言うこと。また、執念深いものだということ。子を抱えて妻と

別れた男は子を養いかねるが、夫と別れた女が子を立派に育てるのを見ても分かる。

#### 女心と秋空

：女心は秋の空のように変わりやすい。愛情のさめやすさと移り気をいうことば。

類句：

- \* 女の心は猫の目。
- \* 秋の日和と女の心、日に七度変わる。
- \* 女心と秋の空、変わりますぞえ日に三度。
- \* 女性は風のように気が変わる。

#### 女三人寄れば姦しい

：「女」と言う字を三つあわせると「姦（やかましい）の意」と言う字になるところから女が三人集まると、おしゃべりだから大変うるさい。

#### 女三人寄れば着物のうわさする

：おんなが三人も集まれば、最も関心のある着物の話をすぐしたがる。

#### 女の心は女知る

：女独特の微妙な心理は、女でなければわからない。

類句：

- \* 女は相見互い。

#### 女の心は猫の眼

：くるくる変わりやすい猫の眼に女心をたとえたもの。

#### 女の腰と猫の鼻はいつも冷たい

：女の腰部が冷えやすいところからきたたとえ。

類句：

- \* 女の尻と鍋の尻は冷たいもの。
- \* 男の膝頭と女の尻はいつも冷たい。

#### 女の寒いと猫のひだるいは手の業

：女が寒がるのと、猫が空腹がるのはいつものことだと言う意。

#### 女の尻と猫の鼻は土用三日あたたかい

：ふだん冷たいものでも、さすがに暑い最中は暖まる。

女は水性

：女は水の流れのように移り気で浮気な性質であるということ。

女に十二の角あり

：女には嫉妬の十二本の角があり、一人子を生むと一本抜け、十二人生むと角がまったく無くなって嫉妬心もなくなると言うこと。

女と白魚は子持ちになつては食えない

：子持ちの白魚がまずいように、女も子持ちになると、忙しさにかまけて色気がなくなり、味気ないものである。

女はしつとに大事を漏らす

：女はしつとからどんな大切な秘密でも話してしまう。

女は着物が命から二番目

：女が着物に愛着を持ち大切にするをいう。

女の立ち話騒動の元

：女のうわさの話から、隣近所中のさわぎになると言うこと。

女の情けにへびが住む

：女の本性にはへびのような執念深さがひそんでいる。

類句：

\* 女のねしょう・こんじょうは蛇の下地。

女は一月四十五日あり

：女は多忙なため、一か月が一か月半にも当たる。

女の長尻

：女が長話のためいつまでもすわりこんで帰らないこと。

女は相見互い

：女には女でなければ分からない悩みや苦しみがあるので、互いに同情し合えるものであ



る。女は同じ条件を持つ同性として互いに協力し合うものである。

類句：

\* 女は女同士。

#### 4

女が原因で国や家庭が乱れる、とあるが、逆に男は女の魅力に弱い、ということであると思う。現在でも、男性が女性にふり回されることは多いと思うが、その逆も充分考えられると思う。

女のえくぼには城を傾く

：君主が女色におぼれて、国を滅ぼすことをいう。

類句：

\* 女は乱の基。

女の足駄にて作れる笛には秋の鹿寄る

：女の魅力には、どんな男でもひきつけられると言うことのたとえ。

女の髪の毛には大象もつながる

：女の、男をひきつける力の強いことのたとえ。

女は乱の基

：女が原因で国や家が乱れやすいことをいう。

家の乱れは女から

：家庭が乱れるのは女性が原因である。

女は国のたいらげ

：女によって世の中がおだやかで楽しく、円滑にいくことをいう。

女ならではの夜が明けぬ

：女性がいないと何事もうまく進行しないことを言う。

女は門開き

：女は縁起がいいものであるということ。

女は魔物

：女は男を迷わせ破滅させる魔力を持った悪魔のような存在であるの意。

類句：

\* 女は地獄の使い。

## 5

以下のことわざは女は化粧などによって化けてしまうことを言っている。これは現在でも言うことができる。また、外見が悪くても、それを補う努力をするというのもあてはまるだろう。女らしい人がより好まれるというのもいえる。

女は衣装髪形

：女は衣装や髪形によって、美しく見えたり、劣って見えたりする。女は髪や衣装を良くすることが大切だ。

類句：

\* 女は髪頭。

女は己れを喜ぶ者の為に容づくる。

：女は自分を愛してくれる人の為に顔や姿を美しくしようと努力する。

女性もリンネル地もろうそくの光の下では選ぶな

：暗いところでは欠点も目立たず、実際より美しく見えるものである。また嫁選びは相手をよく確かめて吟味しないと後悔をすることになると言うこと。

女は化け物

：女が化粧によって顔だち・年齢などを見間違えるほど変わることをいう。

女見るなら忙しい時に見よ

：女は、忙しい時に見れば、かざってない本当のすがたを見ることができるということ。

悪妻の深情け

：ここで言う悪妻とは顔の美しくない女のこと。顔かたちが美しくないことを自覚している女は、その故か、愛情が強い。

悪妻は鏡を疎む

：だれでも自分の弱みにふれることは好まないことの例え。顔のみにくい女は鏡を見るこ

とを嫌う。

類句：

\* 悪妻は鏡を恐る。

女の堅いはひざ頭ばかり

：女の品行が意外に崩れやすいことを言う。

女の気の強いのと葉汁の強いのは悪い

：ともにあくが強くてきらわれるものである。

女とかつおぶし堅きほど良し

：女の品行の堅いことをすすめるためのことば。

女と米の飯は白いほど良い

：女の色白なのをほめることば。

女は愛敬、男は度胸

：男には度胸、女には愛敬が大切だの意。

## 6

以下のことわざを見て私が思ったのは、女は男に従って、男にたよって生きていかなければならない、たよらなければ生きていけない、というのは、現在の世の中にはあてはまらないと言うことだ。現在は女性の社会進出が進み、家庭で夫の帰りを待つことが、嫁の役割ではなくなってきている。女性は男性と同等になってきている。

女は氏無くて玉の輿に乗る

：女は低い身分に生まれても、家柄が低くても家が貧しくても、富貴の人に縁づけばたちまち金持ちや貴い地位にのぼることができるということ。

類句：

\* 氏無くして玉の輿。

女性の全生活は愛情の歴史である

：女性は一生愛情を求めて生きるの意。

夫に付くが女の道

：結婚したら夫に従うのが女のとるべき道であるという意。

類句：

\* 夫に付くが女の習い。

男は内を言わず、女は外を言わず

：男は家庭のことに口をださずすべて妻にまかせて外で働き、妻は家事に専念して外での夫の仕事に対して一切口出さないのがよいという意。

女は下げて育てよ

：質素な家に嫁にいても不満に思わないよう、女の子は家柄より低めに育てるのがよい。

女は三従

：女は、未成年の時は父に従い、嫁しては夫に従い、老いては子に従うものである。

類句：

\* 女は若き時は親に従い、人にゆきては夫に従い、夫死して子に従う。

女と坊主は七国巡る

：女と坊主には定住の地がないことを言う。

女と俎板はなければ叶わぬ

：女は家庭に、俎板は炊事になければならない。

女に七去あり

：妻には一方的に離別されても仕方がない七つの場合があるということ。

女は亭主次第

：女性の地位はだんなによるということ。

女は三界に家無し

：(「三界」は仏語で、欲界、色界、無色界です。)

女はこの広い世界で、どこにも安住できるところがない。女は生家にいる時には父に従い、嫁に行っては夫に従い、年をとると子に従うものであるから、主となることがない。

類句：

\* 女に家無し。

\* 女に定まる家無し。

- \* 女は百まで家もたず。
- \* 女の身は三界に家無し。

男は松、女は藤

：松に藤がからまるように、女は男に頼りすぎて生活すべきものであるの意。

世界に余った女は無い

：どんな女でもそれぞれ似合いのつれあいを持つということ。

類句：

- \* 女と坊主に余り物がない。

女は一生の苦楽を他人に依る

：女は親・夫・子に頼るから、一生の苦楽はみな他人に依存しなければならないの意。

類句：

- \* 女は百年の苦楽他人に依る。

女と塩物にすたりはない

：塩づけにした魚が便利がられるように、女はもらい手に事欠かない。

類句：

- \* 女にすたりはない。

女と坊主に余り物がない

：僧の務めが絶えないように、女は相手に困らない。

類句：

- \* 女と坊主にすたり物はない。
- \* 女と塩物にすたりはない。
- \* 女にすたりなし。

女に五障三従あり

：女は生まれつき五障と三従を身に備えているということ。

女の旅は十里を出です

：昔、種々の制約から女が長距離の旅ができなかったことを言う。

女やもめに花が咲く

：女が末亡人になると、かえって身の回りがきれいになり、男たちからももてはやされる。

女の供は年寄りの役

：若い男が女の供をすると、誤解されやすいのでいう。

女は会釈に余れ

：女は大いに腰を低くしておじぎをするのが良い。

女に袴、男に振り袖

：まったく似合わないことのたとえ。

## 7

子供を持った母親が、強くなるのは、いつの時代も同じであろう。しかし現在では子を愛すことのできない母親もいるが、基本的に母親のこどもに対するパワーははかり知らないものがあると思う。

女の子は女に付く

：夫婦が離婚する場合、女の子は母が引き取る定めであった事を言う。女の子は母に従う。

女は母親の育て柄

：女の子は母親の育て方でよくも悪くもなるの意。

女は弱しされど母は強し

：子供を守ろうとする母親の強さをいったもの。

女七部に男三部

：家庭での子供への感化力は母の方が父より強い。

## おわりに

分析を通して思ったことは女に関することわざはだいたい三つに分けられるということです。一つは、時代を感じさせる、女は男に従うものという少々反発したくなるようなことわざです。昔の女性は男性に比べ、とても低い身分として扱われていたことが感じられます。

例えば：

夫に付くが女の道

男は松、女は藤

女は三従

女は男に従って、男によって生きていかなければならない、たよらなければ生きていけない、というのは、現在ではとても言えないことです。現在は女性の社会進出が進み、家庭で夫の帰りを待つことが、妻の役割ではなくなってきています。女性は男性と同等になってきているのです。

二つめは女の誘惑に関するものです。

例えば：

女は魔物

女のえくぼには城を傾く

女は地獄の使い

恋愛において、昔の女性は悪者にされやすいということを感じます。現在はもし、恋により何か事件が起っても昔のように女の人がすぐ悪いと言うようにはならないと思います。ただ、昔の女性も今の女性も恋愛では男性より積極的で一生懸命なのは共通していると思います。

例えば：

愛の道には女賢しい。

三つめは、今の女性に共通すると感じられることわざです。

例えば：

女三人寄れば姦しい

女三人寄れば着物のうわさをする

女は口さがないもの

女の立ち話騒動の元

昔から女性のおしゃべりは有名でその内容はうわさ話か、ファッションのこと。これは今の女性も変わらないと思います。テレビではワイドショーが、雑誌では女性向けのファッション誌が数多いことから、今も昔も女性はいわさ話とおしゃれには興味を持っていると感じられます。おしゃべりなのも女性の特徴として今の女性にも共通していると思います。

そして、女性が子を持つと強くなること。子が母親に強い影響を受けると言うようなことは、国や時代に関係なく、変わらないのです。

例え：

女は母親の育て方  
女は弱しされど母は強し  
女の子は女に付く  
この三つのことわざは、日本以外の国にも存在するものなのではないでしょうか。

参考文献：

- 1 尚学図書編集 『故事俗事ことわざ大事典』、小学館、1982
- 2 Ukida Saburo, A Contrastive Study on the Proverbs Related to Learning in Japanese and Modern Greek, *Intercultural Communication Studies*, VII-2, 1997-8



# 芥川龍之介の作品の登場人物にみる人間性の分析

テーウエット・サウエットアイヤラム

## 0. はじめに

芥川龍之介は日本で有名な作家の一人である。とりわけ、黒澤明監督の「羅生門」注：芥川の『羅生門』とは異なる。 という映画で、『藪の中』が取り上げられてから、彼の名前は、日本だけでなく、外国でも知られるようになった。私も、日本の作家の中では、芥川龍之介が大好きである。彼の作品の内容は、人の薄情さを描いたものが多く、広く一般に理解されやすいようである。おそらく、この人間的な本質がどこの国でも共通に見られるからであろう。

芥川龍之介の作品の中で、私が特に好きなものが二つある。一つは『羅生門』で、もう一つは『杜子春』である。『羅生門』は大正4年 1915年 11月の『帝国文学』に柳川隆之介というペンネームで掲載された。なお、『杜子春』は大正9年(1920年)6月に執筆されている。二つの作品は、多くの読者を得ているようである。そこで、本レポートでは、この二つの作品に絞って、まず、第1に主人公について描写し、第2に世界に生きる人間についての芥川の哲学について考察し、そして第3に両作品の中でシンボル化された芥川の世界観について言及したい。

## 1. 主人公についての描写

いずれの物語でも、主人公は必ず最後に何らかの新しい考えを抱くようになる。つまり、迷いから覚めて、自分の道を見出していくという方向性を持っている。

**杜子春** 杜子春は、人間の薄情さや利己心などに嫌悪を感じていた。そして、仙人に成ることに夢中になった。仙人の鉄冠子に、峨眉山の奥に連れて行かれ、「どんなことが起こっても、けっして声を出さな。」と言われる。そして、ずっと我慢出来れば、弟子にしてもらえろというのである。御殿の上の閻魔大王の前にも、どんなに鬼たちにつらい方法で虐待されても、両親が鉄の鞭で残酷に打たれても、杜子春はどうしても口を利かないつもりでいた。その間に、杜子春は、お母さんの声を聞いた。お母さんは、杜子春に対する純粋な温かい愛情を表した。お母さんのおかげで、杜子春は、自分の行動が本当に薄情で、許せないくらいの罪だと気が付いた。そして、自分が貧乏な時、他人に侮られたことも振り返って考えさせられた。二つの出来事を比べると、全く違いがない、同じ薄情さだと反省するようになって、「お母さん」と叫んでしまうのである。こうして、杜子春は自分の道を見出した。そして、物語の最後で、「人間らしい、正直な暮らしをする」という

決心が出来るようになる。

**羅生門** この物語の中で、下人が略奪するかどうかを決心するのは、もっとも最後のことである。下人は、主人から暇を出されたばかりで、これからどうしようかと迷っていた。そして、犬のように飢死しないためには、泥棒でも何でもしなくてはなるまいという考えが浮かんでいた。しかし、本当にそうするかどうか迷っていた。その行動を、積極的に肯定する勇気がなかったのである。その内、ある老婆が死骸の髪の毛を抜いているのを見た。最初、下人は、恐怖を感じた。しかし、老婆の行動を見ているうちに、しだいに恐怖感が薄れていった。その代わりに、老婆に対して激しい憎悪の気持ちが浮かんできた。そこでは、泥棒でもしようかという気持ちが消え、悪を憎む気持ちさえ抱くようになる。ところが、その老婆は、自分がこうしなければ飢死してしまうので、仕方がないと言い訳する。それに加えて、老婆が髪の毛を抜いていたその女の生きていた頃の悪事も披露しはじめた。老婆は、このようなことをしても悪いとは思わないと言うのである。こうして、老婆の言い分に納得した下人は、ついに決心して、老婆の着物を盗んでしまうのである。

## 2. クライマックスを創る女性

いずれの物語においても、女性がクライマックスを創っている。以下に、『杜子春』では、母親であり、『羅生門』では老婆である。決断の善悪の方向は、まったく逆であるが、決心させるきっかけを作るのは、いずれも女性である。しかもある程度人生を経験した女性である。

**杜子春** 『杜子春』にクライマックスを創る女性はお母さんである。お母さんが子供に対する純粋な愛を表したおかげで、杜子春は両親に対する自分の行動が本当に薄情だと気がついた。そして、薄情さというと、もう一つの出来事が杜子春の考えに浮かんできた。その出来事は、杜子春が大金持ちになった時、皆、世辞も追従もしたけれど、いったん貧乏になった時、優しい顔さえもしていなく、本当に薄情だったということである。彼の両親に対する薄情さと人々の彼に対する薄情さはいずれかということと同じ薄情だということを経験して、彼は教えてもらって、反省した。もし、その時、お母さんが何も言わなかったら、この作品の結果はおそらく変わって、悲劇であろう。即ち、悲しい結果で終わるだろう。というのは、仙人の鉄冠子は「もし、お前が黙っていたら、おれはお前の命を絶ててしまおうと思っていたのだ。」と言ったからである。それで、お母さんの役割が非常に必要で、大切である。また、お母さんの役割は何のお礼や褒め言葉なども求めず、子供のためなら、どんな苦しいことが自分に起こっても、我慢できて、何でもやるという人のパターンとして表されている。

**羅生門** 『羅生門』にクライマックスを創る女性は老婆である。老婆がそのような言い訳を聞いた後、下人も、老婆の言葉（自分がこうしなければ、飢死して、仕方がない）を使って、泥棒すると決心した。もし、その時、老婆がそのような言い訳をしなかったら、

最後の結果はおそらくこのようなことにならないだろう。従って、老婆の言葉のおかげで、クライマックスのところまで達させた。しかも、老婆の役割もこの世にいる人間の薄情さを表している。自分がやったことは正しく、誰でもこのような状況にいれば、こうしないといけないという理由を探そうとした人のパターンとして表されている。私はこのような人の別の例もを挙げることが出来る。例えば、電車に乗っている時、ほとんどの若者が老人に席を譲らない。おそらく自分も疲れたとか、他の人は譲ってあげないのに、なんで自分はしなければならないのかとかこんな風に答えるだろう。これは理由でなく、言い訳である。

### 3. 芥川の人間哲学

芥川の人間に対する考え方は、誰でも自分の利益を考えてばかりいて、自分だけ良ければいいというわがままな存在であるとするところから出発している。

**杜子春** 鉄冠子が三回目に杜子春の前へきた時、杜子春に「車にいっぱい黄金はもう要らない」と言われた。というのは、彼は人間というものに愛想がつきたからである。大金持ちになった時、皆、世辞も追従もしたけれど、いったん貧乏になった時、優しい顔さえもせず、本当に薄情だったということである。けれども、鉄冠子に、貧乏をしても、安らかに暮らして行くのかと聞かれたら、杜子春もはっきり確信出来なかった。実際、杜子春は、他人の薄情さから十分に習ったのではないか。何で満足していなかったのか。何でそのとき、まだ仙人になりたいのか。これは、自分だけのための利益を考えていたのではないかと思われる。しかも、地獄にいた時、肉も骨も鞭で打ち砕かれた両親が見えても、杜子春もじっと黙っていて、かたく眼をつぶっていた。何かを言い出したら、仙人になれないと恐れがあるということだからである。その時の杜子春も自分だけ良ければいいと考えていたのではないか。自分が仙人に成るため、自分のことだけ考えて、両親の愛などまで忘れてしまった。このポイントを見たら、杜子春も自分の利益だけ考えていると言えよう。

**羅生門** 下人も老婆もこのような悪いことをしないと、飢死をすると言い訳をした。二人ともわがままに言った。下人のように悪い目に合った人がいたら、その人は泥棒にならなければならないのかと疑問に思う。泥棒しないと、築土の下か道端の土の上で、飢死して、犬のように棄てられるのかと首をひねる。しかも、二人とも、どの程度努力して、いい仕事を探すのか。本当に頑張るのかと聞きたくなる。この泥棒の道を選んだのは自分の利己心のせいではないか。また、飢死をするかどうか、自分自身に次第のモノではないか。泥棒にしても、飢死をする場合もある。

4 .人間というものは他人の悪い点だけを観察していたが、自分の欠点を気づかなかった。いずれの物語においても、自分が悪いことをしても、気づかなかった。ところが、他人

の欠点はすぐに気がついて、耐えられないくらいだ。

**杜子春** 大金次第に人は手の平を返すように態度を変えるということから、杜子春は人の薄情さなどの悪い点をよく観察して、不満に思った。けれども、杜子春自信でも悪い点があるのに、やはり、彼も自分の欠点を気がつかなかった。彼の欠点は仙人の鉄冠子と会う前のことと会った後のことから見られる。鉄冠子と会う前に、杜子春は金持ちの息子だったが、財産を使い尽くしていたので、寝る所もないくらい困っていた。しかも、鉄冠子と会った後、杜子春は洛陽の都でも、ただ一人という大金持ちになったぐらいたくさんのお金を二回ももらった。ところが、いくら多くても、一年二年しか経たないうちに、彼は前と同じように、つかい尽くしていた。杜子春は二回大金持ち、そして、貧乏になった。一回目も二回目も彼が大金持ちになった時、人々は世辞したりしたが、貧乏になった時、挨拶一つもしなかった。二回も同じ出来事を繰り返したのに、何で、杜子春は二回目にもまだ同じ失敗をしていたのか。なんで2回目の最初から自分の欠点を戒めなかったのか。一回目の失敗からまだ十分に習っていないかったのか。毎日毎日、贅沢ばかりして、良くない人と交際していた。更に、もらった財産も短い間に、つかい尽くした。自分が仕事を稼いだお金ではなかったのに、何で使う前に、よく考えていなかったのか。他人を悪く言う前に、自分がやってきたことをしっかり考えた方がいい。

**羅生門** 下人は老婆が死骸の髪の毛を抜いているのを見た時、非常に憤って、許せないぐらい悪事だと思った。ところが、前には、下人も泥棒する道を迷っていた。自分も悪い考えを持っていたのに、何でその時、自分のことを怒らないのか。逆に、自分がそうしないと、飢死をして、犬のように棄てられると言い訳した。自分のしたことは何でも必要で、正しい。やはり、人間というものは、他の人の悪い点ばかり見て暮らしている。

5. この世の幸せは永久のものではない。手に入りやすいが、長持ちすることが出来ない。仏教の考え方を表している。

いずれの物語においても、仏教の考えが隠れている。長持ちするものは全くないということを表している。

**杜子春** 杜子春が両親と鉄冠子にももらったお金を幸せに使った時点は短い。最後に、何も無い状態に戻った。何も無い状態は人間の本质である。生まれた時にも、何も持ってこなくて、亡くなった時にも、何も持っていくことが出来なかった。何ものでも、自分のものではなく、永久のものではないということである。木と同じように、春や夏になると、大変きれいになる。実も葉っぱもいっぱい咲いている。私たちを非常に楽しませる。ところが、冬になると、一つの葉でさえも、守ることが出来ない。幸せも手に入りやすいけど、守れる人がいない。

**羅生門** 「盛んになった京都は地震とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起こって、洛中のさびれかたは一通りではない。」ということから見ると、これも仏教のことを表す

のである。この世に永久のものはなく、どんなに立派で、盛んになったモノでも、最後に、何もない状態に戻らないといけないということである。また、作品にはっきり書いてなくても、おそらく主人といた時が、下人にとって一番幸せだろう。どうしてかというと、住むところもあるし、食べるものも毎日あるからである。けれども、幸せな時間も非常に短い。

#### 6. 作名の中に、シンボルが隠れている。

いずれの物語においても、読者は作名を見るだけで、終わりの内容は想像できる。

**杜子春** とししゅんの「しゅん」は日本語で「春」という漢字で書く。この「春」という漢字を見ると、やはり季節のことを思い出す。「春」は始まり、ぼろぼろの生活や色々な苦しみが終わって、幸せな楽しい状態に入ろうとする意味を含んでいる。しかも、作品の中に、「春」の景色が三つある。杜子春が鉄冠子と会った景色なのである。おそらく、「春」の本当の意味は杜子春が正しい判断が出来るということであろう。自分が仙人になるため、鉄の鞭で打たれている両親を助けられないことには耐えられる代わりに、人間らしい正直な暮らしをする道を潔く選べたという意味も含んでいるだろう。また、名前についた「春」の漢字も、どうしても最後に幸せな結果に済むと読者に想像もさせただろう。

**羅生門** 「羅」は「魂」と「鬼」、「生」は「生まれる」、「門」は「門」で、三つの言葉を含んで翻訳したら、「鬼が生まれる門」という意味である。「鬼が生まれる門」なので、悪いことがここで起こると言えよう。そして、生まれたばかりの鬼は下人なのである。作名がこんなに悪いイメージを持っているのを知ったら、読者は恐ろしく思うだろう。

#### 7. この二つの作品から得たある事実。

**杜子春** 人の外部や姿などを見ただけで、すぐに判断することは不公平で、良くないと教えてもらった。例えば、みすばらしい瘦せ馬の形をしている両親でも、子供に対する温かく、純粋な思いやりや愛がたっぷりある。形は人間ではなくても、心は人間以上である。逆に、普通の人々のような形をしている人間は、おそらく悪いことばかり考えていて、ゴキブリ以下のモノもいるだろう。

それで、人と付き合うことは心の底を見ないといけない。

**羅生門** もし、誰でも「自分がこのようにやったのは理由がある。」と言ったら、「間違い」とか「悪い行動」などはこの世の中におそらくないだろう。皆、自分の理由があるからである。しかし、その理由は本当に正しいかどうかわからない。自分は何かをするなら、正しい道徳を生かして、それに従った方がいい。他人の言った言い訳や理由などを信じ込むのはいけない。

## 8 . おわりに

芥川龍之介は極めて優れた作家である。彼の作品を読んでもたら、彼は「人間とこの世の色々な出来事がよく理解できる」ということがわかった。それで、彼の作品はほとんど「孤独」というモノを表している。芥川龍之介は人間の孤独の承認を一生の文学的主題とした作家である。孤独を主題として、追求しつづけた作家は少ない。小説形式はだいたい、社会を描いたり、二人の人間の精神的なことを表したり、するモノである。というのは、文学に孤独を描くのは非常に難しいことだからである。能力を十分に持っていなかったら、書けないのである。書いても、その作品は嘘っぽいような気がする。

ところで、私が読んだことがある芥川龍之介の作品はいろいろある。例えば、『羅生門』、『杜子春』、『鼻』、『蜜柑』、『蜘蛛の糸』、『藪の中』、『白』などである。前に書いているように、彼の作品の特徴は、だいたい人間の欠点や孤独を表す。私が芥川龍之介の作品が好きなのはこの点である。彼の作品は読みやすいばかりでなく、この世にいる人間の事実についても教えてくれる。私にとって、作品を読むことは、楽しみだけでなく、読んだ後、もっともっと自分のことを顧みる機会を与えてくれる。最後に、これからも芥川龍之介の作品を、出来るだけ、読もうと思っている。

# インドネシア人向けのひらがな・カタカナ 教材の開発

アイ・スミラー・セティアワティ

## 1. 始めに

インドネシアでは日本語が英語について人気のある外国語となっている。言語学部のある高校及び大学で学習されている。最近では民間の日本語コースも数多く現れてきていて、日本語を勉強しているインドネシア人は年々増えてきている。

日本語はひらがな、カタカナ、漢字、という3種類の文字を使用する。日本語を勉強するならば、当然この3種の文字も勉強しなければならない。しかし、いつもローマ字を使っているインドネシア人にとっては、ひらがな、カタカナ、漢字が非常に難しく覚えにくいものである。そのため、ローマ字で表記された教科書の方が便利だと言う人もいる。そう考えることもできるが、それより難点の方が多いと思う。日本語はローマ字書きにすると、語や文が長くなって読みとりやすく、学習の効率を低める恐れがある。

現在インドネシア人用のひらがな・カタカナ教材はあまりなく、効率的な学習が困難となっている。よく見られるのは英語あるいは日本語による説明があるものである。インドネシア語による説明がないとインドネシア人には理解しにくく、勉強する時間が長くなってしまい、効率的ではないと思う。

以上の考えにもとづき、日本語についてほとんど知識をもっていないインドネシア人のためにひらがな・カタカナを興味深くかつ効率的に導入する教材を開発したいと考えた。

## 2. 現存するひらがな・カタカナ教材の長所及び短所

現在、市販されているひらがな・カタカナ教材5種類を分析した。以下それぞれの長所及び短所を述べる。

### a. 「Pelajaran Tentang Suku Kata Bahasa Jepang—日本語かな入門インドネシア語版」

長所：

- \* その課で練習するかながローマ字表記と共に示してある。
- \* その課で提出される字で表記出来る単語が紹介されており、その全てに絵が付いている。

\* インドネシア語訳が付けてある。

\* テープがある。

短所：

\* ひらがな及びカタカナの勉強の流れに問題がある。ひらがなでは、まずその課で習われる文字を紹介する。そして、その課で勉強させるひらがなを含む言葉を紹介し、正しい書き順でひらがなを書かせる。最後は練習である。カタカナでは、カタカナの書き順及び濁音・拗音を全部1課で勉強させる。そして練習である。

b. 「総合表記練習—楽しみながら練習するローマ字・カタカナ・ひらがな・漢字」

長所：

\* 中に絵が付いているため、実物及び行動を思い浮かべることができる。

\* ゲーム形式の練習があり、楽しみながら勉強が出来る。

\* 学習したひらがな・カタカナを使った言葉や文章が練習問題として組み込まれているため、この本はすでにある程度日本語を知っている学習者には適当である。

短所：

\* 表紙に何も絵が書いていない。

教科書の表紙には絵が必要だと思う。何故かと言うと読者あるいは学習者の興味を引く為である。読者はある本を読む前に始めはその本のカバーを見て、面白そうだったら読もうとする気持ちになるのではないだろうか。

\* ひらがな・カタカナの書き順が無い。

\* 50音の並べ方に問題がある。

本書の50音の並べ方はひらがな・カタカナを勉強し始めたばかりの学習者をとまどわせる可能性があると思う。詳しくは、以下の50音の並べ方を見ながら述べる。

問題点

1. 「あ」行の後に「ら」行が続くように見える。

2. 「か」行の後に「や」行が続くように見える。

3. 「ま」行の次に「ら」行が書いてある。普通は「ま」行の後は「や」行が(あかさたなはまやらわん)来るのではないだろうか。



ア	イ	ウ	エ	オ	ラ	リ	ル	レ	ロ		
あ	い	う	え	お	ら	り	る	れ	ろ		
カ	キ	ク	ケ	コ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	ヲ	ン	
か	き	く	け	こ	や	ゆ	よ	わ	を	ん	
サ	シ	ス	セ	ソ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ		
さ	し	す	せ	そ	が	ぎ	ぐ	げ	ご		
タ	チ	ツ	テ	ト	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ		
た	ち	つ	て	と	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ		
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド		
な	に	ぬ	ね	の	だ	ぢ	づ	で	ど		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ		
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ		
マ	ミ	ム	メ	モ	パ	ピ	プ	ペ	ポ		
ま	み	む	め	も	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ		

c. 「KANA CAN BE EASY—絵で覚えるひらがな・カタカナ」

長所：

- \* カバーに絵が付いていて、興味を引く。
- \* 全ての文字に絵が付いていて、その文字から絵を、絵から音を連想する。
- \* ひらがな・カタカナの書き順が付いている。

短所

- \* 練習がない。
- \* 英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

d. Hiragana in 48 Minutes

長所：

- \* 全ての文字に絵が付いていて、その文字及び音を連想する。
- \* 全ての文字がカードで出来ていて、ゲームをしながら楽しく勉強出来る。

\*一つ一つがカードになっているので、一人で練習出来る。

短所：

\*文字の書き順が付いていない。

\*練習問題が付いてない。

\*英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

e. 「ヤングのための日本語かなワークブック—JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 1—Kana Workbook」

長所：

\*書き順が付いている。

\*ゲーム形式の練習が多く、楽しみながら勉強が出来る。また記憶に残り易い。

短所：

\*英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

以上5種類の教材の長所及び短所を検討し、インドネシア人用にひらがな・カタカナ教材を作成する場合の方針を次のように考えた。

ア. 冊子状の教材ならば、学習者の興味を引くように表紙に面白い絵を書く。

イ. 楽しみながらひらがな・カタカナを勉強する事が出来るように、ゲーム的な要素を加える。

ウ. 学習者の記憶に残り易いように、面白くて覚えやすいひらがな・カタカナ導入方法を使用する。

エ. インドネシア人に理解出来るようにインドネシア語を使う。

### 3. インドネシア人用ひらがな・カタカナ教材

#### 3 - 1. 英語を使用している連想法

今まで分析した参考書の中で、KANA CAN BE EASY (Ogawa, 1990)及び Hiragana in 48 Minutes (Quackenbush 他, 1983) は、いずれも「連想法」と呼ばれる非常にユニークな方法が用いられている。これは、イメージを媒介とする連想技法である。当該ひらがな・カタカナの読みに近似した発音を含む英語の単語、及びその単語を際立たせる短い説明を利用している。

まずその媒介として使われるイメージの例をあげよう。例えば、KANA CAN BE EASY

には、「ち」では応援団の絵で（図1）、Hiragana in 48 Minutes には、「ひ」では大きく笑っている人の顔の絵（図2）が媒介として利用される。

図1 絵で覚えるひらがな・カタカナ (Ogawa, 1990)



図2 フラッシュカードの例 (Quackenbush, 1983)



「ち」については“*Chi* is a **C**heerleader.”と文章化し、「cheerleader」の「chee」の発音を強調しながら口頭練習させる。「ち」と似ている応援団員の形をイメージさせる。

「ひ」については“A huge smile. Some laughs like “hee-hee”. ひ for **hee**-hee.”という文を文字が埋め込まれた絵と共に口頭で与える。「hee」の発音を強調する。

以上のイメージによる連想技法及び言語的媒介による連想技法を用いて、インドネシア語

の単語を使って、同じような方法でひらがな・カタカナ教材を開発したいと考える。

### 3 - 2. インドネシア語を使う連想法

Quackenbush 他 ( 1 9 8 3 ) 及び Ogawa ( 1 9 9 0 ) のアイデアを参考に、すでにインドネシア語を使っている連想法 ( 甲斐切、不明 ) の一部分も借りて、インドネシア人向けのインドネシア語を使う連想法を案出した。それは、ひらがな・カタカナの読みに近似した発音を含むインドネシア語の単語を利用したということである。

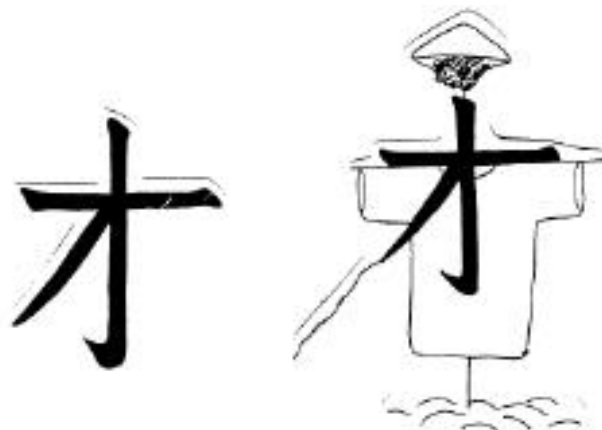
例えば、ひらがなでは「わ」については *wayang* ( インドネシアの伝統的な人形 ) という単語を使って、「wa」の発音を強調する。

カタカナでは、「オ」については *orang-orangan sawah* ( かかし ) という単語を使って、「o」の発音を強調する。( 図 3 及び図 4 を参照。 )

図 3 ひらがなの「わ」



図 4 カタカナの「オ」



### 3 - 3. インドネシア語を使った連想法を試す

この連想法がインドネシア人の学習者に役立つかどうかを知る為に簡単な実験を行った。対象は平成12年4月に来日したインドネシア人、4名であった。内2名はひらがな・カタカナの知識を持つが、残りの2名はひらがな・カタカナを学習した経験がない。

### 3 - 4. 方法

この4人のインドネシア人を2つのグループに分けた。各グループは2人組みで、ひらがな・カタカナの知識をもっている人及びもっていない人が1人ずつであった。

ひらがなの授業及びカタカナの授業をそれぞれ1時間ずつ行った。

1回目はひらがなの授業であった。Aグループには絵を使わず、1時間でひらがなの読み方を全部導入して覚えさせた。導入終了後ひらがなの読み方のテスト1を行った。数日後ひらがなの読み方のテスト2を行った。

Bグループにも同じような順序で実施したが、連想法を用いた絵を使用した。

2回目はひらがなの授業と同様にカタカナの授業を行った。ただし、今回はグループを逆にして、Aグループに絵を用い、Bグループには使わなかった。

図5 ひらがなの導入に関する実験の流れ

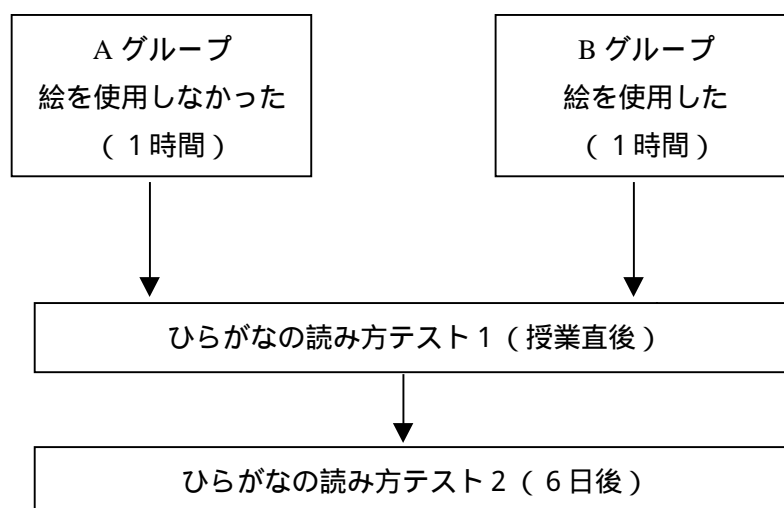


表1 ひらがなの読み方テスト問題の例

### TEST HIRAGANA

A. Tulislah huruf hiragana di bawah ini ke dalam huruf Latin yang tepat! (次のひらがなをローマ字で書きなさい。)

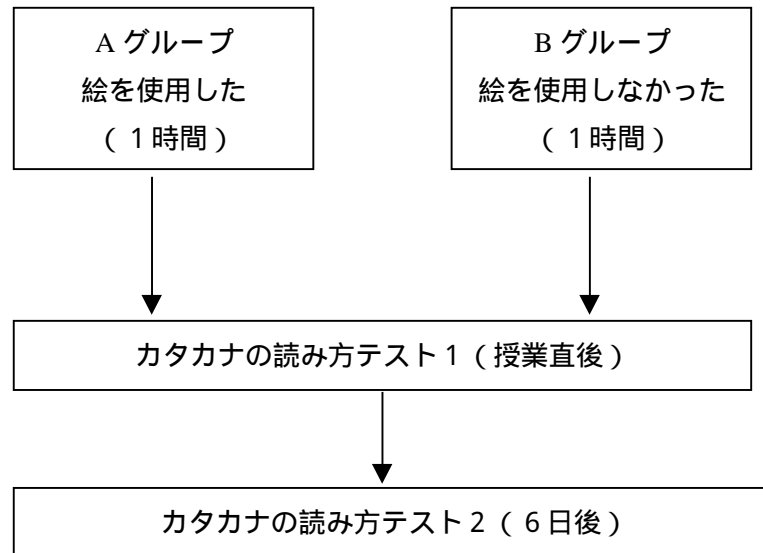
う = ..... く = .....  
ろ = ..... へ = .....  
す = ..... ち = .....  
ろ = ..... む = .....  
か = ..... さ = .....  
お = ..... ほ = .....  
や = ..... り = .....  
ね = ..... の = .....  
は = ..... な = .....  
し = ..... ひ = .....

B. Pilihlah huruf hiragana yang tepat! (左のローマ字に適切なひらがなを一つ選びなさい。)

E	=	う	え	ら
KI	=	さ	き	も
A	=	め	お	あ
KE	=	け	は	ほ
TA	=	な	に	た
MO	=	て	し	も
O	=	む	お	す
TSU	=	ち	つ	ら
ME	=	め	ね	ぬ
YU	=	よ	ゆ	や

Nama : .....

図 6 カタカナの導入に関する実験の流れ



### TEST KATAKANA

A. Tulislah huruf katakana di bawah ini ke dalam huruf Latin yang tepat! (次のカタカナをローマ字で書きなさい。)

ト = .....	マ = .....
カ = .....	ユ = .....
ク = .....	イ = .....
ン = .....	フ = .....
ロ = .....	オ = .....
ア = .....	モ = .....
セ = .....	ル = .....
ラ = .....	ス = .....
ネ = .....	コ = .....
ヲ = .....	ミ = .....

B. Pilihlah huruf katakana yang tepat! (左のローマ字に適切なカタカナを一つ選びなさい。)

MA	=	ア	マ	ム
WA	=	フ	ワ	ク
TSU	=	ツ	シ	ソ
U	=	ウ	ラ	ヲ
NI	=	ニ	エ	ユ
HO	=	オ	ナ	ホ
NO	=	ン	ノ	ソ
TA	=	タ	ク	ワ
KE	=	チ	ケ	テ
HI	=	イ	ヒ	ト

Nama : .....

### 3 - 5. 実験結果

#### 3 - 5.1 結果予想

この実験では絵を使って導入した場合のほうがひらがな及びカタカナの読み方テスト1及び2の成績が優るはずであると予想した。何故かと言えば、絵を介した連想法を使えば文字を覚えやすく、記憶に残りやすいと思ったからである。

#### 3 - 5.2. ひらがなの授業の成績

ひらがなの授業では A グループには絵を使わず、B グループには絵を使った。授業直後、ひらがなの読み方テスト1を行った。成績は予想通り、B グループが A グループより優っていた。

6日後、ひらがなの読み方テスト2を行った。成績は予想に反し、A グループが B グループより優っていた。

#### 3 - 5.3. カタカナの授業の成績

この授業はひらがなの授業と同様に行った。ただし、今回はグループを逆にして、A グループに絵を使い、B グループには使わなかった。カタカナの読み方テスト1の成績は予



想通り、A グループが B グループより優っていたが、カタカナの読み方テスト 2 の成績は、B グループが優っていた。

この実験では授業直後のひらがな及びカタカナの読み方テストは、絵を使用したグループが予想通り優っていたが、2 回目のテストは予想に反し、成績が逆になるという結果に終わった。

表 3 ひらがな及びカタカナの読み方テストの成績

名前	ひらがなの読み方テスト 1 (30 問)	ひらがなの読み方テスト 2 (30 問)	カタカナの読み方テスト 1 (30 問)	カタカナの読み方テスト 2 (30 問)	日本語歴
A	29	30	<i>30</i>	<i>30</i>	ある
B	12	22	<i>22</i>	<i>9</i>	なし
C	<i>30</i>	<i>30</i>	-	-	ある
D	<i>21</i>	<i>14</i>	19	16	なし

(注) 斜体数字：絵を使用

### 3 - 6.インタビュー

この実験が何故このような結果となったのかを知る為に、協力してくれた 4 人の学習者を対象にして 1 人ずつインタビューを行った。それぞれのインタビューから明らかになったことは次のとおりである。

#### \* A さんの感想

1. 時間的に見れば、この連想法は暗記のプロセスを早めることができる。
2. この連想法は効果的な方法である。

#### \* B さんの感想

1. この連想法はよい方法である。
2. 時間が足りなかった。1 時間で 4 6 の文字を覚えるのが大変だからである。
3. 単語に含まれたひらがな・カタカナの読み方に近似した発音は単語の巻頭にある場合及び単語の途中に出てくる場合があるから、学習者をとまどわせる。例えば、「る」には「Kanguru」(オーストラリアの特別な動物)、「さ」には「Pesawat」(飛行機)をイメージさせるようになっている。

\*Cさんの感想

1. この連想法はよい方法である。
2. ひらがな・カタカナの中には形がよく似ていて区別しにくい文字（例えば「ク」及び「ワ」）があるため、区別出来ない場合もある。この連想法のお陰でそういった似ている文字を区別出来るようになった。

\*Dさんの感想

1. 学習者の人数が少ないため、学習環境であるという気分にならない。人数が少ないと一生懸命に勉強しようとする競争がない。
2. 今はひらがな・カタカナを勉強する必要がまだないため、ひらがな・カタカナを覚える動機があまりなかった。
3. 時間が足りなかった。

以上の感想から今回実施した連想法問題点及び改良点は以下のようにまとめられる。

1. 1時間は46の文字を学ぶ為には足りなかった。
2. 学習者の人数が少な過ぎた。
3. ひらがな・カタカナを勉強しようとする動機付けは暗記力に影響を与える。
4. ひらがな・カタカナ発音が全部インドネシア語の単語の語頭に出てくるようにした方がよい。そのため全部が単語の巻頭に出てくるように統一した。「る」は「Ruby」(Hiragana in 48 Minutes、Quackenbush 他、1983)、「さ」は「Sapu」(箒)に書き直した。

今回の実験は対象が4名と非常に少なく、実験結果やインタビュー結果の信頼性は低い。しかし、ひらがな・カタカナを連想法によって学習する上で注意すべきことを知る助けになるであろう。

#### 4. 終わり

日本語の学習においてひらがな及びカタカナは基本である。確かに英語によるひらがな及びカタカナの紹介本はたくさんある。しかし、インドネシア語のものはほとんどみられない。そこでインドネシア人に適したひらがな・カタカナ教材を開発したいと考えた。そして新しいインドネシア人向けのひらがな・カタカナ教材を提案することが本研究の目的である。

今後、このイメージによる連想法をもっと深く研究し、インドネシアの高校生あるいはひらがな・カタカナを学習した経験がないバンドン教育大学言語学部日本語プログラムの新生を対象にして、もう一度実験を行おうと思っている。そして、インドネシア人に適

するひらがな・カタカナ教材の作成方針にもとづき、ひらがな・カタカナの教科書を作成したい。

日本語の学部のある高等学校や大学や民間の日本語のコースなど、つまり日本語を学習するインドネシア人に役に立つ教材を開発したいと希望している。

#### 分析に用いた教材

『Pelajaran tentang Suku Kata Bahasa Jepang—日本語かな入門インドネシア語版』、発行年不明、国際交流基金

『総合表記練習—楽しみながら練習するローマ字・カタカナ・ひらがな・漢字』、C & P 日本語教育・教材研究会編、1990年、専門教育出版

『KANA CAN BE EASY—絵で覚えるひらがな・カタカナ』、Kunihiko Ogawa、1996年、東京、The Japan Times

『Hiragana in 48 Minutes—Student Set』、Hiroko C. Quackenbush and Mieko Ohso、1975年、San Diego State University

『ヤングのため日本語1かなワークブック—JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 1 Kana Workbook』、社団法人国際日本語普及協会、1998年、講談社

#### 参考文献

「たのしくおぼえるひらがな」、甲斐切清子JCC (Jakarta CommunicatioClub) での授業における配布資料)

「50分ひらがな導入法—『連想法』と『色つきカード』の比較」、カッケンブッシュ他『日本語教育69号』1989年



# 「顔、心」を使った日本語の慣用語句

韓 東秀

## 「顔」を使った日本語の慣用語句

### 1. 前書き

それが望ましくないというのは確かなんだけど人を初めて見た時の第一印象は何と言っても顔によって決め付けられることが多いはず。また、人体部分の中で最も注目され、人を特徴づける部分が「顔」。「その人を知っている」と言える最低条件の一つは「顔を覚える」ことであり、顔写真は人のアイデンティティを証明するために必須となる。「顔を見せる・顔を出す」という表現も、「顔」を人を代表するものとして把握した言い方。こんなに重要な役割を果たしている「顔」という言葉は日本語の中ではどんな風に使われているのだろうか。

「顔」という言葉の持っているいろんな意味と「顔」という言葉を使っている慣用語、それとも諺にはどんなものがあるのか調べてみよう。

### 2. 「顔」の意味

人・動物の頭部のうち、目・鼻・口のある前面の部分。

「～を洗う」「～が合わせられない(＝面目なくて相手に会えない)」「～がそろ(＝顔ぶれがそろ)」「～を貸す(＝頼まれて人に会う)」

[美醜の対象として見た]顔の様子。顔だち。容貌。

「整った～」「～を直す(＝化粧をしない)」

[心持ちのあらわれた]顔の様子。表情。[接尾語的にも使う]

「いやな～をする」「～を曇らせる(＝表情を暗くする)」「人待ち～」「したり～」

面目。体面

「～にかかわる」「～が立つ(＝面目をたもつ)」「～がつぶれる(＝面目を失う)」

その社会「でよく・信用されている(知られている)こと。

「芸能界ではちょっとした～だ」「～が売れる(＝広く世間に知られる)」「～が利く(＝便宜をはかってもらえる)」「～が広い(＝つきあいが広い)」

ある物の、表にあらわれて目立つ部分。

「受け付けは会社の顔だ」

### 3 .「顔」の入った諺と慣用句

#### 1 ) 秋の雨が降れば猫の顔が三尺になる

秋の雨が降る日は、暖かくなって寒がりの猫が顔を長くして喜ぶ。秋雨の降る日は暖かいことのこたえ。

#### 2 ) 会わせる顔がない

その人に対して不義理なことをし、会いにくいほどに恥ずかしくて面目ないことのこたえ。

[ 例文 ] 「借りた本をなくして、持ち主に会わせる顔がない。」

#### 3 ) 大きな顔をする

偉そうな、横柄な態度をすることのこたえ。

[ 例文 ] 「社長になって大きな顔をしていられるのは、いったい誰のおかげだ。」

悪いことをしながら、平気な態度をすることのこたえ。

[ 例文 ] 「さんざんあくどいことをして今の財産を作ったのに、いつも大きな顔をして暮らしている。」

[ 類句 ] 大きい面をする。

#### 4 ) 顔が売れる

評判が高くなり、広く世に知られる。

[ 例文 ] 「彼女は今テレビで顔が売れている。」 「彼は大胆な行為がみんなに知れ、町内で顔が売れるようになった。」

#### 5 ) 顔が利く

人によく知られていて、便宜をはかったり無理を通したりしてもらえることのこたえ。

[ 例文 ] 「顔が利くので、どの映画館もただで入れる。」 「父は昔からその店には顔が利く。」

#### 6 ) 顔が揃う

出席すべきひとが揃う。

[ 例文 ] 「彼が来てやっと顔が揃った。」

#### 7 ) 顔から火が出る

ひどく恥ずかしい思いをし、顔を赤くすることのこたえ。

[ 例文 ] 「子供がとんだことをして、顔から火が出る思いだった。」

#### 8 ) 顔に泥を塗る

体面を傷つけて恥じをかかせることのこたえ。

[ 例文 ] 「恩人の顔に泥を塗るようなことを彼は平気でやる。」

[ 類句 ] 顔を汚す

#### 9 ) 顔に紅葉を散らす

若い女性が恥ずかしくて顔を赤らめることのこたえ。

[ 例文 ] 「恋人のことでからかわれて、彼女は顔に紅葉を散らしたようになった。」

10) 顔を貸す

決着を付けるために、頼まれて人と会ったり人前に出たりする。

11) 顔を立てる

他人の体面を保たせる。

[例文] 企画者の顔を立てて原案どおり決めた。」

12) 地蔵の顔も三度

[類句] 仏の顔も三度

(慈悲深い仏でも三度も顔を撫でられれば怒るの意) どんなに温和で情け深い人でも何度もひどいことをされればついには怒るということ。

13) 知らぬ顔の半兵衛(はんべえ)

知っていながら知らないふりをして取り合わないこと。

[例文] 「知らぬ顔の半兵衛を決め込む。」

14) 涼しい顔

自分にも責任や関係があるのに、何の関わりもないような平気な様子をしている態度のたとえ。

[例文] 「これほど損をさせながら涼しい顔でいられるとは驚いた人だ。」

15) 何食わぬ顔

自分は何も知らず、また関係がないというような澄ました顔つき、態度のこと。

[例文] 「開会の時刻に遅れたが、何食わぬ顔で自分の席に着いた。」

16) 猫が顔を洗うと雨

猫が、顔を洗うような動作で顔を擦ると雨が降るということ。

参考> 各地で言われている俗説。特に猫の手が耳を越せば雨とするものもある。

17) 顔を売る

その人の存在を良く知らせることのたとえ

[例文] 「選挙に備えて早くから顔を売っておく。」

18) 顔を出す

(表に) 表わす。[例文] 「太陽が顔を出す。」

(パーティーなどに) 出席する。[例文] 「パーティーに顔を出す。」

19) 顔を直す

女の人が化粧をしなおすことを言う。

[例文] 「彼女はいつも満員電車の中でだらしなく顔を直す。」

20) 顔が広い

ある方面に付き合いが広いことのたとえ。

[例文] 「あのひとはスポーツ界に顔が広い。」

## 「心」を使った日本語の慣用語句

### 1. 前書き

「顔」が人間の外面を表わす言葉だとしたら、「心」は人間の内面を表わす言葉だと言えるはず。「心」と言えば、人間とその他の動物の体に宿って、心理作用のもとになると考えられるものである。しかし、「心」は心理作用のうち、特に、知性より感情的な働きをするものと考えられる点で、「気」とは違う。「気がつく」とは言うが、「心がつく」とは言わず、「心を痛める」は、「気を痛める」とは言い替えられないことで説明できる。さて、「顔」とある意味では反対だと言える「心」という言葉の意味と、それを使った慣用語句を調べてみよう。

### 2. 「心」の意味

人間の体に宿り、知識・感情・意志などの働きのもとになると考えられるもの。またその作用。「～から詫びる」「～が広い」「～の病」「～の美しい人」「～温まる話し」「～の目を開く」「～が狭い」「～が変わる」「行くつもりだったけど、～が変わって行くのを止めた。」「どうもあの人の～は分からない。」「～に任せる」「～を砕く」「～を込めてもてなす」「～ある人には分かる春の風情」

芸能などの持つ、深い意味。理念。

「能楽の～」「茶の～」

### 3. 「心」の入った諺と慣用語

#### 1) 諦めは心の養生(ようじょう)

いつまでも過去の失敗を嘆かずに、きっぱりと諦めることは、心のためによいということ。

#### 2) 頭剃るより心剃れ

頭だけ剃って形ばかり僧侶になるよりも、まず心を清らかにせよ。形式だけを整えるよりも精神の修養が大切であるということ。

[類句] 衣を染めんより心を染めよ

#### 3) 浮き世は心次第

人生は、心の持ち方で悲観的にもなり楽観的にもなるということ。

#### 4) 親思う心に勝る親心

子が親の身を案じる気持ちよりも、親が子の身を案じる気持ちの方が深いということ。

#### 5) 気は心

ささやかなことでも、それは誠意の現われであるということ。

[例文]「気は心と申します。どうぞお納めください。」

#### 6) 心に垣をせよ



油断をせず、用心すべきであるということ。

7) 心を鬼にする

大きな目的のために、むごいと思いながら親しい者に対して厳しい態度を取ることのたとえ。

[例文]「彼のミスは小さいが、綱紀肅正のため心を鬼にして減俸処分にした。」

8) 心を砕く

心配して考え悩み、解決のためにいろいろと努力をする。

[例文]「劣等生にも自信をもたせようと心を砕いた。」「僕の考えをみんなにわかってもらおうと心を砕く。」

9) 心を許す

相手を信頼し、警戒しなくなって打ち解けること。

[例文]「心を許した人に裏切られることほど、つらいものはない。」「心を許して話し合える友達がほしい。」

油断すること。

[例文]「おしゃべりな人には心を許すな。」

10) 言葉は心の使い

言葉は思っていることを表わす道具であるから、言葉によってその人の考え・気持ちが分かるということ。

11) 財布の底と心の底は人に見せるな

他人にはむやみに自分の計略・手段を知らせたり、本心を明かしたりするものではないということ。

12) 見目(みめ)より心

人は、顔かたちが美しいことよりも心が美しいことが大切であるということ。

13) 心に描く

想像すること。

[例文]「私は時々自分がスターになった姿を心に描いてみる。」

14) 心に焼き付く

強く印象に残ること。

[例文]「富士山の夕焼けの美しさが今も心に焼き付いている。」

15) 心にもない

本音ではないこと。本当はそう思っていないこと。

[例文]「俺の前ではそんな心にもないおせじなんかは要らない。」

参考文献

・時事エリート日韓辞典 — YBM 時事英語社 辞典編纂室



# 日本語教育における漢字教育

金 珍実

漢字は日本語にとってもともと借用文字であり、現在もなお東アジア諸国で使われている文字だが、日本に取り入れられてから、既に千年以上の時が立ち、漢字の使い方においても訓読みなど日本独特のものとして定着してきた。漢字が日本語の文字表記の中心に位置しているだけに、日本語を学ぶことにおいて漢字の学習は欠かすことができない。そういう意味で日本語教育という分野の中で漢字教育というテーマは十分な研究対象になると思う。

外国人に対する漢字教育を考える時、日本語母語話者に対する教育とはかなりの差が出て来るのがわかる。日本語母語話者の漢字教育は小学校に入ってから始まり、義務教育の九年間をかけて行われる比較的緩やかな学習である。漢字教育を始める以前に母語話者は相当な日本語の語彙や文法に関する知識と口頭連用能力を身につけており、漢字学習は知っている言葉を漢字でどう書き表すかという文字の学習として行われる。それに対し、非母語話者の場合、漢字学習は日本語の文法・語彙などについての知識やその連用能力の習得と同時に進行するのが一般的であり、新しい漢字の学習は、新しい語彙の学習でもある。漢字の学習を文字学習としてだけでなく語彙学習としてとらえることが非母語話者に対する漢字教育の基本である。

母語話者にとっても膨大な数の漢字を覚えることの負担は決して軽くはないが、短期間で日本語を習得しようとする非母語話者にとって、例えば新聞や雑誌など一般の人々を対象とした文章に使用される文字の種類が約二千字もあるということは、気の遠くなるような話であり、より一層の精神的な負担感と、現実に個々の漢字を学ぶ時の記憶の負担が問題となる。漢字の数に圧倒されて学習を始める前からあきらめてしまったり、かなり意欲的に学習を始めた学習者が途中で投げだしてしまうということも少なくない。漢字についての先入観や「神話」が漢字学習の困難さについての精神的負担感を増大させている一面もあり、漢字の特性を実証的なデータ、分析に基づいて把握・整理し、学習者に示すことによって、漢字の特異性や学習困難なものという先入観を取り除く必要がある。また時間をかけて覚える作業がどうしても必要であることも事実であり、学習者が具体的にイメージ可能な短期目標を設定することにより学習者が達成感を得られるようにする工夫など、漢字学習を継続していくためには動機付けに対する配慮も重要である。

非母語話者が日本語を学ぶ目的は多様であり、必ずしも母語話者に準じた日本語力の習得を目指す学習者ばかりではない。会話さえできれば書き言葉の習得はまったく必要ない

という学習者から学術論文や文芸作品の読解・執筆が可能な能力の獲得を目指す学習者まで漢字学習についての目標設定もさまざまである。日本語学習の目的、学習環境、および学習ニーズを的確に把握することが日本語学習全体の設計において不可欠であり、漢字学習の設計もそれに合わせて行われる。

学習者個人の特性も漢字学習に大きな影響を与える要因である。一般に漢字圏学習者・非漢字圏学習者という分け方がされるが、中国語母語話者のように母語においても漢字を使用している学習者と、日本語学習が漢字を目にする初めての漢字学習の場合の学習者とは進捗度などにおいてまったく異なる。また、図形認識など視覚情報処理に優れた学習者、理論的・体系的学習を好む学習者と感覚的・体験的学習を好む学習者など、個性ともいべき学習者の特質と母語の習得をはじめとするそれまでの学習経験によって形成された学習スタイル、また学習観の違いも学習にかかわる重要な要因である。

このように非母語話者の漢字学習は多様性、個別性を持っているので、それぞれ分けて考えて見よう。

## 1. 学習対象の違いによる区分

### 非漢字系学習者の場合

漢字について特に難しいと感じるのは、母国語として漢字を使っていない非漢字系学習者の場合である。彼らは時に恐怖症に陥り、日本語の学習そのものを放棄することにもなる。彼らにとって文字と考えられるのが、表音文字だけだからであり、日本語の場合は平仮名・片仮名がこれに当たる。それに対して、漢字というのは、全く想像を絶する存在になってしまう。もしも表音文字のようなものを文字だと思い込んでいたとしたら、漢字は確かに文字ではない。西洋言語学によれば、文字は音声表現を写すものだという。その立場でいえば、言語の本体は音声表現のほうであって、文字表記はそれに付随する存在にすぎない。したがって、文字を見て音声化するのは当然であると考え、漢字を見て音声化できないときに不安を感じる。しかし、漢字はそのような文字ではないのである。漢字は意味を持っているから、音声化できなくても意味の分かることが多い。漢字の使用に習熟してくると、書かれた語の意味がその漢字表記から類推できるようになる。日本人は一般に新聞を黙読しているから、正しく音声化できない場合も多いが、漢字表記語を見て意味が理解できている。しかし、ローマ字を見て音声化できても、それだけで意味が分かるわけではない。文字を見て音声化できるのと意味が分かるのとどちらが役に立つかといえ、それは意味が分かるほうである。

漢字を見て意味が分かるということは、漢字が、文字ではなく、図形だということである。ドアに書かれた赤い女の図形を見て、こっちが女子用だと知ると同じである。「鳥」という漢字を見て、あの羽のある生き物を知ることができれば、それでよいのである。この図形がトリと読めるのは、「鳥」という図形の表わす意味に当たる日本語が「と

り」だからである。同じようにして、「鳥」という図形を見てこれを「bird」と読んでもよいわけである。

実は、このような形で用いる図形は、他にもある。算用数字の「1・2・3」などである。これは意味だけを表わし、読み方はそれぞれの言語によって異なる。それと同じように、「鳥」という漢字は意味だけを表わし、読み方はそれぞれの言語によって異なることになる。非漢字系の学習者に対しては、まず、漢字が図形だということを納得させておかなければ、先へは進めないのである。

#### 漢字系学習者の場合

母国語として漢字を使っている漢字系学習者の場合は、非漢字系の場合と異なり、漢字恐怖症に陥ることはない。しかし、同じように見えても、いろいろと異なるのである。漢字というのは、形（字体）・音（読み方）・義（意味）を持つが、そのすべてにわたって「ずれ」がある。

まず、字体であるが、母国語として日本の旧字体に当たるものを用いている場合は誤りとはしないのが普通であるから、非常に有利である。これに対して、母国語として簡体字を用いている場合は、多少事情が異なっている。簡体化されなかった漢字で日本が簡体化した場合と日本が別の形に簡体化した場合には問題になる。ただし、いずれの場合も、母国語で漢字を用いているために、漢字の字画を識別する能力が十分に身についている。したがって、新出に当たって、その字画を正しくとらえ、記憶の中に定着させることが容易である。この点は非漢字系の学習者に比し、著しく有利な立場に置かれるわけである。

次に意味であるが、中国語の漢字が意味を持っていて、その意味が韓国語や日本語で、基本的にはそのまま受け継がれている。しかし、日本語の学習に当たって漢字表記語の意味が母国語としての韓国語や中国語と同じだと思いつくのは危ないと言える。歴史の流れとともに、それぞれの言語において漢字・漢語の意味に変化が起こり、そこに「ずれ」が生じている。日本語の「工夫」が韓国語の「勉強」の意味を持ち、日本語の「勉強」が中国語では「いやいやする」の意味を持っている。したがって、日本語教育の立場ではこういう場合が落とし穴になるのであり、要注意である。また、日本語の場合、独自の漢字を造り、独自の漢語も多くなっている。

しかし、母国語と異なるとはいっても、その成立事情を知ればそれぞれの語の日本語としての意味を記憶の中に定着させることはそれほど困難ではない。問題は漢字・漢語の読み方である。読み方こそ漢字系の学習者を最も困らせるものである。中国語も韓国語も、漢字の読み方は原則としてそれぞれの漢字について一つであり、いわゆる字音読みである。これに対して日本語の場合は、字音のほかに字訓がある。字音にも漢音・呉音・唐音・慣用音があり、字訓にも正訓・国訓・人名訓・地名訓があり、とにかく複雑である。その中では読み方が二つや三つに限られているものもあり、「下」のように何十種類の読み方を持つがわからないほどのものもあるが、その点では、慣れてくると漢字書きの方がかえっ

て漢字表記語の意味を関連させ、体系立て、覚えやすくなり、理解しやすいと思う。

#### 子供に対する漢字教育

日本語教育はこれまで成人に対する教育を重心に展開してきており、これまで述べてきたことも、主として成人学習者に対する日本語教育における漢字教育の問題である。しかし、1990年ごろから日本国内の小学校、中学校等における日本語を母国語としない子供たちの受け入れ数が急激に増加し、学校現場はそうした子供たちへの対応に迫られている状況にある。学校教育の中での日本語教育は、口頭コミュニケーション能力だけでなく、各教科の学習の基礎となる日本語力、具体的にはまず各教科の教科書が読める力をつけることが求められる。そのため、漢字学習が日本語学習において大きな比重を占めることになっている。

子供の場合、年齢によっては母語が確立していることを前提にすることができないこと、認知的発達過程にあること、さらに学校教育の中での日本語教育は短期間のうちに日本人の子供たちが主流である授業に合流していかなばならないことなど、非母語話者といっても成人の学習者とは異なる要因があるため、成人に対する日本語教育をそのまま応用することはできない。漢字学習に関してもこうした違いを指導に当たって十分考える必要がある。

子供の漢字学習は語彙学習の側面に加え、さらに概念の獲得という側面を考えなければならない。ある漢字語彙を学習する際、成人の場合は日本語としては新しい語彙であっても母語においてはその概念が既に獲得されていることがほとんどである。例えば、「経済」という漢字語は、成人向けの日本語教材には比較的初めのころにもよく使われている。それぞれの漢字の字形は多少複雑であり、「経」「済」個々の漢字の意味から「経済」という単語の意味の理解を導くことは困難であっても、言葉としてとらえると決して難しい単語ではない。その概念を既に母語において身に付けていれば、母語を日本語に置き換えれば済むのである。しかし、母語においても「経済」という言葉の意味を理解していない年齢の低い子供にとっては学習することが非常に難しい。

漢字の学習が新しい概念の理解を意味するということは、母語話者の子供の場合でもあり得る。しかし、新しい概念を理解するために十分に日本語を駆使することができ、また緩やかなペースで学習を進める母語話者とは比較できないほどの負荷が非母語話者の子供にはかかると考えられる。

次にシラバスと学習活動の二つの側面から指導に際して重要と思われる点を述べよう。

## 2. シラバスと学習活動

### (1) 漢字教育のシラバス

母語話者に対する漢字教育が、学校教育の中で学習指導要領に基づく学年配当表に沿って一律に行われるのに対し、多様な学習者を対象とした日本語教育ではどのようなシラバ

ス（学習項目の総体）に基づいて教育を行うかという、シラバスの作成そのものが各教育機関や個々の教師にとっての大きな問題である。

漢字教育のシラバスを考える場合、大きく二つの側面が挙げられる。

一つは常用漢字や教育漢字のように、どの漢字を学習するかという観点で漢字の字種と読み方を選定するシラバスであり、一般的には漢字リストの形で示されるものである。もう一つは漢字について何を学習するかという観点で作成する漢字の特性についてのシラバスである。漢字の字形、音声、意味の各要素の結び付きを認識できるようにすることに加え、日本語の文章において漢字がどのように使われるか、その漢字を用いた語彙の意味や用法が学習項目にあふれかえっている。

多くの時間と努力が必要な漢字学習においては、限られた時間で最大の効果を上げるために適切な学習漢字の選定が重要である。

一般的な日本語の文章に使用される漢字の目安ではあっても、常用漢字の約二千字の塊を初めから目標として示したのでは学習意欲を失う可能性が大きい。漢字学習意欲の維持のためにも、学習者のニーズ領域について、実際の漢字の使用状況に基づいて漢字リストとしても細かい学習ステップを設定し、どの程度の努力によってどれだけの効力があるかについての見込みを学習者が得られるようにする必要がある。

学習漢字の選定の例としては、非母語話者向けの漢字教材に、幾つかの具体的なリストをみることができる。日本語における実際の漢字使用状況のデータを基本に、漢字の特性を理解し体系的な漢字学習の基礎知識を得るために必要な「基本漢字」の選定を意図したものと、学習者が目にする漢字を日常生活場面ごとに整理し、現実の文脈と漢字学習を結び付けることで動機付けや学習者の負担感に配慮したものなど、教材によって選定の視点は異なる。従来、漢字は主教材の文章に使われた順に提示されるというように付属物的に扱われていたが、漢字の構造、機能を中心としたシラバス、場面を中心として作成したシラバスなど対象とする学習者に合わせて学習漢字の選定を行った教材が増えつつある。

漢字の何を学習するかということも、学習者ニーズに応じて多様な選択が有り得る。例えば日本で暮らすための日本語コミュニケーション力を付けることが緊急に求められる学習者に対して漢字指導を行うとき、日常生活場面の中から最低限の学習漢字を選ぶと同時に、それらの漢字の扱い方も厳選しなければならない。自分の住所を表記する漢字のように読めて必要のあるもの、日付や曜日、時間に関する漢字のように意味が理解できただけでなく言葉として覚えておく便利なもの、「円」のように値段を表わすことが分かればよいもの、「氏名」のように意味が理解できればよいもの、「非常口」「化粧品」のように一塊で記号として認識できればよいものなど、漢字あるいは単語によって必要な情報、扱いは異なる。また、日本語の文献を読むために体系的な漢字学習を目指す学習者であっても、書くことに関してワープロ使用が前提であると考えれば、同音の漢字の中から適当なものを選択する能力さえ身に付ければ良いとも考えられる。漢字は、ある程度の時間を

かけて繰り返し学習する努力が必要であるからこそ、学習者にとって、何のためにその学習が必要であるか、今学んでいることが何の役に立つかが明確であることが重要である。筆順を例にとっても、それが正しい書き方だと決まっているから、あるいは字が美しく書けるからなどという観念的な回答だけではなく、手書きの崩した文字を読むには筆順の知識が必要であることや、筆順を覚えることは漢字の辞書を引くために重要な情報である画数を正しく数えられることに結び付くなどといった実利的効果を示すことが、学習者にとって学習計画についての判断を行うための有効な情報提供となる。情報が適切に与えられてこそ、学習者は自分の学習の諸条件に照らして、そのことにどれだけの力を注ぐ価値があるかを判断することができるのである。

母語話者にとっての漢字学習の概念や経験をそのまま持ち込んで、読みや筆順についての情報が与えられ、何度もそれぞれの漢字やその漢字を使った言葉を書く練習を繰り返すといったことが中心となった学習は、多くの学習者にとって効率が悪く、語彙学習として必要な情報が不足した学習である。学習した漢字がどのような熟語を構成するか、同じ漢字が使われている類義の熟語はどのように使い分けられるのかなど、日本語としてその漢字がどうつかわれるかについての学習があってはじめて非母語話者は漢字を使うことができるのである。

### 3 . 漢字の特性による学習法

学習者の日本語力向上のために、漢字の特性をどのように整理し、体系的漢字学習を構成することができるかについて、漢字の特性を字形の複雑性、表意性・多義性、表音性・多読性、表語性、造語性という五つにまとめることができ、各特性について次のような学習項目が示されている。

字形の複雑性を克服するために

- ・ 漢字の筆順、画数の数え方
- ・ 漢字の字形的構造（部首、音符、その他の構成要素）による分類
- ・ 漢字の造字成分への分解

字形と意味との結びつき、漢字の多義性を教えるために

- ・ 象形文字、指事文字、会意文字などの字源の説明
- ・ 漢字の字義による分類（グルーピング）
- ・ 漢字の意味的な構造（部首）による分類
- ・ 漢字の中心義と派生義
- ・ 類義の漢字と類義語
- ・ 反義の漢字と反義語

字形と音との結びつきを教えるために

- ・ 漢字の音訓の読み分け



- ・形声文字の音符
- ・同音の漢字、同訓の漢字
- ・日本語の漢字音の特徴  
漢字語と意味・用法との結びつきを教えるために
- ・形容詞や動詞の漢字の送り仮名
- ・漢字語の用法（品詞）別の分類
- ・漢字語の意味・使用場面による分類
- ・文脈による漢字語の読みの類推
- ・文脈による漢字語の選択  
漢字の造語性を教えるために
- ・漢字の接辞的用法
- ・漢字熟語の意味的な構造（語構成）
- ・漢字熟語の造語成分への分解
- ・複合語のアクセントや連濁などの音変化

これは、いわば母語話者に準じた日本語力の獲得を学習目標とした体系的漢字学習のシラバス案であり、漢字という側面から語彙、文法、読解、音声の学習に踏み込み、日本語力全般の強化を目的としたものである。もちろん、すべての学習者においてこうした母語話者に準ずる日本語力習得が目標となるわけではなく、学習者の諸条件によっては極めて限定的なシラバスを採用することも当然ありうる。しかし、漢字の学習を漢字という文字の習得という範囲ではなく、総合的な日本語力の向上にどうつなげられるかという視点は、どのような学習者に対するシラバスであっても必要な視点である。

#### 4．どう学ぶか - 漢字学習活動 -

象形文字を中心とした漢字の絵画的イメージの面白さや分かりやすさも漢字学習全体に応用できるものではなく、部首などの知識も漢字の知識が一定量蓄えられてからでないとし、新しい漢字の読みや意味の推測には結び付けることができない。漢字学習の努力を続け、200字、300字という漢字を学習した段階では漢字の知識が実際の日本語の文章理解に必要な応用力としては発揮されず、学習の効力感が失われてしまうというボトムアップの視点だけでは、漢字の知識がある程度の蓄積量に到達するまで、学習用の教材は読めても、現実の文章となると未習の漢字が多いために読めなくなってしまう。実際の日本語使用場面で学習が生かされる経験こそ、学習動機の維持・高揚に効果をあげるものであり、個々の漢字を覚えるという活動は、学習動機の面でも重要である。口頭言語能力に関しては、現実のコミュニケーションを意識した学習活動設計が浸透してきているが、漢字学習についても実際の日本語使用の文脈を活用した指導が行われるべきである。

文章全体としてどんなことが書かれているかを、言語知識と合わせて文脈（筆者や対

象としている読者についての情報、レイアウト、写真や挿し絵など非言語情報も含め、広い意味での文脈) 情報を活用することで理解し、そこから漢字で表記されている語彙の意味をとらえるというトップダウンの処理を行う活動は、個々の漢字や語彙の意味・用法の理解を深めることが期待できる。また、分からないことにとらわれず、分かることを最大限に利用して理解および学習を促進するというストラテジーの意識化をもたらす。学習者の日本語力に合わせて相手側が日本語使用を調整することがある口頭コミュニケーションと違い、書かれた文章についてはそうした調整ができないため、文脈を理解に生かすストラテジーの使用がより強く求められる。

ストラテジーは漢字学習活動の重要な観点である。漢字学習の重要な要素である記憶作業は学習スタイルやストラテジーの個人差が強く現われるところである。ある漢字を覚える方法やそれにかかる時間は個人によって異なり、そうした学習者の個性に配慮することが学習成果にも影響する。より適切な学習方法を選択し得るように、多様な学習方法やストラテジーを学習活動に組み込むことが教師の重要な役割である。また、長期にわたる学習の継続が必要である漢字学習においては、教師の指導を離れたところで学習者が個々にどう学習を展開していくのかが大きな鍵となる。自ら学ぶべきものを見つけ、必要な情報を手に入れるためのさまざまな手がかりを豊富に持つことによって、教室外のあらゆる場での経験を学習につなげることができるという自律的学習の発想は、漢字学習にも適用されるべきものである。辞書の活用はもちろんであるが、周囲の日本人の協力を得やすくする工夫やマスメディアからの情報を活用することなど、漢字学習ストラテジーの獲得が漢字学習活動の設計において意識されるべきであろう。

最近国際化という言葉をよく耳にするように、学問や科学技術などいろいろな分野で外国との交流が活発になり、日本国内にも、いろいろな国からの人々が研究や技術習得、事業などの目的で入って来るようになった。それぞれの必要性によって日本語を学ぼうとする学習者やその家族などを合わせると日本語学習の目的は広い範囲にわたっている。したがって、「日本語教育と漢字」という観点でとえようすると、その実情は全くさまざまであるが、日本の学校で勉強したり、日本語で書かれた書物から知識を得たりするためには、漢字の学習がどんなに難しくても、それを克服しなければならない。また日本語を上手に習得させるのが日本語教師の役割である。

## 参考文献

武部良明(1986)「日本語教育と漢字」『日本語学』5—6(明治書院)

石井恵里子(1998)「非母語話者」『日本語学』17—5(明治書院)

加納千恵子(1994)「漢字教育のためのシラバス案」『日本語教育論集』9(筑波大学留学センター)

豊田悦子(1995)「漢字教育に対する学習者の意識」『日本語教育』85(日本語教育学会)

野村雅明(1996)「漢字」『日本語学』15—8(明治書院)



# 日本語の一人称代名詞について

韓 成龍

俺は女だ。と、ある漫画のワン・カットでボーイッシュな女性が言っているが、その登場人物達に信じてもらえない。その理由は言うまでもない。そして、これを韓国語に翻訳しても作者の意図・効果は全然伝わるはずがないのである。なぜなら、もともと韓国語には(現代韓国語)「俺」とか「あたし」などという、男性と女性を使い分ける一人称代名詞ないからである。大江健三郎が彼のノーベル賞受賞演説で「翻訳は反逆だ」という話をしているが、まさにそうではないかと思う。日本語を勉強するにつれ、韓国語に訳すことの難しさをつくづく思い知らされているが、このレポートでは日本語の一人称代名詞を取り上げたいと思う。その調査方法は、漫画や小説の登場人物達の使っている一人称代名詞を調べることにする。

## 1. 一人称代名詞

一人称代名詞とは、「...話し手の表現はいかなる場合も話し手個人の意見であり、話し手はそのつど、自分を指示しなければならず、...話し手の自分自身および相手を指示する記号が必要になってくる。言うまでもなく、話し手自身の指示記号は一人称代名詞であり...」である。英語の場合、「I」の一つしかないように思われるし、韓国語にも二つしかないのである。それが日本語の場合、どういうわけかざっと見ただけで二桁にのぼっているから珍しい。それに今から書くのは全部、少なくとも一回以上は私が経験していることに基づくものだから死滅しているわけでもないのである。これほど多くの似たもの同士が共存しているのはなぜか。見てみよう。

## 2. 「わたし」と「わたくし」

形からして両者はよく似ている。漢字で書く場合にも「私」と書いて振り仮名のつけ方によって区分する場合も少なくないのである。まず「わたし」だが、これの最も大きな特徴は男女区別なく使える点ではないかと思われる<表1>を見ると

<表1> 「わたし」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代以上
--	-------	-----	-----	-----	-----	-------

男	—	—	20 : 1	8 : 1	17 : 7	27 : 7
女	4 : 1	17 : 11	34 : 15	7 : 4	13 : 5	2 : 1

\* 「—」は使用例なし

\* 「20 : 1」は使用例20人のなか、一人が「わたし」を使っている（以下の表同じ）  
10代以下の男性の使用例は見られなかったものの、男女ともにひろく使っていることが分かる。この「わたし」に限っては例をあげるのが無意味に思える。なぜなら、つかみどころが見つかりにくいからである。先も述べたように、男性の子供を除いてすべての年齢層で使われているのに加えて、普段は別の一人称代名詞を使っていた人までも、改まって言う時は、この「わたし」を使うほど一般性を持っているのが、その理由である。

次に「わたくし」だが、まず「わたし」を辞書で引いてみる<sup>1)</sup>と、『自分を指す言葉。「わたくし」よりはくだけた言い方』とある。つまり、「わたくし」とは「わたし」より丁寧な言い方である。従って、公の場などで、多くの人々を前に話す時などに用いるのが普通で、一般的な会話ではあまり使われてないのである。時々、上品な言葉遣いのお嬢様口調として使われている。

<表2> 「わたくし」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代以上
男	—	—	—	—	17 : 1	27 : 1
女	—	17 : 1	34 : 2	—	13 : 2	—

もう一つ「わたくし」には役割があって、むしろその方でよく使われているのでは、と思うのである。それは、一人称代名詞としてではなく、公の反対の意味での「わたくし」で、「わたくし事」「わたくし小説」がある。

### 3. 「あたし」と「わし」

両方とも、「わたし」に似ていることからみて、「わたし」の派生語ではないかと思われるが、この二つにはちゃんとした限られた使用層がいる。まず例を見よう。

- (1) あたし、あなたと結婚するの（園児、女） 「クレヨンしんちゃん」
- (2) 困るわ、あたし人間が好きなの（高校生、女） 「うる星やつら」
- (3) あたしと取引先、どっちが大切なの（20代主婦） 「クレヨンしんちゃん」
- (4) あたし、あなたがきれいになったの（40代OL、女） 「悪女」

上の4つの文はそれぞれ違う作品からとったものである。年齢から見ると、(1)が園児、(2)が高校生、(3)は30代の主婦、そして(4)が50代の会社の幹部であり、みんな違う年齢層で、違う状況下で話をしているのである。そして一つだけの共通点と言

えば、話し手が皆、女性であることである。辞書を引くと『「わたし」の口頭語的表現。〔主として女性語〕』であって、ただしつき女性語とは書いてあるが、今まで一般の男性が使っているのを見たことはなく、いわゆるオカマと呼ばれる人に限って見られる。実際、小説で男女二人の会話がずっと続いていて、途中からわけが分からなくなったときがあったが、この「あたし」を見て混乱から立ち直った覚えがある。つまり、「あたし」とは女性語と定義してもいいのではないだろうか。

(5) あたしとつきあいたいんだって (40代オカマ) 「3x3EYES」

<表3> 「あたし」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代
男	オカマ以外なし					
女	4 : 3	17 : 5	34 : 17	7 : 3	13 : 6	—

これもまた一部の階層の人々しか使ってない「わし」である。さっそく例をみると

(6) わしとしては珍しいことなんだが、なぜか (40代、男) 「ラフ」

(7) わしはただここで休んどっただけじゃぞ (70代、男) 「ラフ」

(8) わしが黒じゃが... (60代、男) 「悪女」

である。まず年齢を見ると、(5)は40代、(6)が6～70代で、(8)は60代である。話し手が3人とも男性であって、年齢が高い。つまり、「わし」は男性の高年齢者が使う言葉であり、その辞書的意味は、『男性の老人または力士などが、「おれ」よりは少し改まった気持で使う』である。「わし」の使い方を注意深く調べてみるともう一つの特徴があらわれる。

(9) わしが何をしたと言うのじゃ (70代、男) 「らんま2分の1」

(10) なんでわしの誕生日が災いじゃ (70代、男) 「うる星やつら」

と、「わし」と言った後、普通なら「～である」「～だ」の出るところで、かなりの確率で「じゃ」が出てくる。上の5つの例文の中でも、4つがそうであって、文(5)だけが「～ことなんじゃが...」ではなく「～ことなんだが...」と出ている。実は文(5)の話し手は高校生の親であって、平均的な年齢からしてもまだ「わし」を使うには少々早いのではないかと思われる人で、個人的好みによって「わし」を使ってはいるものの、まだ老人ではないから「～じゃ」をひかえたと思われる。

以上で述べたように、「あたし」や「わし」は「わたし」と「わたくし」とは違って性別または年齢によって使い手が限られている特性を持っている。しかしそれは「こういっ

た人なら使わなくてはならない」ものではなく、一定の条件を充足した人なら好みによっては使えるということだと思う。

また「あたし」と「わたくし」を合体させたような形の「あたくし」という言葉もあるが、これは言えば「わたくし」の女性型とでも呼ぶべきではないかと思う。

<表4> 「わし」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代以上
男			—		17 : 5	27 : 14
女						2 : 1

#### 4. 「ぼく」と「おれ」

このレポートのはじめに「俺は女だ」という文を紹介したが、この文は文法的に何の間違ひもないのに、日本人から見るとおかしいと思うに違ひない。理由は簡単で「おれ」の持つ意味と「女」がかみ合わないからである。つまり「おれ」というのは『男が同輩・目下の者に対して使う一人称』と辞書にのっているように、「自分は男だ」という意を内包しているのであって、それを「俺は女だ」と言っては矛盾が出来てしまうのである。

(11) 俺はそう答えるのが嬉しかった (20代、男) 「イン・ザ・ミソスープ」

(12) そんな俺が許さん (10代、男) 「うる星やつら」

(13) 俺だっておめえとじゃやだよーだ (30代、男) 「クレヨンしんちゃん」

もちろん3つとも話し手は男性である。(10)が21歳のフリーターで何かを考えているところ、(11)が高校生で友達に、(12)が30代のサラリーマンで自分の子供に話している。次の例をみると

(14) ぼくにですか (10代、男) 「うる星やつら」

(15) ち、ちがいます。ぼくは... (30代、男) 「クレヨンしんちゃん」

(12)と(14)の、そして(13)(15)の話し手は同一人物であって、「ぼく」と「おれ」を使い分けている。聞き手は(14)が好きな女性で、(15)は子供の担任先生である。「ぼく」の辞書的意味を調べると、『感情的にはアナタのシモベに過ぎない私、の意で、もと、男子の謙称}男が同等(以下)の相手に対して使う、砕けた自称』である。つまり、「ぼく」と「おれ」は相手に対して自分の位置付けをどうするかによって決められる、男性の言葉である。

また「ぼく」にはもうひとつ違う使い方がある。



(16) ぼくたち、この家、住みやすい? (30代、女) 「テレビのCM」

(17) ぼくう、いくつ? おかあさんはどこ? (20代、女) 「クレヨンしんちゃん」

(13) は最近テレビCMでよく見かけるシーンで、男の子二人にあるおばさん質問しているところで、(14) は迷子になった男の子に迷子センターの人が話しかけるところである。以上の二つの例で分かるように「ぼく」は、名前をよく知らない男の子供に呼びかける二人称代名詞としても使われているのである。

<表5> 「ぼく」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代以上
男	13:4	30:6	20:14	8:4	17:0	27:3
女	—					

<表6> 「おれ」の使用分布

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代以上
男	13:7	30:24	20:5	8:3	17:4	—
女	—	17:1	34:1	—		

\* 10代・20代女性が「おれ」を使っているのは、作者が「オチ」としてつかっている

以上で紹介したのが現代日本語で見られる主な一人称代名詞である。これら以外にも「おら」「おいら」「うち」「われわれ」「じぶん」...のように数々の一人称があるが、いずれも方言であったり、昔の言葉であって、現代標準日本語で直接に触れる機会はないと思われる。ただ、昔を背景にした小説や漫画などで度々経験したのが上で述べたものくらいで、ここで簡単に紹介してみたいと思う。

まず「おら」は「おれは」・「おれ」の変化型で、その辞書的意味は、『江戸時代、男性が用いるのがふつうであったが、女性も使った』である。次に「うち」は『自分。わたし。関西方言で、多く婦女子が使う』であって、方言だけに「わし」の「～じゃ」のように述語などに方言と一緒に来る場合が多い。「おいら」は『おれら。われら。おれ。主に男性が用いる語』で、「われわれ」は『自分の謙称。わたくしのようなもの』の意もあるが、演説などで「わたしたち」の意で使われるのが目立つ。また「じぶん」は旧日本軍で一人称で使われたこともあったが、今は「自分」というと「おのれ」「自分自身」の意で通じるのが普通のようなのである。

## まとめ

以上で見た一人称代名詞をもう一度ここでまとめてみることにする。まず「わたし」だが、<表1>を見れば分かるように、もっともひろい使用者層を持っている。「わたくし」

とともに、普段は別の一人称代名詞を使っている人でも、改まった気持ちで話す時、または自分を控え目に表したい時に用いることが多い。男性の場合「わたし」は、プライベートな時より、仕事場などで目上の人と話す時に使っているのがほとんどであるのに対して、女性は老若関係なしに普通に使っている。「わたくし」は「わたし」よりも控え目な表現であって、日常生活より公の場で使われる例が多い。

「わし」は年寄りの男性が使う場合が多いが、女性の使用例もなくはない。

次に「あたし」や「ぼく」「おれ」はいずれも性別によって使い分ける言葉である。「あたし」は女性のほとんどの年齢層で使われていて男性は使わないのが普通である。「ぼく」と「おれ」は「あたし」とは反対に男性だけが使っている。「ぼく」は「おれ」に比べて控え目な表現である。

## おわりに

以上で現代日本語で代表的に使われている一人称代名詞を見てきた。ということは、これら以外にも多数のものが存在しているということになる。どれくらい使われているかの問題は別にしても、一人称だけではない。二人称代名詞は一人称以上に数多くのものがあって、これら一人称と密接に関係しながら使われるのである。これは一体何を意味しているのだろうか。封建社会の厳しい身分制度の名残かどうかは分からない。ただ、これだけの一人称と二人称が存在して、自分の状況、そして相手との関係によって使い分けている、しなければならない事実だけは確かである。

ここであだちこうだの批評を加えるつもりはない。ただ日本語の特色のひとつとして受け止めていただだけである。「俺は女だ」という簡単な文だけで笑えたり、話し手が自分と相手のことをどう呼んでいるかだけで、少なくない情報を得られる、というのもなかなか魅力的ではないだろうか。

## <参考文献>

あだち充、ラフ、小学館

あだち充、H2、小学館

高橋留美子、うる星やつら、小学館

高橋留美子、らんま2分の1、小学館

高田祐三、3x3 EYES、講談社

深見じゅん、悪女(わる)、講談社

臼井義人、クレヨンしんちゃん、白泉社

村上龍、イン・ザ・ミソスープ、読売新聞社東京

村上龍、トパーズ、角川書店

岩波国語辞典第5（電子辞書）

亀井孝、言語学大辞典第6巻術語編、三省堂



# 貿易の視点からみるベトナムの工業化

グエン・ゴック・ディエップ

## 1. はじめに

ベトナムは南北再統一した1975年に社会主義的経済システムを全国で導入・強化しようとした。しかしその後不利な国際情勢（カンボジア問題、中越紛争、米国の対越禁輸政策など）に加えて、非効率な社会主義的システムは経済破綻をもたらした。1980年代の半ばから、ベトナム政府は経済困難を打開し、連続的發展を実現していくために社会主義的経済システムから市場経済システムへ移行する必要があると認識するようになった。経済改革は1979年から部分的に実現してきたが、本格的・積極的に促進されたのは1986年末以降で、いわゆるドイモイ（刷新）政策はこの時期に始まった。特に1988、1989年から改革が加速された。1992年から、経済は安定し、成長率も高い水準は維持された。1994年からベトナム政府・共産党は経済危機が克服できたことを認識してきて、96年半ばの共産党全国大会ではそれを正式に宣言した。その時点からベトナムは新しい時代、すなわち發展の時代または工業化の時代に入ったといえるのである。本論では、日本の経済發展の経験を参考にしながら、ベトナムの工業化戦略の考え方について貿易の視点から検討していきたい。

## 2. 經濟發展局面と援助

經濟發展過程における産業・貿易構造の変化に関わり、經濟發展局面ということを中心に簡単に説明しておこう。

經濟發展局面の移行を重視するということは經濟發展経過を、連続的なプロセスではなく、經濟的に共通の性質を持つ一定の時期（ある局面）を経過して、さらに次の局面に移っていくということの繰り返りで經濟が發展していくというように考えているということである。それぞれの發展局面はそれぞれ特有の性質を持っていて、従って、次の局面に移行するには、それぞれの局面ごとに違った制約要因がある。その要因をできるだけ効果的に取り払うことが開發政策の役割だと考えてもいいだろう。それぞれの局面について、次の局面に移る場合の制約要因を取り払うのに、直接あるいは間接的に役立つ援助を中心にすべきだ。

貿易の構造について經濟發展の局面移行を説明すると以下のようなになる。

まず最初は、伝統的一次産品（明治の日本で言えば、生糸、茶、石炭、銅、現在のベトナムで言えば、米穀、コーヒー、原油、ゴムといったもの）を輸出して、それで稼いだ外貨でさまざまな製造業品を輸入するという形から貿易は始まる。次に軽工業品（消費財）の輸入代替工業化が開催される。これは第一次輸入代替（輸入代替というのは、それまで輸入していたものを国産で代替すること）と呼ばれる。現在のベトナムはまさにこの局面にあたる。次の段階では、伝統的一次産品の輸出に代わって消費財の輸出化が始まる。これを第一次輸出代替（輸出代替と言うのはそれまで輸出したものよりもっと労働・技術集約的、価値的な物を輸出するようになる）という。外貨の主な稼ぎ方が、一次産品から軽工業品に代わるという意味で「輸出代替」という言葉を使う。

その次の段階は重化学工業品（中間財、資本財）の輸入代替（第二次輸入代替）で、さらに消費財の輸出に代わって中間財、資本財の輸出化が始まる（第二次輸出代替）。鉄鋼のような伝統的な重工業（ロウテク重工業）と技術集約的重工業（ハイテク重工業）を区別して考えれば、第二次輸入代替、輸出代替はロウテク重工業についてのもので、1960年代の日本の工業化がこれに当たるといえる。

第二次の輸出代替、輸出代替に続いてハイテク工業の輸入代替（第三次輸入代替）が始まり、次いで伝統的な重工業品の輸出に代わってハイテク工業品の輸出化が始まる（第三次輸出代替）と考えられる。第三次輸入代替、輸出代替は完全な工業化の局面で基本的には先進国に当てはまるといえる。経済発展局面の考え方を頭において、戦後の日本の産業・貿易構造の変化を遡っていこう。

### 3. 戦後の日本の産業・貿易構造の変化：

#### 産業構造の変化

朝鮮戦争が始まった年である1950年で見ると、製造業の全生産額の2割以上を繊維工業が作り出していた。戦後のいわゆる高度成長がまさに始まろうとした1955年、製造業のなかで最も高いシェアを占めていたのは食品工業の18%、繊維の16%などである。1955年時点には、まだ食品工業、繊維工業のほうが鉄鋼や化学よりもかなり高かった。この後の日本経済を牽引していく産業になる機械工業のシェアは1955年段階ではまだ低く、一般機械、電気機械、輸送用機械のシェアはそれぞれ4.6%、3.7%、5.5%に過ぎなかったのである。電気機械のシェアは木製品、紙・パルプ、鉄鋼よりも低かったということを忘れてはいけない。もし食品工業から家具工業までを軽工業とするなら、1950年でも1955年でも、製造業の全生産額の4割以上が軽工業によって生み出されていた。5年後の1960年になるとすでに急速な構造変化の兆しが見られる。シェアの第1位が食品工業、第2位が繊維の順位は変わらないが、シェアはそれぞれ12.4%、11.2%と5ポイントほど下がっている。1955年化学工業に代わって鉄鋼が10.6%のシェアで第3位に上っているのがわかる。さらに注目すべきは機械工業の発

展で、1960年の一般機械、電気機械、輸送用機械のシェアはそれぞれ7.8%、8.3%、8.5%で5年でシェアが3～4ポイントも上昇している。1965年になると、繊維のシェアは8.8%と10%を割り、一般機械、電気機械、輸送用機械のシェアとほぼ同じ水準になったのである。このような産業構造の変化が、局面の背後にある。

1970年になると、戦前の日本経済を支えた軽工業の伝統的産業である繊維工業のシェアはさらに低下して6.4%と製造業の中の7位に落ち、それまでずっと1位を続けてきた食品工業のシェアは10.4%に低下して電気機械や輸送用機械にもう少しで追い抜

表1：戦後日本の産業構造変化（出荷額シェア）（単位：%）

	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1996
製造産業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
食品	13.8	17.9	12.4	12.5	10.	11.9	10.5	11	10.2	11.1
繊維	21.4	16.2	11.2	8.8	6.4	5.1	3.8	3	2.4	2.1
衣服	1.7	1.3	1.2	1.5	1.4	1.7	1.4	1.4	1.4	1.6
木製品	3.7	4	3.5	3.6	3.1	2.8	2.5	1.5	1.4	1.4
家具	0.7	1.0	1.0	1.4	1.5	1.5	1.4	1.1	1.3	1.2
紙・パルプ	4.0	4.2	3.9	3.8	3.3	3.3	3.2	2.8	2.7	2.8
印刷・出版	2.9	3.3	2.5	3.1	2.9	3.3	3.3	3.4	3.9	4.3
化学	11.9	11.0	9.4	9.5	8.0	8.2	8.4	7.7	7.2	7.5
石油・石炭製品	1.4	1.9	2.4	2.8	2.6	5.9	7.1	7.9	5.8	6.0
ゴム	2.4	1.4	1.5	1.3	1.1	1.1	1.2	1.1	1.1	1.1
皮製品	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3
窯業	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6	3.8	3.9	3.3	3.3	3.3
鉄鋼	9.6	9.6	10.6	9.1	9.5	8.9	8.3	6.7	5.7	4.4
非鉄金属	4.2	4.1	4.3	4.0	4.4	3.1	3.8	2.4	2.4	2.1
金属製品	2.8	3.3	3.9	4.7	5.4	5.2	5.0	4.9	5.8	5.7
一般機械	4.2	4.6	7.8	7.8	9.9	8.3	8.2	9.1	10.4	10.2
電気機械	2.6	3.7	8.3	7.8	10.6	8.5	10.4	15.4	16.9	18.4
輸送用機械	5.9	5.5	8.5	7.8	10.5	11.6	11.6	13.6	14.5	14.4
精密機械	0.8	0.8	1.1	1.3	1.3	1.4	1.6	1.7	1.5	1.3
その他	1.6	2.0	2.5	3.3	3.6	4.0	4.1	1.5	1.6	1.6

資料：通産省『工業統計表』各年

かれてしまう。一般機械のシェアも9.9%と鉄鋼の9.5%を上回るようになっていた。1970年代には繊維工業のシェアは低下しつづけ、表1に示した1996年には、繊維工業のシェアは全製造業のわずかに1.3%となった。1950年から1996年の46年間でシェアが20ポイント以上低下していった。鉄鋼業のシェアもそれまで8～11%であったものが1996年には4.4%と5%を割り込むまでに低下した。鉄鋼業のシェアの低下傾向はまさに、伝統的な重工業（ロウテク重工業）から技術集約産業（ハイテク産業）へと日本経済が移行したことを表していると言ってもいいのだろう。繊維や鉄鋼とは対照的に電気機械のシェアは1996年に18%を超え、輸送用のシェアも14%を上回ったのである。

#### 輸出構造の変化

産業構造変化と輸出構造変化が密接に関連していることはいうまでもない。表2は朝鮮戦争が終わった1953年から1996年までの戦後日本の輸出構造の変化を示したものである。1954年朝鮮戦争が終わった翌年、日本の外資獲得の4割が繊維輸出によって稼ぎ出されていた。この事実を忘れてはいけない。日本が経済高度成長が始まるころに発展途上国であったことを理解するためのヒントはここにもあると思う。1960年で見ても、その後の日本の輸出をリードする機械のシェアはまだ25%程度で、鉄鋼のシェアは10%程度のものであった。

それが高度成長真中ごろの1965年になると、はっきりした変化が見られる。繊維製品の輸出シェアは20%を切り、代わって機械類のシェアが1960年と比べて10ポイント上昇して35%を超えたのである。その中の鉄鋼輸出のシェアは15%強であった。機械類の輸出はその後伸びつづけ、その輸出シェアは1970年には46%、1975年に54%、1980年63%に上昇し、1990年には75%に達している。機械類のうち最もシェアが高いのは輸送用機械でその輸出シェアは1965年の15%から1975年には26%となり、1985年には日本の総輸出の28%を占めるにいたっていた。もちろんかつて輸送用機械の代表であった船舶の輸出は凋落し、かわって自動車が中心になってきたことは見逃してはならない。機械類のうちで輸送用機械に次いでシェアが高いのは電気機械だが、一般機械の輸出も伸びてきており、1990年のシェアは電気機械の23.0%に対して一般機械も22.1%とそれほど格差ない。

表2：戦後日本の輸出構造の変化

	1953	1964	1965	1966	1967	1970	1975	1980	1985	1990	1996
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
食料	9.4	7.6	6.2	6.3	4.1	3.4	1.4	1.2	0.8	0.6	0.5
繊維	36.1	40.3	37.3	30.1	18.7	12.5	6.7	4.8	3.6	2.5	2.1
織物用繊維	n.a	n.a	2.9	2.0	1.8	1.0	0.8	0.5	0.4	0.3	n.a
繊維製品	n.a	n.a	29.1	22.7	13.5	9.0	5.2	3.9	2.8	2.0	n.a
衣服	2.9	3.4	5.2	5.4	3.4	2.4	0.6	0.4	0.4	0.2	n.a
化学製品	5.7	5.5	5.1	4.5	6.5	6.4	7.0	5.3	4.4	5.5	7.0
非金属鉱物	4.9	4.6	4.7	4.2	3.1	1.9	1.3	1.4	1.2	1.1	1.2
金属および金属製品	15.1	15.6	19.2	14.0	20.3	19.7	22.4	16.5	10.6	6.8	6.2
鉄鋼	10.9	10.3	12.8	9.6	15.3	14.7	18.2	11.9	7.8	4.4	3.7
非鉄金属	n.a	n.a	3.3	0.6	1.4	1.3	1.0	1.5	0.8	0.8	0.1
金属製品	n.a	n.a	3.0	3.8	3.6	3.7	3.2	3.0	2.0	1.6	1.5
機械	19.5	13.5	n.a	25.5	35.2	46.3	53.8	62.7	71.8	74.9	74.1
一般機械	n.a	n.a	n.a	n.a	7.4	10.4	12.1	13.9	16.8	22.1	24.7
電気機械	n.a	n.a	n.a	n.a	9.2	12.3	11.0	14.4	16.9	23.0	24.3
輸送用機械	n.a	n.a	n.a	n.a	14.7	17.8	26.1	26.5	28.0	25.0	20.4
精密機械	n.a	n.a	n.a	n.a	3.9	5.7	4.7	7.9	10.1	4.8	4.7
その他	12.9	13.0	n.a	15.3	12.1	9.9	7.4	8.1	7.7	8.5	8.7

資料：総務庁統計局『日本統計年鑑』1998

1996年では繊維輸出のシェアは2.1%にまで低下し、「日本統計年鑑」では、繊維輸出の内訳は（繊維とか衣服）の数字がとれなくなっている。鉄鋼輸出のシェアも4%を切っている。日本の経済発展というと、サクセス・ストーリーだけ思い浮かべる読者も



いるかもしれないが、とんでもないまちがいである。戦前にも、戦後にも、日本経済はさまざまな問題に直面し、ある時はそれを上手に乗り切り、それが経済発展の難しいところだといえる。今の途上国であるベトナムにしてもまず明らかにしなくてはならないことは、ベトナムが今いる経済発展局面はどこなのか、そして直面している問題がどのようなものであって、経済発展に対する制約要因は何なのかを特定しなくてはならない。そして、次にそれらのいくつもある制約を、自分の国の中にある資源でどれだけ解決し、外国の協力をどれだけ依存しなくてはならないかをはっきりさせなくてはならないということになる。

戦後の日本経済の局面の移動過程を参考にしながら、ベトナムの産業・貿易政策について論じていきたい。

#### 4. ベトナムの産業・貿易政策について：

##### 一次産品輸出の振興：

表3：ベトナムにおける“ 顕示された比較優位 ” 指標

1991年			1994年		
ISTC 番号	品目名	比較 優位 批評	SITC 番号	品目名	比較 優位 批評
042	米穀	89.9	042	米穀	74.4
899	その他の製造工業品	32.4	232	天然ゴム	26.0
264	ジュートおよびその他の繊維	31.1	071	コーヒー	24.1
075	香料	27.9	036	魚、貝類（生鮮または冷凍）	23.3
036	魚、貝類	25.8	264	ジュート及びの他の繊維	23.1
687	スズ	23.5	075	香料	22.9
232	天然ゴム	19.7	899	その他の製造工業品	20.7
037	魚、貝類の調整品	16.5	261	絹	15.2
071	コーヒー	14.4	687	スズ	13.4
223	その他の油量種子	13.1	074	茶	9.1
261	絹	12.3	025	生鮮または乾燥卵	8.5
222	油量種子	9.0	233	その他の油量種子	6.8
025	生鮮または乾燥卵	8.5	612	皮革および合成皮革の加工品	6.8
074	茶	5.8	265	植物繊維（綿およびジュートは除く）	6.5
282	鉄くず	5.3	222	油量種子	5.5
333	原油	5.1	245	薪材および炭	5.5
679	鉄鋼（未加工）	5.0	333	原油	5.4
247	木材	4.9	291	未加工動物性原料	5.3
655	ニット織物	4.4	635	木製品	5.1
211	皮革	3.9	037	魚の調整品	4.6
322	石炭、泥炭	3.8	696	毛髪	4.6
266	合成繊維（紡績用）	3.8	322	石炭、泥炭	4.5
612	皮革	3.8	841	繊維既製品	3.7
658	繊維既製品	3.1	035	乾燥、塩づけ魚類	3.3
054	野菜（生鮮または単純加工）	2.9	851	履物およびその部品	3.2

（出所）：JICA ベトナム研究会で算出

表1には、“ 顕示された比較優位指標 ” によって、1994年時点におけるベトナムの輸

出品目の中で、比較優位指標の上位のものが示してある。この表から明らかなように、現時点でベトナムが競争力を持つ材は圧倒的に農林水産および工業部門から産出される伝統的1次産品および関連製品である。米穀、天然ゴム、コーヒー、ジュート、香料、絹、茶、卵、野菜、種子、薪材、木材、加工品、魚介類の調整品、原油、石炭、泥炭などがそれらである、これに対して製造工業品については、ジュートおよびその他の繊維、繊維既製品、履物、木製品などの労働集約的と見られる一部の製品に限られる。

ベトナムにおいて工業化を推進する過程で、予想される誘発輸入需要の増加をまかなうためにも、現時点でも競争力のある一次産品輸出の拡大による外貨獲得能力の拡充を図るのは自然な方向である。一次産品輸出の振興政策としては以下の点が指摘されよう。まず第一に、貿易の自由化がある程度進展してきており、今後さらに自由化が進むと予想されるので、多くのほかのASEAN諸国経験したような工業部門の保護が一次産品輸出にもたらした輸出阻害効果についてそれほど憂慮する必要がないことである。この点はベトナムにとって有利な点である。第2の論点はベトナム経済が移行経済であるという点に関連している。ベトナム型の社会主義的市場経済を目指して、国営企業の改革・市場原理の導入や、集団農業制度の廃止による農林水産部門への市場原理の導入などの経済改革が進められてきた。しかし、多くの分析で指摘されているように、現在のベトナムでは依然として民間部門が積極的に市場原理を利用して、生産・販売に参画していくためには規制が多く、公営企業に有利な規則が多く存在する。企業の認可基準の緩和とか、輸出許可制度、融資許可制度の廃止などによって民家の個人、中小企業がより自由に一次産品の生産、加工に制約なく参入できる制度的枠組みを作ることが、重要な一次品振興政策の一部となる。

輸出振興の一環としての中小企業振興政策として政府が行うべき政策分野は多岐にわたる。主なものとして、国際市場における情報の収集、それに基づく輸出戦略の策定、一次産品の品質の改良、国際基準への適合などが挙げられる。

#### 新たな製造業輸出部門の振興：

一次産品輸出の振興はベトナムの輸入能力を拡大はするが、工業化そのものの直接の契機とはなり得ないであろう。カナダ、オーストラリアにおける経済発展、近代化の歴史的事例もあるが、現在ベトナムに要求されている経済発展のスピードをはるかに超えるもので、この高度経済発展を実現するためには、潜在的な競争力を持つ製造業部門については、産業振興・輸出促進的な政策措置をとる必要があると考えられる。

繊維産業を例にすれば、日本の初期の輸出指向工業化の局面において、国内の繊維産業部門の生産拡大・輸出拡大がその後の急速で持続的な工業発展に重要な役割を果たしたことは衆知のところである。これに対して、現在のベトナムの繊維産業の輸出の大半は外国企業による委託加工品の輸出であり、貴重な外貨獲得源ではあるが、繊維産業の川下、川中、川上のいずれに関しても確立された産業基盤が存在しているわけではなく、国内産業

連関の広がりも限られている。

しかしながら、今日の繊維産業の国際分業体制は、日本、韓国、台湾、香港の直接投資企業による国際経営戦略の展開を通じて、すでにアジアでは確立されているように見える。アメリカ、EU、日本などの先進国市場においては、多国間繊維協定の影響が残存しており、新規参入を果たすことは容易ではない。このような状況のもとで、ベトナムにとって考えられる可能性は、先進ASEAN諸国における労働不足・賃金上昇やAFTAの実現による比較優位構造の変化に対応する多国籍企業の新たな立地展開の機会を積極的に利用することである。つまり、労働集約的繊維川下部門を中心に多国籍企業の国内移転を図り、これら企業の世界販売ルートを通じて輸出の拡大を図ることが可能と考えられる。ただし、最近のアジア諸国における為替レート暴落による混乱のため、多国籍企業の国際戦略の変更も予想され、不確定な要因が残っている。

表4：繊維産業の輸出入構造

		1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
紡績用合成繊維	輸出	8,345	1631	353	4465	4553
	輸入	65228	38573	79774	125373	183202
羊毛およびその他の獣毛	輸出	1		14	8892	4533
	輸入	1002	1399	1516	10189	14714
ジュートその他の紡績用繊維系	輸出	2998	413	2176	8470	16802
	輸入	11635			2422	1008
綿織物	輸出			451	2116	1581
	輸入				1866	8838
人造繊維による織物	輸出	3790	7630	4443	4494	39468
	輸入	32241	24386	50741	59556	97226
その他の織物	輸出			910	6461	8338
	輸入			144	1742	11182
メリアス網またはクローゼ編織物	輸出	17146	11754			2417
	輸入					13361
タオル、レース、リボン、装飾用小物	輸出		10	11	9342	
	輸入					48710
繊維による製品	輸出	17033	10892	22903	8947	
	輸入					48710
既製衣服	輸出	116800	190200	23880	475600	700000
	輸入					
合計	輸出	164143	22252	269205	528787	837326
	輸入	110106	64358	132175	201148	318587

(注) はゼロを示す

(出所) ministry of planning and investment, VietNam, report on textile and garments industry in VietNam, Feb, 1997

新規の輸出製造工業部門として可能性があると思われるものとして、電子・電気産業、自動車の部品、金型産業が考えられる。これらの産業の場合にも、繊維産業の場合と同様

AFTAの中で展開されることが予想される多国籍企業による国際分業体制のネットワークの一端を取り込むという考え方が重要である。この意味で新規の輸出産業の振興政策の主要な部分は外国直接投資を誘致する政策措置となるだろう。

#### 輸入代替的な産業の育成

新たな輸出製造工業部門の生産拡大を実現すると、それが生産財・中間財の輸入を大量に誘発することが予想される。また投資率の上昇を伴う高度成長は付加的な投資財輸入を誘発することになるだろう。中長期の視点から考えれば、持続的な工業化を維持するのに必要な産業基盤を国内に形成するための輸入代替工業化も早めに推進するべきであろう。産業ごとにいかにして、「効率的輸入代替」を進めるべきかについては、ここでは次の2点を指摘するにとどめたい。

第1に、輸入代替産業の育成についても、AFTAないしはより広い国際市場における多国籍企業における国際分業ネットワークの展開に参画することによって実現する可能性があるということである。第2の論点は、輸入代替工業化の効率性にかかわっている。つまりベトナムの初期条件のもとで輸入代替的な産業を育成していくためには、育成すべき各産業を川上、川中、川下部門に分割し、それぞれの資本集約度、投資額の規模、投資のタイミング、国内需要の見込み、規模の経済性の実現可能性などを慎重に考慮して、川上、川中、川下を選択して実行するべきである。この点に関する意図を多国籍企業に対して明確に伝えるために、法人税の減免、補助金の付与、インフラ整備の実施などのインセンティブを明示することが重要である。結果として多国籍企業の参加が得られない場合には計画の見直しあるいは計画を中止する態度が必要である。

## 5 . 結び

市場システムの未成熟やインフラの未整備などのさまざまな隘路を抱えるベトナムにおいては、貿易自由化のみによって工業化を推進すると考えているのは現実的ではない。一方、国際経済自由化が目まぐるしく進んでいる中で、保護貿易政策によって国内産業の育成を図る工業化政策を長期的に実現するのは困難であろう。

中長期的な工業化のために、グイエトナム政府は内外情報の収集、伝達の改善、製品の基準化、流通、輸送のネットワークの拡充などのインフラ整備に加えて、外国企業の直接投資を誘致、利用すべきであろう。また外国企業に対して、国内の投資環境の整備とともに税の減免、規制緩和などのより魅力的な外資制度を導入する必要がある。

#### 参考文献

ベトナムの市場経済化（貿易産業政策）東洋経済印刷  
ODAの経済学（経済発展と局面移行）日本評論社





# いじめ問題についていろいろ

王 茜

## 序文

暴力といえば、頭の中に映る映像はやはり戦争、暴力団、薬物乱用、暴走など一連の大人世界の問題である。しかし、学校という相対的に閉じた空間のなかで子供たちのあいだで密かに行われていた一種の「生けにえの儀式」が深刻化し、もはや学校空間には収まり切れないくらいの現象として浮上してきた。それは、子供たちの「いじめ問題」である。もちろん、それは日本だけの問題ではなく、世界中どの国でもいじめ問題がある。

いったいどういうことがいじめといえるか？まず、「いじめ」を簡単に定義してみよう。

それは学校において複数の生徒たちが、一人ないし少数の生徒を標的として特定化し、その標的に対し繰り返し、反復継続して有形、無形の暴力をふるうことである。

この定義で重要なこと：

- 1、複数の多数者が特定の個人（少数者）を責めるという集団的行為であること。
- 2、反復継続性つまりいじめプロセスと併せて暴力の多様性をもつこと。
- 3、いじめられる、いじめるの関係は一方的に補完的であるということ。すなわちいじめ側の複数といじめられる側の一人（少数）はただ分断されるのではなく、いじめという現象を反復継続的に成立させるために、いじめられる側は標的の位置をとり続けるように強要されるのである。しかし、いつも同じグループの成員と見られ、いじめ問題がなかなか発見されにくい。

いずれもいじめ側といじめられ側の子供たちは、いじめ問題に陥るまでには、必ず、多くの要因が複雑に絡み合っているため、本稿でまず、いじめ問題の実態を述べ、その原因を分析し、さらに対処方法と改善策を検討したいと思う。成長過程にあって、いじめと悪戦苦闘する子供たちへの応援にするつもりである。

## 一、いじめ問題は主に存在する範囲、主な方式。

### (1) 幼稚園で見られるいじめ

幼児期は まだ独立した意識や主張を形成しておらず、感情も未分化な状態に置かれているため、この時期のいじめっ子は ただテレビの人物あるいは自分の親をまねし、むやみに相手をやっつけるくらいの原始的な攻撃行動をとりやすく、そして、相手に与える痛みを共感できる気持ちは、まだ十分に形成されていないので、その時期において

さえ、いじめという差別意識の芽が子供の心の中に生みやすい。しかし、その時期のいじめは学校に発生する事件よりそんなに酷くないし、すぐ仲直りするかもしれないし、大人たちは、ただの子供の喧嘩と見なし、無視する可能性もある。更に いじめっ子の親にとって、「うちの子は元気で強いなあ。」と嬉しくて楽しんでいることも多い。実はそれを通じて、子供に「自分より弱い人を殴るなんか大丈夫だ。そして、褒められるかも。」という危ないメッセージを伝え、偶然発生した一時的ないじめは たぶん 自分の力を示すための癖になるかもしれない。しかし、その時期の子供は、身心の未熟性によって、自分の周りの大人に深い依頼感と信頼感を持って、親からのあるいは保育員からの諭を十分受け入れられるのである。それゆえ、幼稚園時期のいじめは もし大人の関係者がもっと注意を払えば、十分抑止できるはずだ。

## (2) 小学校でみられるいじめ

小学校のいじめは、いくつかの特徴がある。まず、精神的、性格的な理由に基づくいじめより、身体的(体力的)な理由によるいじめが数多い。例えば、太っているとかが、顔にアザがあるとかの外見上の欠陥を攻撃の対象とし、アダ名をつけて、はやし立てたり、集団で面白半分に殴る蹴る、拳に出ることがよくある。

次に幼稚園の時のいじめと違って、集団で一人(少数)の子供を標的とし、くりかえして暴力をふるうことが多い。手段も単純な攻撃活動から、持ち物を取り上げたり、隠したり、汚したり、時には、金品を強要することもある。つまり、陰湿化の傾向が出る。以上、いじめの具体的な手口について挙げてみたが、小学生の場合、社会的な考えや対応方法がいまだ未熟で未発達であるために、ちょっとしたトラブルで、感情の統制がとれなくなり、相手に暴力で訴える傾向が見られる。特に、小学生の友達のつくり方は接近性の原則(身近にいて、いつも顔を合わせる人と親しくなりやすい傾向のこと)によって成り立っており、中学生のように性格や考え方の似た者同士が友達になれるということわりと少ない。その原則に基づいた友達関係に、親愛の情を示すためのふざけとしてのいじめは、仲直しもしやすいという側面もある。

## (3) 中学校でみられるいじめ

中学校のいじめの場合は、ちょうど思春期の年齢層に符合しているために、「攻撃行動」のうえに、「性衝動」も、いじめの要因としては強いといってもよいかもしれない。したがって、小学校でみられるいじめより一層に集団化、陰湿化、悪質化している。よくあるのは、小学校時代のいじめられっ子が、逆転していじめっ子になるケースである。これは無意識のうちに過去の恨みを報復する一面がみられる。小学校と違って中学校の場合、比較的、精神的な理由に基づくいじめが多いということがいえる。それぞれの事態はすべて13—15という独特で不安定な年齢層によって起きる。中学生の場合は小



学生当時の自分より家族への依頼性、先生への服従心から脱却して自分の意識、主張に気付き、はじめて子供の世界から離れ、自分を大人の世界に進めたがる心理に支配され、さまざまな「独立活動」を始める。この時期は家族以外の他人を意識し始める時期であるだけに、自己中心的な振舞いをする事が多い、人間関係に基づいてさまざまな摩擦や葛藤を起しがちであろう。しかも、学校の受験体制をめくり、はじめて成長の圧力を感じて、トラブルに巻き込まれやすい状況である。またいじめの態様は特定の子に集中、固定化し、長期にわたる傾向もこの時期の特徴である。

#### (4) 高校でみられるいじめ

高校になると、小、中学校と比較して、いじめの件数はかなり少ない。恐らく、高校生は中学生より精神状態がさらに成熟し、そして、大学入学試験も近づき、勉強に集中しなければいけないからであろう。高校は小、中学校と違って管理がそんなに徹底的しておらず、学校に適応できなかつたり、居づらくなつたりすれば、自分の意志によってさっさと退学できるという逃げ道が用意されているということも要因の一つであるかもしれない。高校のいじめには幾つかの特徴が指摘できる。まず、いじめっ子の言動はヤクザ的で、抵抗しようなら、さらにいじめの執拗さは激化するために、いじめられっ子は絶えず戦々恐々としていなければならないのである。次は、この時期のいじめっ子は、小、中学校に比べて欲求不満や挫折感など心理的葛藤を深く抱え込んでいることが多いため、いじめの手口も幼稚っぽく大胆であり、いじめられっ子にとっては死を選択するほどのダメージをうけてしまう場合がよくある。その暴力傾向が強くなるにしたがって、小、中のようにいじめがとりもつ縁で仲良くなるという例はほとんど見当たらなくなる。最後に、上級生が訓練の名を借りて下級生に対していじめ的な暴力行為を行うことは少なくない。運動部での仲間割れや先輩間の派閥争い、それに伴う後輩へのしごきはもはやいじめとってよいであろう。

#### (5) 大学でみられるいじめ

大学のいじめは いままであまり社会、教育者の注目を引かなかつたようである。なぜかという、大学のいじめは中、高等学校より、数も少ないし、事態もそんなにひどくないからである。そして、厳しい入学試験を経て、皆 高校のエリートとして大学に入られるから、中、高のように弱者を標的にしていじめるケースが減り、年齢からいうと更に大人に近づいて、怒り、憎しみ、嫉妬、違和感などの心理があつても、理性的に取り扱う場合が多い。つまり大学時代に入ると精神状態の不安定期が過ぎてさらに成熟するわけである。しかし、ここでも精神的な理由に基づくいじめの状況をうかがうことができる。

たとえば、特定の人肉体的、身上的コンプレックスをえぐって茶化し、それをネタ

にするとか、コンパの席上、盲目の人の真似をするとか、またドジをやった友達をみんなで「しんちゃん」(身体障害者の略)と呼んで揶揄するなど、いじめの手口はパロディやギャグによるものが目立つ。彼らにあっては論理的思考は不得手で、「あ、わかる、わかる」とか「言えてる、言えてる」という短絡的で感覚的な反応しかできず、全般的にモラトリアム的なアパシー(無気力)状態に置かれているといってもよいかもしれない。大学生の風潮がすべてこうだとは言いきれないが、少なくとも、いじめにつながる差別用語をいとも容易に口にすると大学生が一部存在するという事実は確実だろう。

## 二、事例を通じていじめの実態を紹介する

### (1) 自殺、致死事件

昭和61年2月1日東京都中野区立中野富士見中学校2年生鹿川裕史君(13)が「葬式ごっこ」のいじめに遭い、岩手県のJR盛岡駅ビルのトイレで遺書を残して首吊り自殺したことによって、いじめの実態が表面化し、大きな社会問題となったが、その後も、いじめによる、自殺事件が相次いでいる。その中の一例を挙げる。

大阪府高石市の私立中学校二年生の男子は、中二のはじめころから、同級生にいじめをうけ、二学期がはじまってから学校へ行けなくなった。親はこの事実を学校からの連絡で知り、事情を辛抱強く聞き出した。そして、はじめて同級生からいじめられていることを聞いたが、しかし、詳しいことは聞き出せなかった。親は担任教師へそのことを伝えたが、特に何の対応もなされなかった。その後、その男子は一時的に登校したが、また、学校へ行けなくなり、遺書などもないまま、自殺した。No.1

このように、自殺にまで追いやられるということは、いじめによる被害の最たるものである。それと同じように、いじめによる被害生徒の死亡という形で現れることもある。

平成3年11月15日、豊中市中学三年の女子が同級生四名(男子二名、女子二名)から暴行を受け、頭蓋内出血により、死亡した。その女子は、一年生のころから同級生に頻繁にいじめをうけていた。彼女にいじめを行った生徒は学年全体の三分の一にも達したという。いじめの方法は蹴るという暴行から、彼女を「——(彼女の姓)菌」と呼ぶことまでさまざまであった。特に酷いのは彼女に暴行を加えるとき、手で殴るということがなかったということだ。彼女を汚いものに差別し、手で叩くと手が汚れると考えていたからであった。No.2

### (2) 暴行、金品要求、傷害による不登校、精神あるいは肉体障害

「死」に至らなくても、生命・精神・身体を侵害する事件は多くのいじめにみられる。それらの事件では、大体長期にわたり、いじめが繰り返して行われている特徴がある。事件発生の原因はさまざまであって、子供たちに与える苦痛も長く続き、さらにその子の人格形成、精神状態、今後の生活に強く影響をもたらす可能性も高いので、

学校、家庭、社会などが相互に連帯協力して対応に当たり、更に酷い事態にならないように、いじめに苦しんでいる子供を救うように頑張る必要がある。

中学二年の女子が 放課後友人と水泳部の部屋で着替え中、同級生五名に呼び出され、学校の廊下で、「あんた生意気やんか」「スカート短い、靴下短い」「ちくったろ」「あんた死ぬか」などといわれながら、顔、首、腰、足などを手拳やホウキで連続的に殴られたり、足蹴されたりした。さらに、水をかけられたり、直立させられて脅迫され、「これからあいさつします」「これから敬語を使います」「これからスカートを短くしません」などと大声で約束させられた。暴行を受けた時間は三十分以上に及び、恐怖心で極度の精神不安定状態に陥った。その後、卒業までの約一年間、不登校が続いた。No.3

### (3) シカト(無視)などによる精神的な被害

現在のいじめの特徴のひとつとして、陰湿化を挙げることができる。これまでマスコミで何度も報道されてきたものは、 だいたいが暴力をによって、被害者に生命、精神の痛みをもたらす事件である。しかし、シカト、無視、いやがらせ、芸強制などのいじめもまた、被害生徒に対して、ひどい精神的な苦痛をもたらし、不登校にまで追い込むことも多い。

中学校一年生の女子は 最初クラスの男子からいじめを受けたが、すぐに学年全体に広がり、学内で本人があるいていて、服が接触すると「バイキンがつく」といって、汚れを払う格好をされるようになり、本人の机に触れると、いやがって、「バイキンがつく」といって払われるようになった。その状態が二年生の三学期まで続き、その言葉を聞くのがいやで、だんだん聴力までも落ち、あまり聞こえなくなった。そして、学校の近くに来ると、すぐ吐いてしまうようになった。病院に行って、体調がよくなったが、教師が迎えにきて腰が痛かったりして学校へいけず、現在もなお不登校中である。No.4

## 三、いじめ問題の背景及びその原因

いじめ問題には非常に複雑な背景があり、学校のほか、家庭、社会、さまざまな要因がからんでいる。いじめ問題を単なる一つの問題として、親あるいは学校を責めるのは問題の解決にあまり役に立たないことである。そして、いじめという現象は外国にも数多くあるけれど、日本のように社会問題になったりはしない。日本では、複雑ないじめの背景から深刻なことがさまざま起きてしまっていると思うのである。子供世界のいじめはやはり象徴的である。これから、その背景そして原因について分析したい。

### 1、学校について

いじめは普通、クラス、クラブ、友人団体など学校を舞台に発生する。そのゆえ、毎日子供と接していて、子供のことを最もよく知っているはずの教師そして学校側はだれ

よりもいじめ問題を発見しやすい。しかし事例からみると、いじめ発見の遅れそして対応の遅れと不適切によって深刻な事態を招いたケースは少なくない。いじめが生じやすい学校あるいはクラスはいったいどの問題があるのか。

#### (1) 教師の無関心による事件の発生

教師は クラスの温かくて和やかな雰囲気づくりに非常に主導的な役割を果たしているはずである。調査により、生徒の間にも、また生徒と教師の間にも、全体としてのまとまりや、信頼関係、心の交流などがうまくいっていない場合は、親しい子同士はある程度交流しているが、それもとすると和やかなものでないうえ、みんなと溶け込めず、孤立した子や疎外された子が生じやすい。そして、時には教師が生徒を受容できず、気に入らない子を疎外している場合も稀にはある。それが、こどものいじめに先行していたり、並行していたりするわけで、こうなると教師が無意識のうちに生徒に対していじめを演じていることになる。そして、いじめ問題がこんなに世間に注目されているのに、それは子供世界のなかの人間関係の問題であり、教師が介入する必要がないと思ったり、自分のクラスや学校にいじめ問題など起こっていないと考えていたり、また多少いじめがあることは認めても、世間でいわれているいじめのように酷いものとは思わず、あるいはいじめ以外の問題だと錯覚したりしていることもある。

そして、教科指導には極めて熱心で、成果もあげているのだが、いじめなど関心はなく、また生徒の心の問題にあまり関心を寄せない教師が多い。こうして、学校やクラスでは、勉強に集中できる子はいいのだが、落ちこぼれ的な子が生じて、疎外感や反発を強めて不良グループを形成したり、あるいは孤立してクラスの中でお客さんのようになってしまう。こうしたこともいじめの背景になる。

#### (2) いじめ発見の遅れ及びその対応の遅れと不適切な対応

前に紹介したように子供たちは「いじめの鉄則」をおそれる。鉄則の一つは先生にチクる子供に三倍で返す。その理由でいっそういじめられたり、復讐されたりすることを恐れ、また、自尊心から恥ずかしいとかんじたり、先生に話すのをいさぎよしとしないことも一方にはある。周りの子たちもいじめっ子の復讐を恐れて先生に教えないことも普通である。これが発見しにくい重要な背景といえる。例のNo.1は、その状態で、先生、両親に自分はいったいどんないじめを遭ったか一切説明もなく、遺書までも残らず、自殺した。両親は子供の学校での生活がどうであったのかを知りたいと考え、弁護士に調査を依頼した。教師は夏休みの宿題ができていないからではないか、被害者には幼いところがあるとかいって、要するにいじめに対して、何らの対処もしなかった。学校もいじめがないと言うばかりで、それ以上全く説明を拒否した。この事件を通じて、学校側にはいじめに対する発見の遅れと対応の不適切さがあったことがわかる。仮に本人や周

りの子がいわなくても、日頃からクラスの友人関係を把握していたり、気配りをして感受性を養っておけば、いじめはいくらわかるはずである。例のように、生徒が死ぬ前に、いじめ問題を発見し、悲劇を防ぐはずである。また、日頃からしっかりした指導体制があり、生徒の間、生徒と先生の間信頼関係ができていれば、何らかの情報は早めに得られるはずで、そうした体制の十分とれてないことも問題といえよう。また、学校や教師はいじめに対して適切な対応のできないことも多い。一つは対応の甘さと無責任感である。もし、担当教師をはじめ学校がいじめが被害生徒にどれほど大きな精神的、肉体的な苦痛をもたらしたかを認識できない場合、いじめを人権侵害と明確に意識しない場合は、特にそうである。「我慢がたりない」とか、「やられたら、やり返せばいいじゃない」とか、さらに「昔もいじめなんてあったんだから」といじめ側のために言い訳をすることもある。そして、酷い事件が起こった時は例の1のように、無責任的にいじめのことを全般的に否定する。こうしたことは、子供に対してばかりか親や被害家庭に対しても、やはり空回りになったり、不信感を植え付けたりするだけである。もう一つは子供の心理が十分に理解できないことである。いじめられっ子がどんな気持ちであるか、どうして欲しいか、またどうすれば解決できるかが正しく把握できない。かえって傷つけて逆効果になることもよくある。一方、いじめっ子に対しては、やはりその心が理解できず、ただたしなめるとか、叱るとか、あるいはうやむやにしてきちんと対応しないとなってしまう。それは事件の解決にはなんの役にも立たないことだけである。他の一つは教師の主観的な対応である。正しく実態を把握せず、一部の子のいうことを信じたり、自分が決めつけたりして、一方的な対応になっているわけである。こうした対応をうける当事者は教師を恨み、そして強い不信感を抱いて、以後も心がつながらなくなってしまう。

### (3) その他

学校と家庭の連携不足、教師の協力指導の不足もいじめの原因になる事例も多い。そして学校側は教育相談所などの相談機関と、病院などの治療機関との連携も不足である。いじめを絶対に許さないという共通理解の下に協力し合って対応していく体制を作る必要がある。

## 2、家庭について

いじめは主に学校で生じるが、学校の問題ばかりでなく家庭の問題も深くからんでいる。学生の人格養成、価値観、世界観は全部、親、家庭の教育と繋がっているからである。いじめが生じやすく、またこじれやすい家庭には、いったいどのような傾向があるのか。確かに、以前は 親の側に、精神障害があったり、不道德家庭、崩壊家庭などの

場合はいじめっ子とか、いじめられっ子になりやすかった。しかし、最近、一番問題であるのは、家庭もいわゆる中流と呼ばれ、両親も形式的に揃っており、子供の知能も身体状態も、普通程度にある場合でも、いじめっ子になったり、いじめられっ子になることである。また、成績の良い子、おとなにとって可愛い子が、大人に見えない所で、陰湿ないじめをしている。親子関係は いったいどのように変わってしまったのか。

#### (1) 父親の現代の子捨て

60年代に入ると、日本は戦後の高度経済成長期を迎えた。産業構造の変化に伴って、日本家庭の生活様式や思考様式も、いつの間にか、つくり変えられつつあった。一番問題になるのは、家庭機能の脆弱、低下傾向が深まったことである。いうまでもなく家庭は、もともと、社会学習の場としての教育機能や安らぎ、保護の場としての緊張緩和機能があるはずで、そして、適切な父性（厳しさ）と母性（優しさ）のしっかりとした調和統合のうえに成り立っていなければならないはずである。しかし、いまの家庭では子供はめったにお父さんと顔を合わせなくなっている。父親は仕事のため朝早く家を出る時、子供はまだ起きていない。夜も遅く帰って、子供はたぶんもう寝てしまっているだろう。そして、核家族が進行し、少子家庭の増加に伴って、母子密着の問題を招くことになった。これは母親主導型の躾教育が一般的となって、先に指摘した社会学習の場としての教育指導力が徐々に衰退してきたことを意味しているといえよう。しかし、男の子は小さい時に母親と密着しても、成長するに従い、父親の存在を主な支えとしてくる。父親をモデルとして、「男らしさ」を習得しようとする。もし、母親ばかりに焦点を当てた形になっただけではなくて、母親が夫婦間の矛盾を子供の前に暴露して、父親を軽視していれば、こどもはモデルとしての父親を失ってしまうことになる。あるいは、父親自身が特別に厳しくて、子供とのふれあいをあまり好まない場合なら、父親と子供の間溝ができてしまう。このように、子供は男性としてのアイデンティティを独力で確立しなければならなくなる。不幸にして、父親との交流につまずいて、また学校の先生も憧れや尊敬の対象になれない場合は、非行グループなどの年上の少年たちとか、テレビの暴力シーンなどをモデルとして、殴る蹴るのような行為を男性的イメージとして身につける。こんな方法で男性の優位に立てるわけではないが、そちらはまだ幼稚であるから、見かけだけでも男らしさを確立したいのである。これはその子自身をも、不幸にしている。そのゆえに仕事に夢中になる父親たちは、自分の親としての責任をしっかりと担わなければならない。子供にそれなりの自信と誇りを与えるべきである。

#### (2) 母親の支配的過干渉

前に述べたように、父権の後退と同時に、母親は子供の成長にとても主導的な影響を与えるようになる。母親は子供に強い愛情があり、献身的な熱心さもあるが、そのため

に子供を信頼し切れず、小言も多く、心配的な態度をとる。子供の発達段階に自立への配慮をせず、過剰な統制をしてしまう傾向がある。よくみかけるのは、思いきり自分で遊びたいから、「下に下ろして」と主張している小さい子供に、「危ない」と言い返す母親の姿である。子供の自然な欲求を無視して、支配的過保護の状態になるのである。子供の持っている強大なエネルギーの発散の機会もないまま、慢性的欲求不満がたまっていくことになる。特に思春期に入る子供が「友人との関係を深めたい。自分で考えてやるから、ほっといて」と主張したいときにも、自分なりの考え方を押さえ込み、先まわりしてべたべたと世話を焼くのである。母親は、社会的視野が狭くて、父親への不満がある場合に、常に子供を通して自己実現を図ろうと焦っている状態である。要するに、子供の出世に大きな期待をかけすぎているわけである。このように養育されると子供たちは、母親への反応として、「母親は心配性で、しつっこい」と反発したり、不信感さらに蔑視的な態度をとる場合が多い。それも外国にはほとんどみられない家庭暴力が発生する原因だと思う。

### (3) 両親の無関心、放任そして養育態度、価値観の偏り

いまの日本社会は物質的に豊かになり、飽食時代と呼ばれるけれど、満腹感があっても、満足感をなかなか得られない子供も増えている。子供と両親の間に心のふれあいが欠けているためである。親がいじめとか、子供の心の問題に無関心な例はしばしばみられる。一方的に指示、命令を出し、自分の意識だけ子供に伝え、子供の考えなどまったく無視している。このようにして、子供たちの中に絶えず自己不全感、不安感がたまって、それで悩んだり、内省することが多い。また、親は子供に過保護で甘やかしていたり、過期待で過干渉であったりが一般的であるが、それら以外に放任、無関心、無責任などよくみられる。一方、親の価値観の偏りとしては、「人生はお金だ」とか、「男は強くなければだめだ」とかの考え方が親の口からよく出てきて、子供は小さい時からこれらの影響を受け、いじめを始める例もみられる。

## 3、社会について

### (1) 受験制度の過熱化

子供たちに、何のために勉強するのか、何のために進学するのかと質問すると、返ってくる答えは 大体「いい会社に入られるように」とか、「一流の大学に入るために」というぐあいである。経済成長期に、企業が望んでいた人材は何であろうか。企業の部品として組み込むことができるような、凹凸のない、品質のよい、つまり学歴のよい人間である。就職時に学校歴が問われているに限らず、有名大学にしかこだわらない会社も多い。そして今の日本は、マークシート方式の簡便な入学試験の方法を取っている。この方式の試験が、行く手に立ち防がっているがゆえに、子供に多量の知識を詰め込み、

試験問題に手際よく反応する技術を早く得られるように、先生も親も受験生も勉強にいっぱいエネルギーを注ぎ、学校教育で安心できない場合は、子供を塾に送り込み、乱塾時代と呼ばれる状況まで作り出してしまった。そんな知育偏重の教育は、本来多様な個性と可能性を持つ子供に一律に作用しているから、「知識の詰め込み」という基準に合わない子が、はじき出されてしまう可能性は高い。その子たちは、いじめっ子になったり、いじめられっ子になったりする事件も多い。

## (2) 大人世界からの影響

日本社会で、外国人に特に印象深いのは上下関係の厳しさである。それは、日本語の文法にもみえる。尊敬語、謙遜語、丁寧語がはっきりと分けられており、聞き手の年齢、地位、自分との関係の親しさによって、使う言葉も違う。もし間違ったら、失礼な人とか、躰が悪いと思われるかもしれない。そして、日本語は一つのセンテンスがどんな言葉で結ばれるか話の最後にならなければわからない。この文末で意味を決める話し方も封建時代上下関係の厳しさと関係がある。つまり、下の者は上位の人の顔色を伺いながら、文末で「ある」と言うか、あるいはムニャムニャと語尾をにごすという逃げ方をするかが決められる。さらに昔からも日本には村八分などといわれて、異質なものを、違和感のあるものを排斥する風潮が強かった。いまでもそうした特徴は形を変えつつ、根強く残っており、職場や地域社会などに、大人同士のいじめの構造がしばしば観察される。先輩と後輩、上司と部下、男性社員と女性社員、さまざまな範囲でいじめが常識のように認められるのが事実である。子供たちは小さい時からこれをみて、影響を受けて、いっそう露骨な形で行っているとみられる。子供でありながら、子供らしさがなく、陰湿で鬱屈しいいじめが多いのは、この辺の事情を反映したものと見えるかもしれない。

## (3) 文化環境とマスコミ

今、子供たちを取り巻く文化環境をみると、さまざまな情報媒体の存在に気が付く。テレビ、映画、出版物（漫画雑誌、少女雑誌、写真集、AVビデオなど）のマスコミ文化が子供たちに与える影響は少なくない。しかし、その多くは商業主義の支配のもとで、享乐的な娯楽情報が、ないしは刺激性の強い情報を流している。性文化、性風俗、性産業の著しい変化に伴い、暴力的刺激も、絵画的マスメディアの中で、有り余るほど見られる。特にテレビや映画で映し出された暴力シーンは、眉をひそめたくなるほどの場合が多い。そんな場面を見続けると、他人の苦痛の表情や攻撃に対する不感症が生じやすいのではないかと心配になる。しかし、情緒不安定で抵抗力の乏しい子供たちや、すでに非行文化に感染した子供たちは、そうした暴力シーンを模倣する恐れが強いのである。もう一つは、いじめが新聞やテレビなどで大きく取り上げられるによって、全国的な流行現象を生じ、地方のともと平和で和やかだった地域に急にいじめ問題が増えるよう



になるとか、マスコミの影響をうけるなどである。子供は暗示性が強く、マスコミの影響を特に敏感に受けるから、判断力や抑制力の乏しいまま、無批判的にいじめを流行させてしまう。

#### 四、いじめの対応と予防

いじめっ子にしても、いじめられっ子にしても、良い面や伸ばし得る芽は必ず持っているし、自己改善力、自己成長力も必ず持っているものである。いじめ問題に対応する者が、その子たちを支え、その潜在力を少しでも出しやすいように援助して行くのは大切なことである。

##### 1、対応

この問題の解決に向けては、学校を中心に、家庭や、社会、また必要に応じて相談機関や治療機関が相互に連携協力して対応に当たる必要がある。

##### (1) 早期発見と適切な対応

早期発見は、適切な対応をするに当たってまず必要なものである。そのために、学校も家庭も子供も交友関係に注意を払い、心の動きをよく把握していることと、子供の示すサインを見落とさないことが大切である。また、いつも子供と心が通じ合っていて、信頼関係の培われていることも大切である。そして、いじめられっ子に会い、その際、受容と傾聴の態度を基本とし、子供の心にわだかまっているものを極力だしてもらおう。一方、いじめっ子に会い、同様にカウンセリングマインドをもって事情をきいていく。正確な事態を把握のは大切である。一部の子のいうことを信じたり、自分が決めつけをしたりすると、一方的な対応になっているわけである。そして、いじめの解決は担任教師だけの責任ではなく、親との話し合い、教師間での話し合いによって協力指導体制を作ることが必要である。さらにクラス全体、学年全体、学校全体に働きかけることも、不可欠である。

##### (2) 学級全体への対応

いじめ問題への対応は、いじめっ子といじめられっ子とだけの調整ではなくて、クラス全体、学年全体、学校全体の広い範囲で行わなければならない。なかでも、クラス全体への対応は特に大切である。

まず一つは、クラス全体の子に、いじめられっ子の心の痛みを気付かせることである。そのために、何度もみんなで話し合い、体験を出し合い、感想文をかくなども必要である。

もう一つは、いじめ事件への追究である。これは押し付けではなく、自らの反省と謝

罪ができるように指導することは大切である。

次の一つは、いじめられっ子をクラスに受け入れることである。登校拒否になっているような場合は、代表が誘いに行くとか、みんなが遊びに行くとか、すなわち、いたわりと共感をもって、いじめられっ子を受け入れ、みんなで新たな関係を迎えるわけである。

### (3) 専門機関との連携

いじめが深刻になったりした場合には、専門機関に相談し、連携してその指導や治療に当たる必要がある。日頃、学校や家庭は外部にいじめが知られるのを恐れたり、敬遠したりするけれど、いじめっ子にしても、いじめられっ子にしても、神経症状態に陥る人があるのは事実である。相談機関そして精神科医の助けを求めるのは必要である。

## 2、予防

予防は、やはり学校が中心であるが、他に家庭、地域社会も必要である。

### (1) 人間性をのばす教育

いじめは今世界的現象だと言われている。日本においてだけではないことは確かだが、日本の特徴の一つとしては、やはり、いじめられっ子を庇う子がいないことである。日本の学校も家庭も、知育偏重への反省を口にするだけではなんの役にも立たない。子供がお互いに人格と心を大切にし、思いやりとりと信頼を持つほか、人の悩みや心の痛みに同情と共感、そして他者への労わりの心を育てる教育にも、関心を寄せるのは大切である。また、正義感と勇気を持ち、正しいことは主張したり、実行したりできるようなしっかりとした心を培っていく。さらに、目標を持って頑張り、つまずいたり困難に直面してもへこたれないで、克服していけるように指導する。こうした人間として当然身につけるべきものをきちんと身につけさせることが、学校でも、家庭でも、まず大切であり、いじめの予防にもつながっていく。

### (2) 相談活動の充実

学校や地域そして家庭の相談活動の充実は重要である。いまの競争社会では、子供のストレスも強く、さまざまな悩みや不安を抱いて、不適應を起こしやすい。特に思春期はそうで、心身ともに不安定になりやすいうえ、受験など人生の方法をきめる大きな試練に幾つも直面する。その折に、いつでも気楽に相談でき、心の問題を打ち明けたり、指導や方法づけを受けられる体制は不可欠である。相談活動は学校では生徒指導の担当者や、保健室の養護教諭が当たるとか、各クラスの担任もそうした機能を果たすことができる。また、地域に専門機関を充実させて、必要に応じて学校と連携する体制を作る

ことも大切である。こうすると、いじめの予防ができるほか、仮に生じても軽いうちに克服できることになる。

### (3) 地域づくりと社会環境の整備

地域づくりの不十分さのため、親同士の交流も少なく、子供同士もそうである。このため、子供は地域の異年齢集団、同年齢集団との交流が乏しく、友達とのつきあい方も未熟になる。また、いったんいじめの問題が生じても、親同士の交流が乏しいので、うまく対応することができない。さらに地域の親同士、子供同士の交流を増やすとともに、地域の連携を図るのは、いじめ問題の解決に不可欠である。また、マスコミの規制と大人世界の環境浄化などによって姿勢を正しながら、みんなで健全な子供の育成するのは大切である。

### 結論

いじめは単なる子供世界の問題ではなく、そして単なる教育界が直面する問題でもない。それは、社会、地域、学校、家庭色々な問題がからみあって、生じた問題である。日本社会には外国人にとって理解しにくいことが多いけれども、どうしていじめが今のような深刻な事態になるのかも多くの外国人ないしには理解しにくいことだろう。わたしは、中国で二年間くらい高校の教師として働き、さまざまな子供と接してきて、中国の高校生たちの生活そして彼らの直面している問題も多少分かるようになった。受験教育と一人っ子として育ったことによる集団生活への不適應はたぶん彼たちが直面する一番の問題である。それもたぶん中国社会の中で育ったものでないと分からない問題であるだろう。この問題そしてこれを基づいて生じた問題が彼らにもたらした苦痛は、教師として心より痛感している。日本に来て、この1年間、日本の青少年たちを苦しめているこのいじめ問題について、いろいろと考えている。今のいじめは複雑になっているから、行政側と社会側が改革を手掛けなくても、教師や親は傍観しているわけにはゆけない。できることからすぐ始めるべきである。いじめのすべての事柄は、人間関係の上に成り立っているといっても、言い過ぎではない。それ故に、人間としての素朴な優しさを大切にすることを忘れてはいけないと思う。こうした心を核として、一人ひとりが心の中に生き方の基準を確立することが、人が人として生きて行くために必要なことであろう。

### 参考文献

- |              |           |               |
|--------------|-----------|---------------|
| 託 摩 武 俊 1988 | いじめの問題事例集 | 東京：株式会社 ぎょうせい |
| 相 川 高 雄 1984 | 生徒指導の心理学  | 教育出版株式会社      |

藤 本 卓	1993	登校拒否と不登校	一葉書房
小山田 勢津子	1996	いじめの実態と予防教育	株式会社 学苑社
畠 瀬 直 子	1986	いじめっ子 いじめられっ子	株式会社 グロビュー社

# 日本語の擬音語・擬態語についての研究

アイバン・ウォーカー

## はじめに

日本語を学ぶ多くの人は教室で勉強した上、来日して教わった日本語を使っている。同じように私も勉強してから来日した。日本に来る前の勉強は少ししか擬音語・擬声語・擬態語を紹介してもらわなかった。勉強する期間が短かったためだと思っていた。しかし、ニュージーランドに帰ってちゃんと大学で中級日本語を勉強しても授業で擬音語・擬態語の勉強が十分ではなかったと思う。なぜなら日本人は日常会話や作文の中で擬音語・擬態語をよく使っていると自分の経験から分かったからである。

英語にも音を表す言葉があるのだが、こういった言葉は子供の言葉とされているようだし、動作や気持ちの意味を表さないものである。英語と日本語にはこの違いがあるから擬音語・擬態語について研究することにした。このレポートによって日本語の擬音語・擬態語を説明したいと思う。

## 定義

擬音語・擬態語の定義を辞書で調べてみると次のように書かれていた。

擬音語： 擬声語

三省堂 『新明解国語辞典 第五版』

擬声語：音や声をまねて表わした言葉。例、わんわん・がたぴし。擬音語。 ⇒ 擬態語

三省堂 『新明解国語辞典 第五版』

擬態語：身ぶり・状態の感じを表わして作った言葉。例、にっこり・ゆらゆら。 ⇒ 擬声語

三省堂 『新明解国語辞典 第五版』

深く擬音語・擬態語を理解するには上の定義では十分ではない。「擬音語・擬態辞典」(浅野鶴子編、角川書店、昭和53年)を参考にすると擬音語・擬声語・擬態語の定義は次のように、明確に書かれている。

擬音語・・・外界の音を写した言葉

擬音語・・・無生物の音を表すもの

(例) とんとん

擬声語・・・生物の声を表すもの

(例) ワンワン

擬態語・・・音を立てないものを、音のよって象徴的に表す言葉

擬態語・・・無生物の状態を表すもの

(例) びしょびしょ

擬容語・・・生物の状態(動作容態)を表すもの

(例) じろじろ見る

擬情語・・・人間の心の状態を表すようなもの

(例) わくわくする

擬音語は二種、擬音語と擬声語に分類されている。擬態語は三種、擬態語と擬容語と擬情語に分類されている。普通使い分けられていない擬音語・擬態語を用語で分類している点で、上記の定義はよく擬音語・擬態語の広がりを教えてくれるものである。

## 日本語の音とその意味

日本語の音には音声を使い分けることによって、その言葉のイメージを表すことがある。次は音とその音の意味のまとめである。

### 濁音と清音

濁音は小さいものや軽いものや鋭いものやきれいなものを象徴する。清音は大きいものや重いものや鈍いものや汚いものを象徴する。

(例) きらきら(と光る)      ざらざら(と光る)  
ころころ(と転がる)      ごろごろ(と転がる)  
ぼたぼた(と落ちる)      ぼたぼた(と落ちる)

### 軟口蓋の子音「g」と「k」

軟口蓋の子音「g」と「k」は鋭さや硬さやはっきりしたものや分離や突然の変化を象徴する。

(例) つぐ(と引く)  
かちかち(に凍る)  
がくがく(する)

### 歯音「s」

歯音「s」は静かな様子や静かで早い動作を象徴する。「sh」は特に静かな人間の感情を象徴する。

(例) さっ(と立ち上がる)

そろそろ(と歩く)

すいすい(と泳ぐ)

こそこそ(と逃げる)

子音「r」

子音「r」は滑らかさや滑りやすさを象徴する。

(例) ろうろう(と話す)

すらすら(と答える)

ぺらぺら(と喋る)

鼻音の子音「m」と「n」

鼻音の子音「m」と「n」は触感や柔らかさや暖かさを象徴する。

(例) ぬくぬく(とした)

ねばねば(している)

むしむし(している)

破裂音「p」

破裂音「p」は強さや突然なことを象徴する

(例) ぱっ(と思い出す)

ぴん(と来ない)

ぷんぷん(と怒る)

半母音「y」

半母音「y」は弱さや柔らかさやゆっくりとしたものを象徴する。

(例) ゆっくり(する)

ゆらゆら(する)

よぼよぼ(の)

母音「u」

母音「u」は人間の心理や生理を象徴する。

(例) うんざり(する)

うろうろ(する)

うきうき(する)

母音「o」

母音「o」は消極的に人間の心理や生理を象徴する。

(例)おろおろ(する)

おたおた(する)

おぞおぞ(尋ねる)

母音「e」

母音「e」は汚いものや下品なものを象徴する。

(例)へらへら(と笑う)

めそめそ(と泣く)

## 使い方

日本語の擬音語・擬態語は副詞や動詞や形容動詞や名詞として使われている。一つの擬音語・擬態語は一つ以上の品詞として使われることがある。例を上げてみる。

ぼさぼさ	君の髪はぼさぼさだ	(副詞)
	君の髪はぼさぼさ(と)している	(動詞)
	ぼさぼさの髪	(形容動詞)

擬音語・擬態語はどんな品詞として使われるかによって使い方が変わる。これについて五味太郎は「日本語擬態語辞典」で次のように擬音語・擬態語を分類して、使い方を説明している。

### 副詞タイプ

活用もなく、おもに連用修飾語として用いているもの。以下の三種類がこれに含まれる。

一般的に副詞と呼ばれているもの末尾に「と」を伴わないで、そのままの形で用いている。

(例)いよいよ出発だ、いちいちうるさい、わざわざ届ける

そのまま、あるいは末尾に「と」を伴って、副詞として用いているもの

(例)おずおず(と)差し出す、ほかほか(と)温かい

末尾に「と」を伴って、副詞として用いているもの

(例)うろうろと歌う、もんもんと悩む

### サ変動詞タイプ



末尾に動詞「する」を伴って、サ行変格活用形の複合動詞として用いるか、あるいは格動詞「と」+「する」を伴って用いるもの

(例) うきうき(と)して、ぼさぼさ(と)した髪, うじうじするな

#### 形容動詞タイプ

末尾に形容動詞の活用語尾を伴って用いる。ただし、後ろに名詞がくる場合(連体形)には、形容動詞の活用語尾「-な」の代わりに「-の」を用いる場合が多い。おそらく、「-の」は「-な」の音便形だと思われる。

(例) 意見がばらばらだ, へとへとに疲れる、あつあつの二人(=あつあつな二人)

擬音語・擬態語は上記のように分別できるが、擬音語・擬態語の使いかたが変わってきている。現在あるタイプとして分別されている擬音語・擬態語は近い将来別のタイプとして使われる可能性がある。

#### 背景

擬音語・擬態語は一体どこから始まったのだろうか。擬音語は人が音を聞いて使ったものである。私は幼い時に擬声語を教えてもらった。羊の鳴き声を聞くと、バーバーと鳴いていると思うが、来日して羊がメイメイと鳴くことを教えてもらって、実際羊の鳴き声を聞いてみるとメイメイにも聞こえるのである。日本語の擬態語はさまざまなところから生まれたと思われる。その一つのところは動詞や形容詞である。例を上げてみる。

あつあつ	熱い
いきいき	生きる
いじいじ	いじける
ゆるゆる	緩い
ねばねば	粘る
くねくね	くねる

#### 英語との比較

日本語の文章や日常会話の中には擬音語・擬態語がよく出るが、英語の文章や会話に擬音語・擬態語があまり出てこない。英語は擬音語・擬態語が子供だけの言葉と思われている。従って、大人の会話や文章にはめったに出てこない。英語の擬音語・擬態語は全部、ものの音を表すものであって、つまり擬音語だけが多数使われているのである。英語で日本語の擬態語が表す意味を表現する時は注意深く動詞を選ぶ。日本語は動詞の前の擬音語・擬態語を変えるだけで意味が変わるのである。例を上げてみる。

雨が降っている。	It is raining.
雨がぼつぼつ降っている。	It is drizzling.
雨がぱらぱら降っている。	It is spitting.
雨がしとしと降っている。	It is raining lightly
雨がざあざあ降っている。	It is pouring.

泣く	Cry
おいおい泣く	Lament
おんおん泣く	Wail, Mourn
わあわあ泣く	Yell, Howl
しくしく泣く	Sob, Whimper
めそめそ泣く	Weep, Snivel
びいびい泣く	Bawl
ぼろぼろ泣く	Blubber

日本語の擬音語・擬態語は動詞として使われることがあるが、英語は同じものを表すのにただの動詞を使う。例を上げてみる。

どきどきする	To be nervous, excited
うろうろする	To hang around

どんな言語でも動物の鳴き声を象徴するものがある。こう言った擬声語は鳴き声を聞いて、音を言語に直した結果である。日本語の擬声語を英語の擬声語と比べてみるとそっくり似ている鳴き声、またはぜんぜん似ていない鳴き声があることが明らかになった。例を上げてみる。

	日本語	英語
牛	モウ	ムウ
猫	ニャアニャア	ミャオミャオ
蛙	ケロケロ	クローク
羊	メイ	バーバー
豚	ブウブウ	オイंक
犬	ワンワン	バクバク

ハチ	ブンブン	バズ
鶏	コケッコ	コクドウルドドウ
ネズミ	チュウチュウ	スクイク

## まとめ

英語の擬音語・擬態語は子供の言葉と思われて、従って日常会話に出ることが非常に少ない。対照的に日本語の擬音語・擬態語は老若の言葉であって、会話の重要な一部となっている。擬音語・擬態語が出ない会話や文章が珍しいと言える。擬音語・擬態語を使うことを通して言葉の意味、あるいは会話の意味がより明らかになるのである。

この研究によって私はよりよく日本語の擬音語・擬態語を分かることができた。擬音語・擬態語は日本語の重要な一部で大切な役割を果たしている。従って日本語を理解するために擬音語・擬態語を理解する必要がある。私はこの研究を通して学んだことを自分で生かしたいし、これを基にしてさらに日本語の独特の擬音語・擬態語を勉強したい。

## 参考文献

1. 牧野誠一・筒井道夫 (1986)「日本語基本文法辞典」 The Japan Times
2. 五味太郎 (1989)「日本語擬態語辞典」 The Japan Times
3. 日向茂男・日比谷潤子 (1989)「擬音語・擬態語」 荒竹出版株式会社
4. 関西外国大学擬声語研究会 (1981)「日英対照：擬声語(オノマトペ)辞典」  
学書房出版
5. Andrew C Chang (1990) 「擬態語・擬音語分類用法辞典」 大修館書店



# 日米の高校野球

デービッド・ヤマモト

私は今までアメリカからアメリカ人として日本を見て来ました。私は自分の目で小さいころから日本を見て一番不思議に思った事は日本の文化です。それは、私の両親は二人とも日系人なので、私は普通のアメリカ人とは少し違い日本の文化とアメリカの文化を一緒に見て、感じ育ってきました。一番初めに文化の違いを感じたのは幼稚園に通っていた時、たまに幼稚園でお昼のランチでお箸を使ったほうが良いおかずの時に、お箸を使わない、あるいはお箸が無いのに、どうして家にはフォークとナイフそれとお箸の両方あるのだろうかと思った事です。私に取っては、家にある物が外には無いと言う、姿、形、以外の違いに初めて気づき、それがまだ、文化、習慣と言う言葉も知らない私には不思議な不思議な出来事の始まりだったのです。このように私は少しずつ、色々な文化の違いを感じながら育って行きました。私はなぜか小さいころからアメリカと違う日本の文化にすごく興味を持って、またそれをどんどんふくらませていったのです。私は現在二十歳で、今では日本とアメリカの文化の違いを小さいころよりは理解できていると思っています。でも中には今でもすごく不思議に思い、興味が溢れるほどある事があります。それは日本とアメリカの高校野球の文化の違いなのです。

私はアメリカで高校生活時代四年間、ずっと野球部に入って野球をしていました。私は野球を愛し今の自分は、高校生活時代の野球なしでは無かったらと思うています。自分は選手としてアメリカの高校野球の文化はすべて体験あるいは経験出来たと思っています。アメリカで高校生活四年間のあいだ、私は高校三年生の時、高校野球のアメリカ代表に選ばれた事もありました。

私がかたしか8歳か9歳のころ、たまたま私の父が日本へ出張で行った時に、持ち帰ったビデオに甲子園大会の野球が映っていた事をきっかけに日本の高校野球を初めて見たのです。同時にその時から日本の高校野球に興味を持ち始め、そのビデオを初めて見た時、私の頭の中で不思議に感じたり、思った事が色々ありました。まず一番初めに、なぜ負けたチームの選手は土を持って帰るのだろうかと感じました。それから負けたチームの選手が泣いている事が異常に不思議に思えた事です。僕はこのビデオを初めて見た時には、自分も、もうリトルリーグでプレイしていて野球に興味があったので、もちろんアメリカのプロ野球もテレビで見る事は多かったのですが、選手が泣くと言う事はそれまで見た事が無かった事なのでとても不思議でショックでした。最後に不思議と思った事は、甲子園大会での野球の選手達、全員頭を丸坊主にしている事でした。このように色々アメリカと違う野球文化を感じ始めて行きました。

不思議に思った事はたくさんありましたが、日本の高校野球にすばらしいと思う事も多くありました。初めて甲子園大会での野球のビデオを見た時、何よりも美しいチームプレイが強く印象に残りました。それまで私が見た野球とは自分中心の個人プレイでした。もちろんアメリカの野球全部が個人プレイでは無いが日本に比べるとずいぶん個人プレイの野球が多いと思われまます。

それまでの私はホームランがすべてのように、ホームランを打つ事にしか憧れを持っていませんでした。でも私はこの日本の高校野球のビデオを見て初めて多くの送りバントやスクイズプレイを見たのです。一瞬、送りバントやスクイズプレイなんてたいした事では無いように見えるが、チームのために自分を捨ててまでチームを勝利に導かせるためにとるこの行動に、反対に大きな魅力を感じました。こうやって私は同じ野球でも文化が違うと内容まで変わる事を知って行ったのです。

まず日本とアメリカの高校野球の違いは考え方の違いから始ります。私の経験からして、アメリカの高校野球選手の目標はただ勝つ事です。その次にある目標が州で毎年ある州の大会に出て優勝して州で一番になる事です。アメリカには全国大会が無いためこれが選手として一番大きい大会なのですが、日本の甲子園大会のように夢の大会のイメージが無いため、アメリカの高校野球選手の心の中で、一番優先の目標とは言えないです。アメリカの高校野球選手はどうしてもプロ野球選手になる目標を優先してしまうので、そこから個人意識が生まれチームプレイと違う個人プレイが多いのであろうと思う。もちろんアメリカの高校野球選手はみんなプロ選手になる事を目標としているわけでは無く、中には補欠である選手もいるので、そういう選手の目標はやはりスター選手やレギュラー選手と目標は違う事もあるが、一般的には少しでもスカウトに良く見てもらおう、また少しでも強い大学に進学しよう考えるのです。それに対し日本の高校野球選手は、だれに聞いてもみんな目標は県大会に優勝し県の代表として甲子園大会に出場する事と言う。私は研究の中である日本の高校の野球チームの選手全員に目標は何かと聞いた所、全員が甲子園大会出場と答えた。もちろん話を良くして見たら、プロになるのを夢見ていると言う選手も少しはいたがごく少数で、全員が甲子園大会に出場する事を中心とし目標として野球をしていると言った。こうしてチームが一つになって一つの目標に向かって三年間、頑張ると言う事にすごく感動した。アメリカの選手側から考えるとある意味で、一つの大会のためによく三年間を取り組めるなと思う。でも違った意味でそこに感動する所もある。簡単に言うと日本とアメリカの高校野球選手の夢が違う事です。日本の選手はもちろん甲子園大会に出場する事が夢でアメリカの選手はそのような全米大会が無いためどうしてもプロ野球選手になる事を夢にしています。

次にアメリカとの違いに気づいた事は野球部の形です。日本の高校のチームの場合、野球部は一つで一年生も二年生も三年生も全員みんな一緒に練習し、一つとして行動する。それに対し、アメリカの高校の場合は、野球部は三つに分かれています。一軍から三軍ま

で分かれていて、まず三軍は一年生と二年生の選手でできています。そして三軍は二年生以上の選手も調子が悪ければ入る事を禁じられていません。また一軍と二軍は年齢の制限はありません。うまくれば一年生でも一軍でプレイする事もあります。多くの場合、二年生以上になって二軍にあがられなければ野球部からくびになります。プロ野球のシステムとよく似ています。アメリカの高校ではまず三つに野球部は分かれていて、練習も一緒にする事はありません。練習はそれぞれ別な場所です。ですから二つの高校が試合する時には全チームが試合をするので三試合あります。その点、日本の高校は通常一試合しかありません。そして日本では野球部は一つの団体として行動します。

日本の高校野球で私が一番良い事だと思う事があります。それは多くの日本の高校の野球部はだれでも入部出来る事です。もちろん日本の高校でも少数ですが中には、智弁和歌山高校のように毎年野球部に入部する選手の人数が決まっている学校もありましたが、通常どこの高校でも本人の希望で入部できるようです。

それに比べアメリカの場合、ほとんどの高校で入部テストがあり、チームに入部出来る人数が決まっています。私の高校はだいたい毎年二百人の生徒が入部テストをうけて、合格するのは十五人ぐらいです。したがってアメリカでは経験の無い学生が高校から野球を始めると言うのはとても無理な事なのです。私は野球をしたくてもできない人を多く見てきたので、これに関してはいつもすごく残念な気持ちを持っていました。だから私はこの日本の高校のようにアメリカも誰でも入れるようになってくれればと思っています。野球をする事によってただ野球を学ぶのでは無く、色々と人生に役立つ事を学べると思うのでぜひアメリカでも誰でも野球が高校で出来るようになる日を望んでいます。

バントと言うのはボールをバットで少しあて、ランナーを次のベースへ進めると言うだけな役割です。日本の高校野球を見ていると選手は素直に監督の指示にしたがいきちんと役割を果たすような気がします。アメリカの選手は日本の選手に比べると異常に自分勝手なので、バントの指示が出てもしたがわず、わざとバントをはずしたりする選手もいるのです。私は思うにはバントに対する考え方がアメリカの選手と日本の選手に違いがあると思います。もちろんバントと言う役割を果たしても目立つと言う事はあまり無い事で、アメリカの選手はやはりどのようなにして、少しでも自分をより目立つようにしながら自分も生かすかがアメリカの選手の考え方なので、あまりバントと言う役割に良い考えを持っていないのです。その点、日本の選手はいやがらずきちんとバントと言う役割をきちんと果たすので、ある意味で野球へのまたチームへの情熱、熱意がすごく感じられる。

次の考え方の違いはすごく不思議にずっと思っていた事です。日本の甲子園大会を見た時に気づいた事で、非常に心配な事です。それは甲子園大会の時、多くの高校チームはエースピッチャーが大会全部の試合を投げると言う事です。アメリカではいくらトーナメント式の大会になっても少なくとも二人の先発ピッチャーを使って毎試合変えます。二人のピッチャーを使うチームでも少ないほうです。ほとんどの高校は三人以上の先発ピッチャー

ーを使いそれにリリーフピッチャーも使います。ピッチャーと言う役割はボールを投げる役でとても大変な役割です。試合の中でも守備の時は一番重要な守備位置と言ってもおかしく無い所です。なおかつピッチャーと言う役割の選手は、肩への負担や体力の消耗、またよくけがをするので、アメリカではすごくピッチャーに関しては監督やコーチが気を使い、最も注意しているポジションです。だからどんな状況でも甲子園大会のように三日連続投げるような事はないのです。通常、各チーム、大会、リーグで一週間での投球数がインニング数が制限されているので、アメリカでは考えられ無い事なのです。それにアメリカの監督やコーチの考えでは、あるピッチャーがもし試合に先発で投げると、せめて三日は開けないと決まっていれば結果は出ないと思っている事もあって、一人のピッチャーを毎日使わないのかも知れません。私も自分自身がピッチャーと言うポジションでプレイをしていたので、すごく日本のピッチャーが連投しているのを見ると心配な気持ちでいっぱいです。ですからピッチャーを使う事にかんしての監督やコーチの考え方に大きく違いがあらわれていると思います。

私は今年の6月に、日米親善高校野球大会のアメリカ選抜チームの通訳とピッチャー達へのアドバイザーとして一緒に日本の長野、群馬、栃木、新潟、東京とまわる遠征に同行する事が出来ました。その大会遠征中、色々な日米の高校野球の違いを自分で経験する事ができました。まず私は日本の高校生達に日本とアメリカの野球の違いを感じますかと聞いた所、多くの日本の選手が言った事はアメリカの選手はみんな必要以上の役割を果たそうとする事です。だから打者で言うと、みんながホームランを狙う事と、ピッチャーで言うと全部三振を取ろうとする事です。その他に日本人の選手が感じた事はアメリカの選手はいつも自信があるように感じるという事です。でもさすがに日本の選手もアメリカの選手の力と大きさに全員驚いていました。

反対にアメリカの選手に日本のチームと試合をして、野球の違いを感じるかと聞いた所、まず答えた事はみんな日本の選手は頭を丸くそっているという事だ。アメリカにはこのように頭をそらないといけないという事は無いのですごく不思議にアメリカの選手は感じていた。その次にアメリカの選手に頭をそらないといけないという習慣に関してはどう思うと聞くと半分ぐらいの選手達はべつに良いと思うと答えた。野球に集中するために頭をそると言うのはけしておかしくないとその選手たちは答えた。あとの半分のアメリカの選手達はもしチームが全員一緒になってやろうと言う事であれば別にいいけど、絶対に野球部部員として、しないといけないという事に関しては大変な反対意見が多かった。私もどちらかと言うと無理にやらないといけないという事に関しては反対です。この習慣がいつ頃からまたどこから始まったのか不思議な事の一つです。私は髪型で個人の個性をあらわしても良いと思います。

アメリカ人の選手達が、他に違いを感じた事は日本の高校野球の応援です。アメリカの高校野球では試合を見に来る人はいるものの、応援団やバンドが参加してチームを応援し



てくれると言う事は無いので日本には野球の試合に応援団があると言う事に選手全員びっくりしていた。でもアメリカのフットボールの試合の応援に似てるるので、全員フットボールの試合を思い出すとっていた。でもバンドと別の応援団の人達にはアメリカ人選手はみんな関心を示し、試合中ずっと熱い中、応援する事に全員感心していた。私は甲子園大会を見て応援団の中でも試合中ずっと旗を持ち上げている応援団の人に一番感心します。私は実際、甲子園に足を運び見てきたのですがあの熱さの天気の中で旗を一試合ずっと持ち上げていると言う事は私にとって信じられない事です。アメリカはあくまで個人の能力をのばそうとし、日本はチームのため、学校の名誉、あるいは県民の代表としての意識があるので、そうした野球部以外の人達とも一つになれるのだらうと強く感じられました。

またこの日米親善試合でアメリカチーム全員にとって信じられない事が起こったのです。それは日本での五試合の中の第一戦でおきたのです。アメリカチームの大量リードでほとんど試合を決め勝利を確信していました。試合の途中ある時には10点も点差を開いて勝っていたのです。しかし、この試合の結果は日本のチームが最後まで粘り強く頑張っって同点引き分けで試合は終了しました。野球と言うスポーツはこのような点差が開くと集中力がなくなり、多くの選手やチームは勝利をあきらめてしまいます。この試合後、私はアメリカ人チームに日本人チームに関してどう思うと聞いたら、ほとんどの選手達は日本人チームにはあきらめと言う事が無いと知ったと言いました。はっきり言って、私も日本人チームの粘り強い頑張りになぞく関心してびっくりしました。アメリカの高校野球にはこのような事は絶対に無いとは言えないけれど決してあまり見れるものではないので、私も含め監督、コーチ、アメリカ人チームは全員で、すごくショックをうけた。何と言ってもアメリカチームが一番おどろいた違いは、日本の高校生野球チームの集中力と野球への強い情熱とどんな事でもあきらめない熱意です。

次に小さな事ですが、日本の高校野球では選手が自分の好きな背番号を付ける事はできません。日本では選手の守備位置によって背番号が決まります。私はこれを今回アメリカチームと同行をして初めてしりました。アメリカの高校野球では選手が自分で望んだ背番号をつけると言う事が普通です。やはりアメリカの文化は個人性を大切にすることもあって背番号の決まりは無いと思います。それと、やはりアメリカと言う国は自由の国なのもあるかもしれません。私の個人的な意見ですが、高校野球とは、やはり人生の中で日本では三年間そしてアメリカでは四年間しか出来ない限られた期間の事なので背番号は自分の好きな番号を付けられる方が良いと思います。アメリカの選手は背番号に関してはすごくこだわる事なので決まった番号を付けると言う事は考えられない事です。アメリカでは選手それぞれ憧れる選手がいるのでその憧れの選手の背番号を付けたがります。中には人気の無い番号を付けて自分でその番号の存在を大きくしようとする選手もいるのです。とにかく本人の意志ではなく決められた背番号を付けて日本の高校生がプレイしていると言う事

に関してもびっくりしました。

最後に最も日本とアメリカの高校野球で違うと思ったのはクラブ活動の中での先輩、後輩の上下関係です。もちろん日本では野球だけでは無く毎日の生活の中で、他の場面でも良くある事です。アメリカの高校ではほとんど上下関係と言った習慣はありません。まったく無いとは言えませんが一年生が道具を運ばなければいけないくらいです。立場としては野球の成績が上の人間が上です。たとえば、もし5勝している四年生のピッチャーと7勝している一年生のピッチャーがいるとしたら、一年生の選手の方が立場は全然上です。私は日本の野球部で野球をした事が無いのでこの件に関してはどっちの方が良いか分かりません。おもしろい事に、私の経験ではアメリカで高校二年生の時には一番良い時だったので多くの先輩より立場が上でしたが、高校四年生の時にはけがであまりプレイしてなかったために多くの後輩の方が立場は上でした。ですから以外な経験もしました。

日米の高校野球の違いには本当に不思議な事が沢山あります。中でも日本の甲子園大会などは日本にしか無い大会だと思えます。私が最も不思議に思った事は同じ野球と言え、国と文化によってこんなに違いがあると言う事です。私は同じ野球の中で、こんなにも中身が違うとは夢にも思って無かったのです。また、中でも日本の甲子園大会などは日本にしか無い大会だと思えます。私が一番日本の高校野球で良い事だと思ひ興味深く感じるのが、普段はあまり野球に関心を示さない人でも、日本中の人々が甲子園大会の時期になると熱く盛り上がる事です。甲子園大会のような盛り上がりはアメリカの高校野球には決して無い事です。その点は日本の高校生がうらやましいです。私は日本にもアメリカにも両方、良い面が沢山あるので、今後も文化、風習、言語は異なりますがその違いを乗り越え同じ野球と言うスポーツを通じてお互いが良い事を見習って、野球だけではなく全ての面において、これからも交流を進めて行って欲しいと願っています。

# 近世武士の食生活

シモン・ウォジツキ

近世の食生活に関する資料を探していたとき、『隠居大名の江戸暮らし』という本に偶然出会った。衣食住という生活の基礎が、近世の武家社会でどのようなものであったのか、少しずつこの疑問を明らかにしてくれる本である。この研究などを資料としながら、日本の生活様式や伝統文化の多くが形成された江戸時代の武家の暮らし、とくにその武家の食生活について述べたいと思う。

三代将軍家光の代の話である。家光のお話衆役に任ぜられた大名たちは、毎日弁当を持参して登城し、城中萩の間で食事をとることになっていた。そんなある日のことである。お話衆の一人が弁当のおかずには鮭の切り身をいれていったところ、皆が大変珍しがったという。

何ともつましい話だが、こののエピソードによって、江戸初期の武士の食生活がいかに簡素であったかがうかがえる。将軍、大名からしてこうなのだから、一般武士の食生活は、推して知るべしである。

この頃はまた、一日の食事は朝夕二回というのが普通であった。単に「朝夕」といえば食事のことを意味したほどである。武士もむろん、一日二食である。一日三食に慣れた現代人から見ると、さぞ腹が減ってたまらなかったことだろうと同情したくもなるが、当時、成人一人の一日当たりの食費は五合とされていたから、現代人よりずっと大食だったわけで、一回に大量の米飯を詰め込めば、そう空腹に悩まされることはなかったのかもしれない。

では、彼らはその二食を、一日のどの時間に食べたのか。記録によれば午前八時と午後二時となっている。要するに、朝食の時間は現代と同じなのに、夕食は随分早かったわけだ。米はまだ精白されず、玄米を食した。食器も、そう上等のものは使われなかった。調味料では、砂糖などはきわめて高価だった。

しかし、このような質素きわまる武士の食生活は元禄（一六八八～一七 四）のあたりから急速に変わり、ぜいたくになってくる。

まず、夜食が出されるようになる。その習慣は元禄年間に広まったものとみられている。一日二食が三食に変われば、当然おかずの内容も豊かになり、季節のはしりものなどが珍重されるようになった。

精米技術が進歩して、白米が一般に普及するのも、元禄のあたりからである。白米はす

で寛文（一六六一～七三）の頃から一部階級の常用食になっていたから、将軍や大名はすでに白米を口にしていたと思われるが、五代将軍綱吉などは白米ばかり食べていて、とうとう脚気になる始末だった。ついでに言えば、脚気なる病気は白米食の普及とともに急増した。

さらに、武士や富豪の間に外食の習慣が広まったのも、元禄期の特色の一つであった。ということは、町中に専門の料理屋や仕出し屋が出現したことを意味するが、この風潮ははじめ京、大阪方面におこり、次第に江戸にも普及していった。

以後、料理屋が次々と店開きし、文化・文政年間（一六 四～三 ）には、料理飲食店の数は江戸だけで約六千軒にのぼった。

## 1 将軍・大名家の食膳

将軍や大名ともなると、食事ひとつを取ってもなかなか大変である。

食事は、表御殿の御膳所や台所で調理され、そこは膳奉行あるいは台所奉行が管理している。献立は前日に決められたようで、その献立表をまず主君に見てもらい、OKが出た時点から食事づくりの準備がスタートする。材料は細心の吟味が加えられ、米は一粒でも傷があったりしてはならなかった。

料理ができあがると、必ず行われるのが毒味である。毒味は近習の者を最終として複数の人間が行うことが多く、また台所と食事の場がかなり離れてもいたので、将軍や大名はたいがいアツアツの料理を味わうことができなかったという。

将軍・大名が食事をとるのは、通常、表と奥の間にある中奥のなかの一室だったが、表や奥で食べることもある。調理がすんだ食事は、配膳役によって所定の一室へ運ばれ、次の間に控えた小姓が取次ぐ。そこでも、毒味が行われたらしい。それが済んでようやく、将軍・大名は朝食なり夕食を口にすることができたようである。

このように、食事までの手順は煩雑だが、料理の内容はそれほどでなく、案外質素だったようだ。

たとえば、八代将軍吉宗は、一汁三菜をきびしく守り、しかも「身を養うには一日二食で十分だ」といって、当時広がりつつあった一日三食の習慣を頑強に拒否したという。

## 2 武家の食膳

一般武家といってもピンからキリまであり、禄高数千石という重臣や旗本の大身は、かなりの程度大名に近いレベルの食生活をしていたことと思われる。それゆえ、ここでは中下級武士の状況をみることにしたい。

武家の家計はかなり初期から、慢性的な赤字状態に陥っていた。従って、切り詰められるものは、できるだけ切り詰めなくてはならない。となると、一番その皺よせを受けやすいのは、今も昔も変わらず食生活である。

そのため、中下級武士の家庭では、屋敷の裏庭を畑にするなどして、副食品の自給自足をはかるケースが多くなっていった。

だが、下級武士の中には、その自給自足さえままならない者もいた。子供が多いとさらに大変で、そんな家庭では内職に精を出して麦や粟を買い、辛うじて一日一日を糊することになる。おかずも何かあるというほどではなく、こちら辺が武士の食生活の最低クラスということになるであろう。

### 3 酒

「もろはく」と言う清酒が作られるようになると酒造業が発達し、酒屋や居酒屋が繁盛した。

江戸時代の酒づくりの本場は、伊丹、灘、奈良などに代表される上方（かみがた）であった。江戸では、これらの産地から送られてくる酒を、上方から下（くだ）ってくるという意味で、下り酒と呼んでいた。下り酒には、上等の酒といったイメージがこめられている。江戸は、大変な酒消費都市だったと思われる。

しかし、この傾向は江戸ばかりではない。この時代は、地方でも武士、町人の区別なく、概してよく酒を飲んだようだ。話を武士に限れば、勤務態勢が非常に暇だったので、無聊をもてあまし、つい酒に手がのびるということもあったのであろう。

最後に酒宴の話の一つ。公式の饗宴の場合は、昼に行われるのが決まりであった。ちゃんと正装をして、式膳の前にかしこまるわけである。酒を飲みはじめの前に、まず一膳、口にするのが礼儀だったようだ。饗宴が長びき、夜まで持ちこされたりすると、略服に着換え、膳部も略されることになっていたという。饗宴の席は、将軍や大名家なら、必ず表（御殿）に設定された。

このような公式の饗宴では、とかく礼式が重視され、肩のこる雰囲気終始しがちだったが、気の合った朋輩との私的酒宴となると、様相はガラリと変わってくる。泥酔して放歌乱舞といった図が珍しくなく、その傾向はことに下級武士の間に強かった。

### 4 行事食と封建制度

江戸時代の封建制度は、人生の節目に行われる諸儀礼や季節の行事にも影響を及ぼし、そこで出される食事は階層性が明確であった。

武家では材料の大きさや招待客の規則などで家格を誇示し、町家では財力を持って料理の質を高め、おいしさに気を配った。

季節見舞いは、暑中と寒中とに行われる。暑中見舞い、寒中見舞いとも暑入り・寒入りの翌日から数日間に贈られることが多い。暑中見舞いとしては魚介では干鯛、うなぎ、しじみなど、鳥では国元の鳥、五位鶯など、野菜では白瓜、里芋、茄子、きゅうりなど、果物では真桑瓜、桃、西瓜など、菓子では煎餅、葛まん、餅菓子、白玉、みずのこ、かる焼

きなど、その他としてはすし、素麺、うどん、道明寺、甘酒、酒などが贈られた。時代が下がってくると暑中見舞いにも変化がみえる。従来通りのものに加えて、すしでは巻きずしなど、果物も種類が増え、砂糖や焼酎がかなりもちいられるようになる。

しかし、砂糖は大家でもまだ貴重品であって、文政期末までは稲葉家でも年に一、二回しか見られない。主な食品の手配をしていたと思われる役所においても、文化十三年(一八一六)には黒砂糖一斤という記録が一回あるのみである。砂糖が増えるのは文政期末から天保にかけてのことで、これが日本における砂糖の普及を示していると思われる。そして、単に砂糖という記録から次第に白砂糖となっていくのは天保十年(一八三九)以降のことである。

寒中見舞いとしては魚介では干鯛、寒鮎、鮭、はららこ、かきなど季節の品が、鳥では鴨、玉子、野菜ではぎんなん、果物ではみかん、ころ柿など、菓子は暑中の品とほぼ同じく、その他としてすし、海苔、昆布巻き、甘酒などが用いられている。天保以降になると魚介ではからすみ、むきみ、はんぺんといった加工品が、鳥では雉子や雁など多種多様になっている。

## 5 供食

調理された食べ物は、食器に盛られ膳に置かれる。食器の種類、数、配膳方法などは、食事の種類、身分などによっても異なるが、個人別の配膳が原則であった。食器は、それまで用いられていた漆器のほか陶製食器が用いられるようになった。また、膳は貴族や大名では三方や四方が使われ、武家や町人では塗り物膳を多く使い、木具膳なども使われた。

膳の出し方や食べ方には一定の作法があり、上層階級の人々のうちでは、その作法の習得することも大切な教育項目の一つであった。

## 6 命と食生活

江戸時代後期の平均寿命は28歳程度というから驚きである。

これは70パーセント以上に及ぶ乳幼児死亡率の高さに起因するが、20歳まで無事成長したとしても、平均死亡年齢は60～65歳で、現在の75～80歳に比べかなり短い。死因のトップは飢饉に際して起こる餓死や疫病であるが、次には天然痘、梅毒、麻疹、結核、インフルエンザ、食中毒、脳卒中、脚気が上位にくる。また、日常的な病気としては眼病、皮膚病、虫歯や歯槽膿漏、痔などがあげられる。

これらの発病には衛生や知識の程度だけでなく、食生活の内容も大きく影響している。伝染性疾患や脳卒中は栄養状態、特に蛋白質の摂取不足があると重病になりやすい。蛋白質の主な供給源は肉、魚、大豆、卵であるが、これらは脚気を予防するビタミンB<sub>1</sub>と皮膚病や目病予防に必要な油脂類の供給源でもある。

脚気は心臓発作を起こすと、二・三日で死亡する怖い病気で、元禄ころから目立ち始めた。白米の普及時期と重なるため、その原因は一般に白米の多食と理解されているが、他の疾病状況からみて慢性的な動物性食品の不足の影響も大きいと見るべきだ。

歴史は、過去という時代の、社会や人々の動きを知ることである。事実と、その背景や因果について、考えることである。

しかし、現在という時間の中に、歴史の「あと」を見ることも、大切ではないかと私は思う。

江戸時代の生活文化は、現代の日本人の日常生活の営みに脈々と通じており、現代の日本文化の研究に欠かせない資料を提供してくれる。昔のことが現代の社会にもまだ残っている。まだ「古い日本」は生きているのである。日々の生活の中で歴史を感じるのが大切だ。

#### 参考文献

- |                  |          |     |         |
|------------------|----------|-----|---------|
| 「図録・近世武士生活史入門事典」 | 武士生活研究会編 | 柏書房 | 1991    |
| 復元 江戸活図鑑         | 笹間良彦     | 柏書房 | 1995    |
| 江戸事情 第一巻生活編      | 樋口清之(監修) | 雄山閣 | 出版 1991 |





# 自然描写と人物心理の一致

## 有島武郎の『カインの末裔』を通して -

陳 穎

### 1. 序論

文学作品の中で、登場人物の心理を表現するのは非常に重要である。その方法には、心の動きや意識の在り方を分析して描く、所謂「直接心理描写」と、言語、動作、表情、自然状況などの描写を通して、心の動きを表現する、所謂「間接心理描写」とがある。前者については、すでに言及した研究いくつかあるが、後者、特に自然描写については、十分な研究は行われていない。果たして、自然描写と登場人物の心理とはどのような関係があるのだろうか。また、自然描写によって登場人物の心理は、いかに表現しうるのだろうか。そこで、本稿では、有島武郎の『カインの末裔』における自然描写と主人公である仁右衛門の心理がいかに一致するかを考察することによって、自然描写が登場人物の心理を適切に表現しうるか否かを論証してみたい。本稿では、まず第1に有島武郎と彼の作品『カインの末裔』について紹介する。第2に自然人としての仁右衛門の生き方を考察する。そして第3に、自然描写がいかに仁右衛門の心理と一致するかを検証する。

### 2. 本論

#### 2.1 有島武郎と作品『カインの末裔』

有島武郎 - 小説家、評論家の有島武郎は明治11年(1878年)東京に生まれた。弟に洋画家の有島生馬、小説家の里見がいる。札幌農学校(現、北海道大学)卒業後、アメリカに留学し、ハーヴァード大学等で勉強した後、ヨーロッパで1年ほど生活している。帰国後、母校の教授となり英語や倫理などを講じた。明治43年同人雑誌『白樺』が創刊されると、同人として加わり文学活動に乗り出す。そして、『カインの末裔』や『生まれ出づる悩み』などの創作活動を通して社会矛盾や、芸術と実生活の相克を描き出した。武郎は大正8年の3月から4月にかけて、『或る女』の後篇を書くために、円覚寺の松嶺院に滞在した。さらに、『宣言一つ』を大正11年に発表して自己の立場を表明し、他方で財産放棄や生活改革を考える。実際に、北海道の狩太農場を開放し、白樺理想主義の実践を行なった。同年、個人雑誌『泉』を創刊して、生活および文学の打開を計った。大正12年(1923年)軽井沢の別荘で、波多野秋子が45歳でこの世を去っている。

『カインの末裔』は、大正6年7月に『新小説』誌上に発表され、有島武郎の文壇における評価をほぼ確立させたものであり、文壇外の読者層から熱烈に迎えらるるに至った第一歩の作品である。それまでに有島は長篇『或る女のグリンプス』をはじめ、『An Incident』『首途』（『迷路』の序篇）『宣言』『お末の死』など、相当に読みごたえのある長、短篇をいくつか発表していたが、一部の人々を除いては注目するものがなかった。「カインの末裔」は北海道狩太の有島農場に実際に居たことのある開拓農民をモデルに書かれている。しかし、全体は虚構の作品である。この作品を読んで、最初に気付くのは自然状況についての描写である。自然状況と主人公 仁右衛門の心理との一致はこの作品の著しい特徴だと思われる。

## 2.2 自然人 仁右衛門

自然状況と主人公 仁右衛門の心理との一致を検証する前に、主人公の仁右衛門の自然人としての生き方を明確にすることが重要であると考えられる。では、次の引用を見よう。

茲に一人の自然から今掘り出されたばかりのやうな男がある。而も掘り出された以上はそれが一人の人間であって、その母胎なる自然と噛み合はなければならぬ運命を荷ふと同時に、人間生活に縁遠い彼は、又人間社会とも噛み合はなければならぬ。彼は人間と融和して行く術に疎く、自然を征伏して行く業に暗い。それにも拘らず彼は、そのディレンマのうちに在って生きねばならぬ激しい衝動に駆り立てられる。それは人からは度外視され、自然からは継子扱ひにされる苦しい生活の姿を描き出すであろう。カインの末裔なる仁右衛門は、その人である。（「自己を描出したに外ならない『カインの末裔』」  
『新潮』大正八年一月号より）

こう説明されているようなパースペクティブのもとに、有島はこの作品では、旧約聖書の中に出てくるカイン 弟アーベルを殺したために神から永遠の流浪者たるべく運命づけられたカイン の末裔に喩えられる広岡仁右衛門という野性そのものの人物を取り上げた。仁右衛門はマッカリヌプリ山麓の農場にどこからともなく流れ込んでくるが、農場の規則などは無視して無法者的振る舞いを次々と重ねた挙句、農場関係の全ての人たちから見放され、赤ん坊は病気で失い、愛馬も競馬のときの事故で失い、妻とともにどこへともなく淋しく立ち去って行く。この作品では、以上のような無知の自然人の獣めいた生活の実相が白日のもとに照らし出されている。

主人公 仁右衛門の自然人としての生き方を明確にした上で、次に入りたい。

## 2.3 自然描写と仁右衛門の心理

ここでは、『カインの末裔』のプロローグ、第三、四、五章、そしてエピローグという順序で、考察していきたい。

### 2.3.1 プロローグについて

作品最初の舞台は、冬が「空まで逼った」北海道の、夜に入ろうとする荒涼たる大草原である。こんな風景を背景にして、農夫である仁右衛門夫妻が登場した。

長い影を地にひいて、瘦馬の手綱を取りながら、彼れは黙りこくって歩いた。大きな汚い風呂敷包と一緒に、章魚のように頭ばかり大きい赤坊をおぶった彼れの妻は、少し跛脚をひきながら三、四間も離れてその跡からとぼとぼとついて行った。

北海道の冬は空まで逼っていた。蝦夷富士といわれるマッカリヌプリの麓に続く胆振の大草原を、日本海から内浦湾に吹きぬける西風が、打ち寄せる紆濤のように跡から跡から吹き払っていった。寒い風だ。見上げると八合目まで雪になったマッカリヌプリは少し頭を前にこごめて風に歯向いながら黙ったまま突立っていた。昆布岳の斜面に小さく集った雲の塊を眼がけて日は沈みかかっていた。草原の上には一本の樹木も生えていなかった。心細いほど真直な一筋道を、彼れと彼れの妻だけが、よろよろと歩く二本の立木のように動いて行った。

プロローグにおける自然描写は仁右衛門のどのような心理を表現するのであろうか？次の四つのキーワードを中心に分析したい。

キーワード	仁右衛門の心理
「寒い風」	厳しい自然と闘わなければならない
「日は沈みかかった」	落ち込んで行く
「一本の樹木も生えていなかった」	荒涼、茫然
「心細いほど真直な一筋道」	自分のこれからの運命をこの大草原に賭けるほかしかない。

有島は、以上のような自然状況を設定して、仁右衛門の心理の動きを読者に伝達するのではなかろうか。

### 2.3.2 三章について

仁右衛門は農場に帰るとすぐ遅しい一頭の馬と、プラオと、ハーローと、必要な種子を買い調えた。

農場でたくましく働く仁右衛門が明るく描写されている。それには、明るい自然描写が対応している。

林の中の雪の叢消えの間には福寿草の茎が先ず緑をつけた。つくみとしじゅうからとが枯枝をわたってしめやかなささ啼きを伝えはじめた。

風も吹かず雨も降らず、おとのないよるだった。

枝に残った枯葉が若芽にせきたてられて、時々かさっと地に落ちた。天鷲絨のように滑かな空気は動かないままに彼れをいたわるように押包んだ。荒くれた彼れの神経もそれを感じない訳には行かなかった。物なつかしいようななごやかな心が彼れの胸にも湧いて来た。彼れは闇の中で不思議な幻覚に陥りながら淡くほほえんだ。

以上のように、冬から春へと変わる季節が描写されている。作品最初の自然「一本の樹木も生えていなかった」とは違い、第三章では「緑」、「若芽」という明るく感じさせられる描写が出て来る。冬から春への変化は主人公の気持ちが明るくなっていくことを想像させられる。

### 2.3.3 四章について

四章は、特に自然あるいは天候と、仁右衛門の気分との対応が著しい。まず、次の自然描写を見てみよう。

春の天気の順当であったのに反して、その年は六月の初めから寒気と淫雨とが北海道を襲って来た。早魃に饑饉なしといい慣わしたのは水田の多い内地の事で、畑ばかりのK村なぞは雨の多い方はまだ仕やすいとしたものだが、その年の長雨には溜息を漏さない農民はなかった。

森も畑も見渡すかぎり真青になって、掘立小屋ばかりが色を変えずに自然をよごしていた。時雨のような寒い雨が閉ざし切った鈍色の雲から止途なく降りそそいだ。低味の畦道に敷ならべたスリッパ材はぶかぶかと水のために浮き上って、その間から真菰が長く延びて出た。蝌斗が畑の中を泳ぎ廻ったりした。郭公が森の中で淋しく啼いた。小豆を板の上に遠くでころがすような雨の音が朝から晩まで聞えて、それが小休むと湿気を含んだ風が木でも草でも萎ましそうに寒く吹いた。

農夫の運命が自然あるいは天候に密接に関わっていると言えよう。六月のはじめからの「寒気」と「淫雨」に憂鬱になっている彼は、運送店に馬車追いに出かけるが、仕事がな

い。そして賭博をやり敗ける。その帰り道は次のように描かれている。

だらしなく降りつづける雨に草木も土もふやけ切って、空までがぼとりと地面の上に落ちて来そうにだらけていた。面白くない勝負をして焦立った仁右衛門の腹の中とは全く裏合せな煮え切らない景色だった。

この不快感により、仁右衛門は佐藤の子を殴り、さらにその父にまでも暴力をふるうことになる。プロットの進行の契機に天候の不快が直接関わっていると見えよう。

#### 2.3.4 五章について

五章では、仁右衛門の運命はまた転機がある。彼は、大金が入ったために、居酒屋で大いに酒を飲み、帰りに妻に「モスリンの端切れ」を買って帰る。その帰り道の夜の自然描写は以下のものである。

幾抱えもある椴松は羊歯の中から真直に天を突いて、僅かに覗かれる空には昼月が少し光って見え隠れに眺められた。彼れは遂に馬力の上に酔い倒れた。物慣れた馬は凸凹の山道を上手に拾いながら歩いて行った。

ここで、「馬」も自然状況であると考えられる。「真直」な「椴松」や「山道を上手に拾いながら歩いて」いる馬が非常に明るいイメージが感じられる。

#### 2.3.5 エピローグについて

仁右衛門夫妻が「何処からともなくk村に現れてから」、一年を経て再び冬となる。「自然」と「人間社会」と対決し、敗れ去った「自然人」の、再び何処ともなく、去ってゆく悲劇的フィナルである。

その辺から人家は絶えた。吹きつける雪のためにへし折られる枯枝がややともすると投槍のように襲って来た。吹きまく風にもまれて木という木は魔女の髪のように乱れ狂った。

二人の男女は重荷の下に苦しみながら少しずつ倶知安の方に動いて行った。

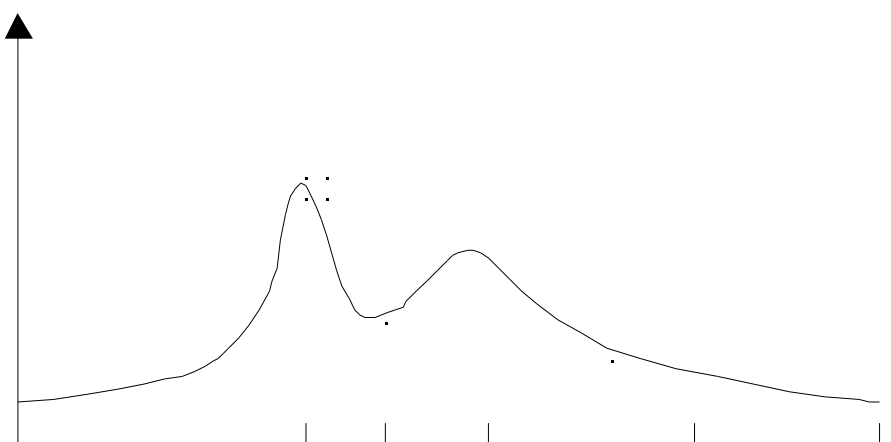
椴松帯が向うに見えた。凡ての樹が裸かになった中に、この樹だけは幽鬱な暗緑の葉色をあらためなかった。真直な幹が見渡す限り天を衝いて、怒濤のような風の音を籠めていた。二人の男女は蟻のように小さく

その林に近づいて、やがてその中に呑み込まれてしまった。

プロローグと同じように、北海道の荒涼たる冬の風景が描写されている。そして、プロローグと同じように、仁右衛門の茫然たる気持がもう一度感じられるのであろう。

### 2.3.6 まとめ

最後に、作品全体から見てみよう。主人公である仁右衛門の一年を春・夏・秋・冬、四つの季節に分けて見れば、自然状況と主人公の心理との一致が一目瞭然であろう。



上の図が表記しているように、仁右衛門の一年で、順調な境遇は明るいイメージが感じられる季節、即ち春と夏にあった。それに対し、寒さの厳しい冬と「寒気」、「淫雨」に襲われた6月、そして収穫のない秋は仁右衛門の気分の低迷期であった。一般的に、秋が収穫の季節であると考えられるが、作品自体から見れば、仁右衛門の秋はそうではない。次の引用から、分かるだろう。

春先きの長雨を償うように雨は一滴も降らなかった。秋に収穫すべき作物は裏葉が片端から黄色に変わった。自然に抵抗し切れない失望の声が、黙りこくった農夫の姿から叫ばれた。

## 3、結論

以上、『カインの末裔』における自然描写と主人公の心理の一致性について検察して見た。以上のような対応関係を有島武郎が意識的に設定していることは疑いない。では、なぜ自然描写と主人公の心理とが一致しているのでしょうか。その疑問を解決するには、

主人公の自然人としての生き方を考えなければならない。本稿の 2.2 が説明したように、仁右衛門は「無知の自然人」であるために、内面からの造型、即ち直接心理描写がしにくいである。そして、人との接触が汚らしい言葉と暴力に限っているため、心理を表現する言語も表情も欠乏した人物である。すなわち、仁右衛門のような登場人物の心理を表現するには、直接心理描写および言語描写、表情描写などの間接心理描写は不適切である。だから、自然描写を通して、心理の動きを表現するのはよい方法であると言ってよいだろう。

無論、『カインの末裔』だけでは、十分に論証できない。自然描写を通して、登場人物の心理を表現する有島の作品が、他にも様々であると思われる。例えば、『生まれ出づる悩み』も注目しなければならない例である。同じ作家でも登場人物によって、自然描写の方法と果たす役割は違うであろう。『生まれ出づる悩み』の中で、主人公「君」は、学生生活を中絶して、北海道の荒海を相手に漁夫として生活を立てながら、強い画家志望にとらえられた青年である。そして、「私」は、北海道に農場を持ちつつ、作家としての自己確立を図っている人間で、ほぼ作者有島その人に重なっているといつてよい。「この二人の苦悩が『この地球の生まんとする悩み』として意味づけられている。北海道の大自然の持つスケールとダイナミズムは、単なる背景ではなく、両者（主人公『私』と『君』）の芸術を生み出す根源的な原動力となっている。」（『生まれ出づる悩み』 相原和邦）自然の中の野性に憧れ、それを常識道徳や社会的制約を踏み破るテコとしようとしていた当時の有島は、作品を通して、自分の志向をアピールしていたのであろう。

『カインの末裔』また『生まれ出づる悩み』のように、有島文学の「労働」と結びついた自然のとらえかたは、日本近代文学史上でも見過ごせない位置を占めると言われている。

#### 参考文献：

- 『悲劇の知識人 有島武郎』 1983年1月10日 安川定男 新典社刊
- 『有島武郎集』 1970年9月15日 現代日本文学大系35 筑摩書房
- 『有島武郎』 1986年3月10日 日本文学研究資料業書 有精堂
- 『生まれ出づる悩み』 相原和邦





# 三島由紀夫の『仮面の告白』と『金閣寺』と『禁色』 におけるニヒリズム

ヘレナ・バートン

三島由紀夫（本名公威）は1925年に東京で生まれ公務員の長男だった。1944年に天皇の表彰をもらって卒業してから1948年に最初の小説を書いた。しかし、1949年に『仮面の告白』を書いた時まで文学的な偉い地位まだ完全に定めていなかった。彼は小説を8冊、歌舞伎の芝居を4冊、短編を50冊、1幕の芝居を10冊と小論の本を幾つか書いたわけである。

三島は日本の帝国の歴史の強さを信じていたが、戦後の日本の西洋化が彼に深い痛みを感じさせたようである。この気持ちは小説の中によく反映されている。1970年に彼は政府に対してのクーデターが失敗してから切腹した。

1950年に三島は能芝居9冊を現代的に書き直し、複雑な事も書き入れた。こうして、三島は『仮面の告白』の書く様式を繰り返していった。能芝居を書いた時に三島の想像力は伝統的で特別な能芝居のおかげで制限された。また、『仮面の告白』を書いた時に、彼は、彼の詩的な様式をやめて、もっと論文的な様式で書いた。それで本当に有名になった。

この次に三島は和風と洋風な書き方が混ざった小説を発表した。この時代に日本でヒーローがいた小説は少なかったが、三島の小説は洋風な小説みたいにヒーローがいた。しかし三島のヒーローの感情を読者に理解させるのは難しく、時々ヒーローとアンチヒーローの違いは分かりにくかった。特に『禁色』においては読者は主人公である「悠一」に同意したり「俊輔」に同意したりを繰り返す。

三島は洋風な様式でよく書いたけれども彼の小説の中に物語りと関係なさそうな部分もあり、この写実的な書き方はとても日本式であった。そうして、小説に出てくる場面はよく変化して、洋風な小説を好む読者にとってこの書き方は可笑しいと思うが日本では珍しくない。それで三島は洋風と和風な様式を混ぜながら小説を書いたわけだ。

『仮面の告白』はおそらく三島の作品の中で一番面白い小説であろう。私小説とよく呼ばれているが本当に自叙伝と言う物ではないであろう。若者の人生や彼の同性愛や社会から除外される事の話だ。主役の伝記の細かい事は三島と同じで、主役は「こうちゃん」と呼んで、三島の本名は本名公威だから、名前さえにも作家と主役が似ているわけである。

しかし、この時代の日本では文学の心は告白ばかりだったようである。でも三島自身はインタビューではっきり、美術と命は離れた世界の事だと思おうそうだ。この小説の題名『仮面の告白』も小説の解釈のし方について手がかりを暗示している。「Lippit」というイギリスの研究者によると三島は“The true essence of confession is its impossibility, for only a mask with flesh can confess”と言った。この意味は本物の人間は正直に告白ができないが仮面をかけている人間は、その道具でフィクションと実際を混ぜながら心から告白ができるという意味である。

自叙伝でも、出来事を個人的に解釈するとそれ故にフィクションになるわけであろう。このとおり、『仮面の告白』は完全なフィクションではなくても自叙伝と呼ばれるわけではない。三島由紀夫についてのいい伝記が存在していないが『仮面の告白』を彼の同性愛と若い頃の事の告白で読んでいいと思う。

文学的な話題で同性愛を告白するのは先例のない事であった。三島にとって書く様式が変わる時であり、初期の作文の詩的な様式が終わって、もっと成熟して、論理的な様式が始まった。この『仮面の告白』で始まった成熟した書きの方が成功であった。

一方で三島の同性愛を告白している小説だけではなく、彼の本当の顔より仮面の方が好きな事を告白し、詩より構造がなく現代的な書き方で自分の感じを表現する事の方が楽だという事も告白していると思う。

自己性欲も同性愛も三島の小説の中ではよくあるテーマだが三島の性欲における他の告白もある。彼の人生の終わりにボディビルと軍隊の従事に特に興味を持つようになった。理由はおそらく好きな男のようになりたがっていただろうがこれでも三島の性欲についての告白している。三島はサディストでもこの運動を一生懸命やってみる部分は三島の劣等の気持ちを告白していて、面白いと思う。

いろいろな告白をしている部分はある。三島の小説の中に女嫌いは大事なテーマで、これも告白的に彼の性欲と関係があるテーマだ。女嫌いと言うテーマは『禁色』に特に明白だと思う。『禁色』の語り手は女性が彼の人生を破滅させたと信じて、女達に仕返しを試みるわけである。『禁色』の中に女性は唯物論者で意地悪い物と描写されている。

『でも。。。恭子は泣きながら、謙虚に身を擦った。「あたくし、今、まだ憎む余裕なんかありません。ただ、恐ろしいだけです。」 p.132

この例で「恭子」は「悠一」がいないと存在できない女として描写されている。自分の決定ができない女で可哀想な気が弱い人間で描写されている。この前に「恭子」は「悠一」に

『私の死ぬか訴えるか、とどちらかします。』 p.131

と言うので読者は彼女が愚かであることをよく分かるようになって、強くて賢い女で敬えないものになる。三島の作品の中で、ある女性はずっとこんなに馬鹿にしている。しかし三島の作品の中では女嫌いばかりではなく、外人嫌いも大事なテーマである。特に金閣寺の中で外人差別が多い。

『彼は抒情詩人なのかもしれないが、その澄んだ青い目は残酷に感じられた。。。彼の太手が下りて来て、襟首をつかまえて私を立たせた。しかし命ずる声音はやはり温く、やさしかった。「踏み、踏むんだ。」抵抗しがたく、私はゴム長靴の足をあげた。米兵が私の肩を叩いた。私の足を落ちて、春泥のような柔らかいものを踏んだ。それは女腹だった。女は目をつぶって呻いていた。「もっと踏むんだ、もっとだ。」私は踏むんだ。』 p.83

この例で外人嫌いも、女嫌いも、三島のサチズムも描写されているのでとてもニヒリスチックで大切な引用だと思う。

三島の小説のテーマというのは、同性愛や女嫌いや外人嫌いよりニヒリズムというテーマの方が強くて目立つ事だと思う。シェークスピアのハムレットのように、三島の世界の中ではすべてが腐敗していて感動させるものは何もないようである。三島は破壊に取りつかれている。『仮面の告白』の中では、この破壊は感情的な破壊である。

『素晴らしいことであった。愛しめせずに一人の女を誘惑して、むこうに愛がもえはじめると捨ててかえりみない男に私はなったのだ。』 p.176

しかし『仮面の告白』の中では「こうちゃん」は女性を感情的に破壊させるばかりではなく、彼自身にも感情的な痛みを感じさせて絶望させている。

『それはその時々私が仮構した「甘さ」の調子でもなく、また後になって私が整理の便法として用いた事務的な調子でもなく思い出の隅々までが一つの明瞭な、苦しみの調子に貫かれていた。。しかしこの痛みは悔恨ですらなく、何か異常に明晰な。。苦痛なのである。』 p.192

本当に感情的なニヒリスチックな例である。このように、『禁色』の中ではこの破壊は社会的な破壊である。「悠一」はずっと俊輔の命令で感情も愛も行儀も考えずにいろいろな女性や少年と寝てしまい、社会的な規則を破壊をしている。

『「君は危険な付き合いがあるんだね。」電車が歩み寄りながら、俊輔がそう言った。

「だって、先生だって僕なんかと附合があるじゃないですか？」悠一がそう応酬した。

「殺すとかどうとか言っていたようだが。。。」 p.380

この例で描写するように『禁色』の中では倫理とか社会的な行儀は完全によじれていて破壊されている。『金閣寺』の中ではこの破壊は物質的な破壊である。最初の部分から主役は物に損害を与えている。

『私はポケットから錆びついた鉛筆削りのナイフを取り出し、忍び寄って、その美しい短剣の黒い鞘の裏側に、二三条のみにくい切り傷を彫り込んだ。』 p.11

この有害な行動は終わりまで続く。彼は女性の腹を踏んで、最後に本物の金閣寺を燃やす。

『ここから、金閣の形は見えない。渦巻いている煙と、天に沖している火が見えるだけである。木の間をおびたらしい火の粉が飛び、金閣の空は金子砂子をまいたようである。』

p.275

戦時中に生まれた人たちの中でこのような破壊に取りつかれる事は珍しくない。三島は戦時中に殺されなくて怒っていたと思う。『自分の未来から救うために戦争に殺されるはずだった。』( The war ought to have killed him and saved him from his future )と書いていた研究者もいる。

どんな理由でも三島は正常より異常、感情的な関連より孤立、感激より身体のエロチシズムの方が好きというのは事実だと思う。三島が書いた登場人物は別の性格がない物で、他の登場人物からも読者からも感情移入を引き起こされない物だそうである。『金閣寺』の少年は特に性格がない者である。本物の少年のような描写ではなく、一般的な若者のような考えだけだと思う。あるいは陰気でニヒリズム的な描写である。

『実際に着手して、何かをやり遂げようという気持ちがまるでなかった。。孤独はどんどん

肥った、まるで豚のように。』 p.11

三島自身と三島の小説の登場人物は自己陶醉のかげで孤立させているか同性愛の問題のかげで孤立させているか分かりにくいですが、どんな理由より孤立させているという事実の方が大事な点だと思う。三島の小説の中では人間の人生に対する支持とか希望は全然描写されていない。

三島の小説の中ではいろいろな分かりにくいシンボルがあり、読みながら考えなければならぬ点もたくさんあり面白いと思う。例えば、同じ名の小説の中に金閣寺が燃え

尽きた場面は、一方で若者の禅に対して反抗する事や新しい洋風の生活に影響される事の隠喩で書いていたかもしれない。また一方でこの場面は戦後の社会的な反抗と社会のニヒリズムのシンボルかもしれない。

たぶん、この二つの説明よりもっと簡単な説明の方がよいかもしれない。例えば、場面は三島の美しさが嫌いな気持と破壊が欲しい気持を告白しているのかもしれない。いろいろな考え方があるので三島の小説を読むと面白い。

しかし、三島のニヒリズムはたくさんの要素の結果であろう。彼は日本の文化を愛していて、戦後に文化の破壊が起こると思いながら、否定的になったからかもしれない。もう一つの考え方は戦時中に三島はロマンチックで悲劇的な死を望んでいたがかなえられなかったので、人生はいつまでも同じように興味やパッションなしで続いていると三島は思っていた。同じ考え方で、戦後に金閣寺はまだそのまま建ち続けているが今日日本の誇りのシンボルではなく、破壊する方がよかったと思って少年は火をつけたわけである。

この意味がなく、つまらない、いつまでも続いている人生は『禁色』にも大切なテーマだと思う。「俊輔」は「悠一」の美しさを見ると苦しんでこの美しさを統制して破壊したいようになるわけである。三島の小説の中にこのニヒリズムや憎しみは本当によくある事である。

三島自身は同性愛の孤立や異常で醜くなった人で存在する事にこだわる事は三島の小説のなかにある人間を描写する事と関係があると思う。

三島の死にこだわる事はいつも美しさと関係がある事である。彼にとって死と関係がないエロチシズムは可能でない事である。三島自身はBeauty really is dangerous, existing only where life itself is threatened with annihilation"と言った。この意味は『生命が脅されていないと危ない事の美しさは存在ができません。』この考え方は小説の中にずっと表される事だ。『仮面の告白』で主役と「近江」の関係は性的で、感情的な関係は全然ない。

『しかも、それは明白に、肉の欲望にきずなをつないだ恋だった。』 p.53

『私がかと、充溢した血の印象と、無知と、荒々しい手つきと、粗放な言葉と、すべて理知によって些かも蝕ばれない肉にそなわる野蛮な憂いを、愛しはじめたのは彼のゆえだった。』 p.55

この引用で彼の愛のニヒリズムや暴力が分かり、感情的な愛ではまったくないであろう。

同じように『禁色』のなかに主役の「悠一」の美しさを女性を苦しませる道具として使いたいから彼に興味がある、が感情的な理由がない。たぶん一番明白な例は『仮面の告

白』にある例である。主役は自分の死を今にも起こりそうな感じがなければ「園子」との関係が全然発展しないであろう。

『こんなにも豊かにめぐまれた日光が私の上であり、こんなに何事もねがわない刻々が私の心にあることは、何か不吉な兆したとえば数分後に突然の空襲があって私たちが立ところに爆死すると謂った不吉の兆しでなければならぬような気がした。』 p.120

『仮面の告白』の中では、彼はずっとすぐ死ぬと思っているから、「園子」と結婚する事について心配するのは必要ではないと思う。この愛はずっと最初から終わりまで死と関係がある愛である。

三島の作品の中で死とエロチシズムと関係がある例はよくある事である。『仮面の告白』の主役は死ぬところの軍人に魅力を感じている。三島の作品の中で、楽しみと美しさは疑いと心配とよく混ざっていて、ニヒリズムや通苦はよくある事である。『仮面の告白』の中では死も痛みも苦しみもよくあることである。

『私のぐるりにある夥しい死、戦災死、殉職、戦病死、戦死、轢死、病死のどの一群かに、私の名が予定されていない筈はないとおもわれた。』 p.172

そうして、やはり、血や死やエロチシズムはよく混ざることであり、次の引用の中で「こうちゃん」の同性愛や暴力が愛することや命、血、性を全部混ざることによく描写されていると思う。

『これを見た時わけでもその引き締まった胸にある牡丹の刺青を見た時に、私は情慾に襲われた。。。私は園子の存在を忘れていた。私は一つのことしか考えていなかった。彼が真夏の街へあの半裸のまま出て行って与太仲間と戦うことを。鋭利なヒ首があの腹巻をとうして彼のトルノオに突き刺さることを。あの汚れた腹巻が血潮で美しく彩られることを。彼の血まみれの屍が戸板にのせられて又ここへ運び込まれて来ることを。』 p.211

三島のニヒリズムはこれではっきり描写されていると思われるのでとても大切な引用だと思う。

三島は日本の文化にも関心を持つ、これも彼のニヒリズムと関係がある事である。彼の最初の作品『花盛りの森』(1944年)は愛国的な修辭を持つ作品で帝国の歴史の美しさと優美を誉めたたえた。日本の本質に関心もっていたようである。彼の作品の中に日本の文化的な目印はずっと存在している。大体丁寧に描写されているが『金閣寺』に生花や禅や音楽という日本文化は盗みや放火や外人嫌いや女嫌いという嫌な考えと対

照し一緒に描写されている。たぶん外人嫌いと女嫌いの考え方は特に戦後の日本人の考え方と違いないかもしれないが、少年が生花を投げる事と金閣寺を燃やす事は破壊的な感情をはっきり表す事である。また三島のニヒリズムは、日本の西洋に対しての絶望と若者に対して不面目な感情とが結び付いている。

三島の結婚と『金閣寺』を書いてから次の15冊の作品の中に彼の愛国心がかかっている。殆どくだらない例ばかりでも研究者の「美好」は侍の生活が勇気と今にも起こりそうな死でいつも描写されているという。(Over and over Mishima advocates the way of the Samurai and pleads for a revival of the kamikaze spirit).

次の西洋に対しての嫌悪感と戦争に対してのあこがれの頂天は『若人を蘇れ』を書いた時(1954年)そうして『私が友ヒットラ』を書いた時(1968年)であった。彼の考えはだんだんもっと政治的になってから空手も陸軍の運動もやり始めたので自分の体の強さが増えた。最後に政府に対してクーデターをやってみて切腹した。

1967年に「中村」に手紙を書いて『自殺は作家の作品をぜんぶ活動的にする。』と言ったから、はっきり死にたがっていたと分かるであろう。そうして、昔の先生に手紙を書いて『この作品が終わると私の世界が終わる。』と言った。クーデターは切腹の副産物だそうである。

三島の人生の中に彼の外見はずっと問題として感じていた。運動を始めて、自分の身体の方が格好よくなると問題がすくなくなった。三島の昔の日本に対してのあこがれや彼のニヒリズムや同性愛と孤立のせいで作品を完成させたら生き続ける事ができなかった。彼自身が運動で美しくなると生きる理由がないと言う人もいるがどんな理由にせよ三島由紀夫は切腹する前に作品も自分の身体もちゃんと働き終わって死んだ。

#### 書誌

三島由紀夫	『仮面の告白』	発行所—新潮社	発行者—佐藤隆信	1949
三島由紀夫	『金閣寺』	発行所—新潮社	発行者—佐藤隆信	1956
三島由紀夫	『禁色』	発行所—新潮社	発行者—佐藤隆信	1964

Miyoshi Masao, *Accomplices of Silence-The modern Japanese Novel*, California UP, London, 1974

Ueda Makoto, *Modern Japanese Writers and the Nature of Literature*, Stanford UP, California, 1976





# 日本と中国の動物話の比較

張 振興

はじめに

昔話と動物の間には切っても切れない縁がある。話を日本に限るならば、有名な『桃太郎』や『かちかち山』などに見られるように、動物たちが実に魅力的に活躍をしている。もし、「桃太郎」のイヌやサルが人間であったら、あの話はずまらないものになっただろう。同じように、中国の『西遊記』の主人公 孫悟空も重要な役割を担っている。動物であるからこそ、私たちの空想をかき立ててくれるのである。これは日本と中国を問わぬ現象である。

周知のように、日本と中国は同じ東アジア地域に属しており、昔の日本は中国から大きな影響を受けた。両国の文化が非常に近いと言ってもよからう。だから、両国の昔話における動物たちの物語はもちろん国によって違うが、きっと何かの共通点があると思われる。本稿では、まず第一に、動物話の類型について、第二に、動物たちと人間のかかわりあいについて、両国の共通点と相違点を総括する。そして最後に、動物話の創作と人間の生産力の関係を検討する。

## 一 動物話の類型について

日本の動物話を読んで驚くことは、日本動物話にあらわれるタイプのうち非常に多くのものが中国の動物話にも見い出されるということである。しかし、両国が極めて古くから密接な関係にあったことを思えば、それは大して驚くべきことではないのであろう。日本と中国は、文化も国民の思想も近いから、動物話の創作の構想が大体同じである。だから、両国の動物話はタイプが同じものが非常に多い。ここで二つのタイプを例にしてみよう。

(1) 動物がどうして今の姿をしているかという創り話が多い。たとえば、サルの尻が赤いのは何故かということ、たくみに話に仕立てている。悪さをして、焼けた石に坐らせられたという類である。あまり科学が発達していなかった古代では、人間は不思議な姿をしている動物たちに好奇心を持っていたわけであるが、科学的な解釈ができない。だから、人間は豊富な想像力によって、いろいろな動物の起源に関する物語を創った。また、この空想的な動物話であるからこそ、人間の多くの疑問が解釈できるだろうと思われる。

このタイプの動物話の内容は両国とも二種類に分けている。

一種類は、動物は神様に造られて、世間に出現したということである。たとえば、日本

の北海道の昔話、『太陽とカラス』はこう言った。

遠いむかし。

天空は太陽がなくて、深い闇に包まれていた。

(中略)

世界の創造主カムイは無数のカラスを造り出した。カラスの羽毛は、悪魔の支配する闇の世界と同じ色をしていた。

(後略)

もう一種類がある。まず、例をみよう。中国の南方の布依族の昔話、『蛇とミミズ』である。

昔、蛇とミミズは土の中で仲良く暮らしておった。

ミミズにはきれいな丸い目があった。

蛇には目がなかったが、良い声で歌うことができた。

(中略)

ある日のこと、蛇とミミズは美しい声と目玉を交換した。

それからは蛇に美しい目がついたが、もう二度と歌うことはできなかった。目が見えるようになると、蛇は土の中がいやになって、うらうらと暖かい日に地上へはい出るようになった。

盲になったミミズは、今でも土の中で歌を歌っている、けれどもミミズは、土ばかり食っていたので、せっかくの良い声も蛇のように出せなくなった。今でもミミズは、ツ、チ、チ、チ、チ……と、細い声を張り上げている。

この動物話のように、動物たちが神様の力を借りることなく自分たちの意志で今の姿になった。これは日本と中国の動物起源に関する昔話のもう一つの類型である。

(2) 日本と中国の動物話のもう一つの大切な類型は、動物の人への変身である。そして、動物は変身後、人間にとって善と悪の二つの場合がある。

善の場合は動物が美しい女になって、貧しい人に尽くすという動物話が多い。ツルが美人になって、その羽毛で高価な織物を織ったり、魚が妻になったり、蛇が丈夫な子を産んだりする。このような動物話の結末は、大抵の場合、善良で貧乏な人が幸せになって、凶悪な金持ちが当然の懲罰を受けるようになる。これは、当時の社会の不平と民衆の生活の貧乏を反映している。貧しい民衆たちは、社会の制度と統治者に対して不満を持ってもそ

の状況を変える力がなかったから、未来の幸せな生活を空想するしかない。動物話は文字通り民衆が生み出し、民衆が語りついだものである。そこで、民衆が現実で果たせぬ夢を話の中でかなえた。

日本では、動物が変身後、ほとんど人間を助ける。しかし、日本との相違点として、中国の動物話には変身後の動物が人間をひどい目にあわせる場合もとても多い。このような動物は中国で「妖怪」と謂われている。妖怪は大抵の場合、山の奥で修行を通して、人間の姿になった。また、人間のできない法術を持つ。中国には、『搜神記』、『太平広記』、『聊齋志異』などこのような種類の物語をあつめた書物が多くある。その中には狐の変身の物語がきわめて多い。狐媚、狐惑などという言葉もあるように、狐は人間をからかったり惑わしたりする。概して古代の中国の狐妖は、女に言いよる男狐にしても、男を誘惑する女狐にしても、人間に対して非好意であり、敵対的である。

動物の変身は、動物話の中で多くの分量を占めている。ここで注目しなければならないのは、両国とも人が動物へ変わることがきわめて少ないということである。このような話がないわけではないが、意地悪であったり悪いことをしたりして、動物に変えられてしまう場合しかない。このタイプの話としては中国で『かいこ』ということがある。将校が相当長い期間家を離れなくてはならない。妻は、夫をとりもどしてくれた人には娘を嫁にやる、と言う。馬がこれを聞いてはしっていき、将校をつれもどしてきて、ぜひ娘と結婚したいという。馬は凶悪な将校に殺され、皮は庭に面した壁にぶらさげられる。娘がそばを通ると馬の皮は娘を包み、娘と共にかいこになる。

このようなタイプの動物話は日本でも非常に少ない。何故両国とも人が動物へ変わることが少ないかという理由は当時の状況を考えれば明らかになるであろう。その頃には自然が人間の戦いあう相手であった。昔話を生んだ庶民にとって、自然はひどく危険に満ちあふれる神秘的な世界である。彼らの頭の中で、動物に変身して自然の中に溶け込むことが災難だと考えていただろう。だから、昔話の中で意地悪な人にしか動物へ変えさせない。これは人が動物に変わるというタイプの動物話が少ない理由の一つだと思う。

## 二 動物と人間のかかわりあい

動物話は、単純に動物だけの話ではなくて、一般的に動物と人間のかかわりあいを廻って展開することである。そして、自然ではなく人間の社会を舞台にするのは日本と中国を問わぬ話の創作の形式である。つまり動物たちは人間の生活する枠で活躍している。動物話の中で、人間と動物が同じレベルに立っている。ところで、動物と人間の触れ合いを通して、動物の善良と忠誠が見られると言えよう。たとえば、動物の人間への恩返しや人間との愛と結婚である。

- (1) 動物が人間に受けた恩に報いる話が最も多い。

日本と中国で、その最たるものが竜宮の話である。これは竜に限らず、海に住むさまざまな動物が救われ、救ってくれる人を竜宮へと案内する。さまざまなバリエーションがあるようであるが、報恩が糸口になることでは変わりがない。

この他、ありとあらゆる動物が救われる。ヘビ、ツル、コイ、スズメ……日本と中国に住むほとんどの動物が人間に救われたことがある。昔は今より比べものにならないほど自然が豊かである。人間が傷ついた動物に出会うなどは日常茶飯事であったのだろう。これは、救われた動物の種類が多い理由の一つであると言ってもよからう。

また、一部分の動物報恩の話は、動物の忠誠と対照的に、人間関係が金銭や権勢に左右されて熱したり冷めたりすることを風刺している。動物の話を通して、人間の無情を批判している。たとえば、日本の東北地方の昔話、『人間無情』がある。旅の医師が、洪水に会い、幸いにも流れてきた流木につかまって助かる。そして溺れそうになっている蛇と狐と人間を助けてやる。ようやく岸について、その土地の長者の家の直してやってその家に客分として滞在することになるが、助けてやった男がそれをねたんでざんそし、医師は牢に入れられる。これを知った蛇と狐は相談して、蛇が長者をかみ、狐が占師となってでかけて行って、牢の医師に傷の手当をさせるとともに、男の悪事をあばいて医師の恩にむくいる。中国にもこれに似た話がたくさんある。たとえば、『蛇吞相』、『七色鹿』などである。このような話の中で常に、約束を破ったり騙したりする方は人間で、動物の方はもっと純粹でありすぐれている。

ところで、筆者はとても不思議なことがある。日本の動物話の中に、家畜が報恩の動物として登場する回数が少ないということである。イヌ、ウマ、ウシ、ニワトリなどが主人公になることはまずないといってもよい位である。生活の道具としてしばしば登場してはくるが、魂をもった主人公としては忘れられている。これは中国との相違点として確かに存在していると思う。

いろいろと理由を考えてみる。昔、日本は結局は中国ほど豊かな国ではなかった。家畜とのつき合いはごく近年になって始まったのだろう。家畜との接触が少ないから、創作の素材はもちろん足りないであろう。この点から見れば、日本の昔話の中で家畜の登場の回数が野生動物ほど多くないのはあたりまえであろう。

(2) 日本と中国で、人間が動物と結婚するいわゆる異類婚話が多い。

両国の動物話に、人間と動物が結婚する話がかかり出てくる。日本人と中国人は農耕民族であって牧畜を業としてこなかったので、遊牧民族のようによく動物を屠殺して食べることはあまりなかった。そこで、日本人と中国人は動物を一段下にみず、仲間扱いにしていたと思う。だから、人間と動物の愛と結婚の動物話もことに多い。

異類婚話の内容について、両国の共通点と相違点をみよう。

異類婚話の動物妻のあらわれかたをみて、日本と中国はかなり異なる。中国では『かた

『つむり女房』の例に典型的にみるように、動物妻は、たいていは男性が別にその男に恩をうけたわけではない。仕事に出て留守のあいだにそと女の姿になり、家事を片付け、料理を作り、それが済むとまた隠れてしまうのである。そういうことが何日か続いた後で不思議に思った男性が、外へ出かけるふりをして隠れていると、それとも知らず動物妻はいつものように女の姿になりいそいそと働きだす、そこへ男が飛び出して行って彼女をつかまえ妻になる、という話が圧倒的に多い。

それに反して日本の動物妻はたいてい夕方につつましやかに姿をあらわし、道に行き暮れたと一夜の宿を求める。それは以前に助けてもらったとか何かの恩義を受けた男性の家であり、恩返しをしたいと思ってくる。東北地方の動物話の『鶴の嫁さま』などはこのタイプに属している。

動物妻のあらわれかたは日本と中国が違うが、話の結末は両国が全く同じである。つまり、動物と人間の会いと結婚は別離や悲劇に終るものが多い。日本の『葛の葉狐』のように、動物が人間の姿となって人間と結婚し、しばらく幸福の生活を送り、子供もできたりするが、やがて人間が約束を破ったり、またはふとしたことから動物の本性が見あらわされたりすると、動物は再び元の姿になって自分たちの世界に戻って行ってしまふ。中国の有名な動物話の『田螺娘』『鶴女房』もそうである。かならず破局がくるのが日本と中国の異類婚話の共通点である。

## 結び

日本と中国の動物話がよく似ているのは、創作の基礎が同じからである。創作の基礎といえば、歴史や文化のほかには生産力も一つの要素であると思う。どんな文化でも、歴史的にみればみな生産力の進歩に従って生まれ、栄え、衰え、そして変化すると言える。こういった自然の軌跡の上を絶え間なく動いている。動物話も一種の文化であり、生産力のたまものであり、この自然の規律から逃げられることのできないものである。

日本と中国は原始の時、農耕ができなく狩猟民や採集民として生活していた。その時の生産力は非常に低かったので、人間はまだ自然と動物界を支配できない。そして、人間は動物の強さと力を感じ、動物に畏敬の念をもっていた。だから、昔の動物話の中で、一般的に動物は不思議な力をもっていて、一方人間は動物と比べて弱者である。この現象は日本と中国だけではなく、世界の何処もそうであろう。

日本と中国は生産力の発展に従ってともに農耕社会になった。この時の人間はもう自然界の支配者になった。狩猟、農耕、漁撈、あらゆる生産活動の場において、生産者が幼児のころからもう動物たちと接触し始めたから、動物話の創作の素材も多くなった。だから、この時期は動物話の創作の黄金時期である。また、日本と中国のこの時期にできた動物話は、単純に動物の強さを描くものではなくて、動物と人間のかかわりあいに関する話が多い。

近代になってから、生産力の発展と科学の進歩のため、動物話の創作があまりなかった。これは、動物が人間に対してもう神秘感がないからであろう。

日本と中国は生産力の発展が時間的に違うが、発展の軌跡が全く同じである。さらに地域も文化も思想も近いから、動物話について両国の共通点が非常に多いのは驚くべきではないことであろう。

#### 主要参考文献

- 『日本の民話』 瀬川拓男・松谷みよ子編 角川書店
- 『日本人と民話』 小沢俊夫編 ぎょうせい
- 『日本の昔話』 関敬吾著 日本放送出版協会
- 『昔話と日本人の心』 河合隼雄著 岩波書店
- 『中国の民話』 上下 村松一弥編 毎日新聞社
- 『中国民間故事選』 第三集 賈芝 主編 北京人民文学出版社
- 『中華民族故事大系』 1 上海文芸出版社
- 『世界の伝説』 1 動物、植物 ぎょうせい

# ニュージーランドの高等学校教育における日本語教育

## - ウェリントン地区の高等学校中心として -

トレーシ・ウォード

### 1. はじめに

現在、ニュージーランドの高等学校で一番人気のある外国語は日本語だと言われる。ニュージーランドの高等学校は5年間である。9 学年生（高校1年生）から13 学年生（高校5年生）までである。日本の中学校2年生から高等学校3年生までと同じだ（資料1を参照）。私は高校1年生から日本語を勉強し始めた。そして、高校4年生の時、日本に来た。その時、日本へ行くことのできたニュージーランドの学生達はやはり日本に行くことのできないニュージーランドの学生達より日本語が上手にできると分かった。でも、ニュージーランドに帰った後、高校で日本語の勉強を続けたが、卒業した後に知識や技術がまだ充分ではないと思った。だから、ニュージーランドの高校ではどうやって日本語を教えているのか、誰が日本語を教えているのか、どうやって日本語教授法を改善することができるのかに興味が出てきた。

今年（2000年）広島大学に入って、日本語教授法について調べてみるのは、いい機会だと思ったので、ニュージーランド（特にウェリントン市）の高等教育における日本語教授法の研究を行うことにする。

### 2. ニュージーランドの高校の教育状態

ニュージーランドでは高校1年に入る時、学生が必修科目を勉強する以外に自分で選んだ選択科目も勉強しなければならない。殆ど、高校の選択科目には外国語がある。しかし、外国語がない学校もある。もしあれば、多分日本語は一つであるが、すべての高校で日本語を教えているわけではない。日本語の勉強を始めるのに一定の年齢がはっきり決まっている訳ではないが、多くの生徒は高校に入ってから習い始める。高校によっては、外国語として日本語を高校1年生前期から取らなければ、その後高校で受講できない（資料2を参照）。

NZの高校の5年間で日本語の授業の教材は読解、語彙、会話、聴解、文法、文型、作文、翻訳、書き取りから成り立っている。カリキュラムの指導基準は一応あるが、教師はそれに固執する必要はない。殆ど、教師には独自の方法で教材を工夫して、課程を修了するまでのすべての責任がかかっている。しかし、時間が少ないので、教師が重要なポイントだけを選び出して、生徒に教える。高校1学年生から毎週4時間か5時間ぐらい日本

語を勉強する。一クラスの時間は 50 分である。

1998 年に日本語を勉強する生徒達は「The Second Language Learning Project Evaluation」(SLLP)によると、高校では 22376 人が学んでいた。外国語の中で日本語を選んだ人の数が一番多かった。しかし、その結果は 1996 年より 5000 人くらい減った。高校生の全体人数が減ったからだ。

11 月にニュージーランドの高校 3 年生と 5 年生は国内試験がある。だから、教師は何のテキストから教えてもいいのだが、国内試験の内容がだいたい決まったので、生徒に合格させるために試験の内容を教えなければ、合格が難しくなる。だから、動詞の「～ます」の形と「～は～です」の形などの文型を教えている。実際の会話で使われるような実用的な日本語ではない。だから、試験の内容は必ず教師の教え方が影響するはずだと思う。その上、ニュージーランドの貿易、政府、研究者、民間のイデオロギーも教授法の変化に影響されているはずだと思う。だから、日本語教育をどう教えたら良いかということが重要である。

### 3. 調査の方法

#### 3.1 調査の目的

本研究の目的は、ニュージーランドの高校でどのように日本語が教えられているか、毎週高校で何時間くらい日本語を教えるか、誰が生徒に日本語を教えるか、現在の教授法は良いかどうかについて調査することである。

#### 3.2 調査対象者

調査の対象となったのは、ニュージーランドのウェリントン地区の高等学校の日本語を教える教師のうち、教師 20 名であった。しかし、6 名からしか戻ってこなかった。そのうち、一つの高校から「もう、うちの学校では日本語を教えていない」という手紙をもらった。

戻った調査の対象者はほとんどニュージーランドの大学からの卒業生である。

教師は、だいたいニュージーランドの高校の日本語を教える教師で、3つのカテゴリーに分けられる；

現在は高校で正規の訓練を受けた教師（日本人以外）がやとわれている。

非常勤の教師である。時々訓練を受けたが、十分ではない。

日本語を母国語とする人、つまり日本人の教師である。

ニュージーランドの日本語の教師は NZ の大学からの卒業生か日本に何年間も住んだことのある人が多い。

しかし、生徒の人数、日本語の教師、限られた時間、教材の多さを考えた結果、たくさん問題が出る。例えば、正規の訓練を受けた教師は上手に教えられるが、日本人ではない



ので、発音、細かい点などをきちんと説明することができない。非常勤の教師は決められたテキストから教えることは問題ないが、それ以上は難しくなりそうだ。また、非常勤の教師と日本人の教師には生徒が言うことを聞かないという規律な問題があるそうである。

### 3.3 調査の時期

調査用紙は2000年4月にニュージーランドのウェリントン市の高等学校の教師に送った。7月ぐらいに戻って来た。

### 3.4 調査の内容（資料3を参照）

調査の対象者の母語は英語なので、今回の調査は英語で書いて送った。

ニュージーランドの高校の日本語教師の国籍はどこ？

生徒達はどのように日本語の勉強している？

毎週、何時間ぐらい生徒達が日本語の授業を受けている？

教師は授業以外にどのような手段で日本語を教える？

日本語の授業において、どんな視聴覚教具教材を使う？

学校で日本語を教える事と教えない事の利点と不利な点は何？

教師は生徒達に早めに日本語を教える事の利点は何？

### 3.5 回答方法

選択方式 / 英語で自由記述 / 順位法

## 4. 調査の結果と考察

調査の結果を表1と表2、グラフにした。

表1

グラフ	日本語の設置期間(年)	高校生の人数(人)	他の外国語数
学校1(————)	5-6	161-180	2
学校2(-----)	7-8	81-100	1
学校3(-----)	7-8	61-80	3
学校4(.....)	9-10	41-60	2
学校5(-----)	15+	141-160	5

表1が5つの高等学校の現在の日本語授業の状態を説明する。

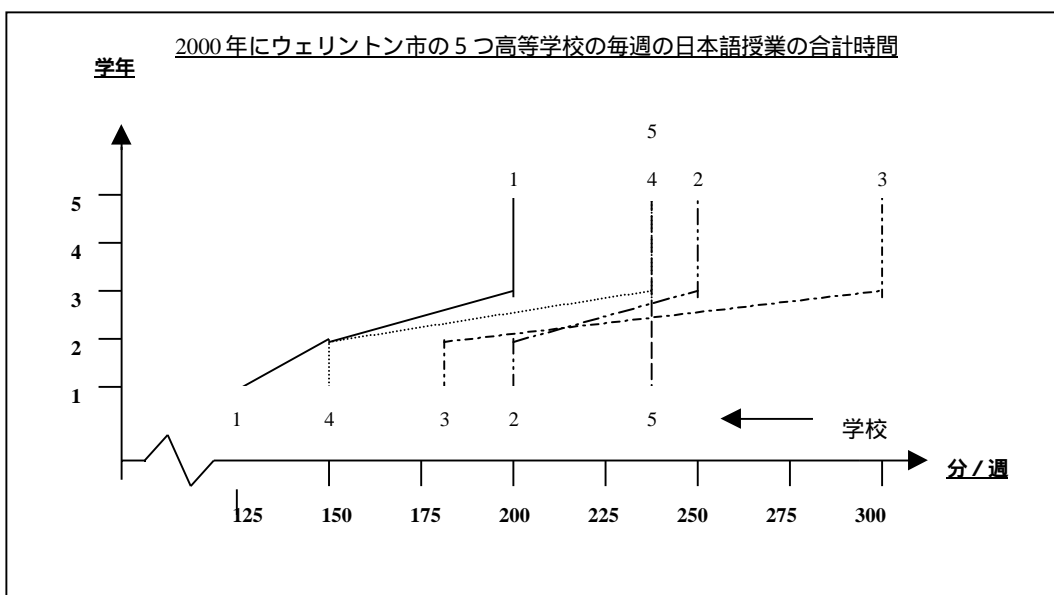
「学校1」は一つのウェリントンにある日本語を行っている高等学校である。また、「学校2」はもう一つのウェリントンにある日本語を行っている高等学校だ。(注：カッコ( )に書いている線は次のグラフのキーのために書いた)

「日本語の設置期間」は一つの高校で何年間日本語を教えているかを表す。例えば、「学校5」は15年以上日本語を教えている。

「高校生の人数」は現在の日本語を勉強している高校生の人数を表す。例えば、「学校4」は高校1年生から高校5年生まで全員で41—60人ぐらいに日本語を教える。

最後に、「他の外国人数」は学校で日本語以外にいくつかの外国語が教えている。例えば、「学校3」は日本語以外に3つの外国語を教えている。つまり、全部で4つの外国語を教えている。

## グラフ



グラフと表2は「学校1」から「学校5」までの合計の日本語授業の時間を表す。

表2

	高校1年生	高校2年生	高校3年生	高校4年生	高校5年生
学校1	125	150	200	200	200
学校2	200	200	250	250	250
学校3	180	180	300	300	300
学校4	150	150	240	240	240
学校5	240	240	240	240	240

(分/週)

「学校5」以外、高校3年生からの日本語授業の勉強時間は高校1・2年生と比べて、すいぶん増えている。「学校5」の全ての日本語授業は毎週240分である。

(注：高校1年生は、「学校1」と「学校5」以外、この調査の全ての学校の教える時間は40週/1年だった。「学校1」の高校1年生の授業は30週/1年だった。「学校5」の高校1年生の授業は20週/1年だった。)

その他の調査結果は次の通りである。

5人の教師は5年から17年の間日本語を勉強した。でも、その5人のうち3人だけが日本語能力試験レベル3を受けて合格した。本当は、高校5年生を卒業した後、生徒は日本語能力試験レベル3を合格すべきである。だから、教師のレベルは生徒より必ずもっと上のレベルである方がいいと思う。2級に合格ができないと、生徒にあまり上手に日本語を教えられないだろう。

教師は日本語を学ぶことの一番の利点は文化的な教養が増えることと思われる。

高等学校で日本語を教えることの不利な点は低学年の授業の人数は多すぎることである。また、上級生の人数が少なすぎると思っている。でも、上級生になると、日本語を真面目に勉強したい生徒が残っているので、もっといい勉強ができると思う。

教師は高校に入るより早く日本語の勉強を始める方がいいと調査に答えた。小・中学生の覚える能力の方が早いからだ。しかし、小・中学生が自分で日本語を勉強したいと思わないと、すぐ飽きて諦める。そうすると、高校に入ってから、日本語を選ばない。前の日本語の勉強の思い出が辛かったからだ。

教師は日本語の聴解、読解、話す事、書く事もぜんぶ大切なので、順位をつけることができなかった。それは、いいことだと思う。しかし、高校は学問的な所なので、生徒の書く事と読解の能力の方が聴解と話す事の能力と比べて上手になる。つまり、生徒の強い点は読み書きである。

高校から使っている教科書は必ず仮名で書いている。ローマ字で書いている教科書を絶対に使ってはいけない。使うと、生徒は仮名や漢字になれないからだ。

最後に、5人の教師から2人だけが全身反応教授法 ( Total Physical Response - TPR ) を知っていた。しかし、自分で日本語を教える時、その教授法を使わない。生徒の考えと振る舞いがいつも変化しているので、教師は上手に教えたいと思うのなら昔の教授法だけ使っていてはいけない。新しい学年が始まる時、日本語教室の状態がすぐに分かれば、生徒にもっと上手に教えられるだろう。

この結果からニュージーランドの高校の教師について部分的に知る事ができた。全体的に教師の日本語のレベルは生徒とあまり変わらないので、自分の間違いを生徒に教えさせているだろう。だから、教師は本当に日本語を有効に教えたかったら、自分の日本語のレベルをもっと上げなければならない。そして、いつまでも新しい教授法を探して使ってみなければならない。

## 5. ニュージーランドの日本語教授法

次はニュージーランドの高校はどのように日本語の「書く」、「読む」、「話す」、「聞く」を生徒に教えるのかについて考える。

### 5.1 「書く」

現在、高校では日本語を勉強し始める時に教師はよく生徒に口 - マ字を教える。しかし、もし最初から仮名を教えないと、悪い癖が付く。しかし、高校3年生の国内試験に合格するために仮名と漢字を習わなければならない。しかし、習うのは嫌になるので、高校2年

生の後、日本語を諦める高校率が高くなりそうである。ちなみに、7・8 学年生達（中学校 1・2 年生）は日本語を勉強する時、10 週間で毎週、授業は一回 90 分ずつである。中学校 1・2 年生は高校生と比べて時間がもっと少ないので、カナと漢字を使わないで、ローマ字を使用する。発音、会話と聴解を重視するからだ。

生徒は仮名を書く勉強をけっこう楽しんでやる。しかし、ほとんど字が汚いし、書き順もよく間違えているそうである。この問題がよく出る。つまり、最初に平仮名と片仮名を習った時に、練習の時間が充分過ぎさなかったからだ。だから、その書く事の問題がおこらないために、教師はもっと時間を取って、書き順を紙で書いたり空中で書いて何回も繰り返して練習させなければならない。書き順が分かったら、字も自然にきれいになるそうである。もし、高校 1 年生に良い癖が付くと、漢字を習う時、漢字の書き順を覚えやすくなる。

## 5.2 「読む」

生徒は仮名を読めるので、授業中に読む練習を始める。最初、日本語で書いた短い文章からの節を皆の前で読まなければならない。同じ言葉や文法をいろいろな文章で使うと、少しずつ覚えられる。最初の時は恥ずかしいが、だんだん慣れて来る。そして、日本語を話す事も練習することができる。それと、皆の前で読むと、自分の声が恐くなくなる。

それから、静かに読む事も練習すると、テストがある時、指示や質問などを速く、精密に読むことができるようになる。

## 5.3 「話す」

ニュージーランドの高校では日本語を話す事は読む事と書く事と同じくらい大切な勉強だ。だから、教師は最初から基本的なフレーズを教えさせる。しかし、日本人ではない教師はやはり生徒に悪いアクセントや悪い癖が付けさせるかもしれない。生徒の発音が自然になるように日本人を授業に招待したりテープで日本人の声を録音したものを使ったりした方がいい。

高校生は会話を習う時、最初に自己紹介を学ぶ。その後、好きな事と嫌いな事、趣味やスポーツ、天気などについて話し方を勉強する。高校 3 年生から最近習った文法や語彙などを使って、自分で好きな話題を選んで、スピーチか会話をする。

## 5.4 「聞く」

普通、聞き取り練習の時、テープを使うが、教師が文章を読む場合もある。教師が最近、習い終わった日本語の文章と同じような文章を探し出して、関係した質問をいくつか書き出す。生徒のために質問を考えて出す。そして、生徒は 2・3 回聞かせた後、質問に答える。

それから、外国語教師が自分で教えている時、英語と日本語で生徒に指示を与える。しかし、全ての日本語教師が日本語と英語で両方で教えているわけではない。日本語で話すと、生徒は苦勞せずに、たくさんの新しい語彙や文法などを学ぶ事ができるからだ。とてもいい聞き取り練習だと思う。

次は、必ずニュージーランドの高校の日本語教室で使っている指示を与える文章である。

静かにして下さい。/静かに！！

出席を取ります。名前を呼ばれたら、「はい！」と返事して下さい。

ドアを開けて/閉めて下さい。

窓を開けて/閉めて下さい。

私が言うまでテストを見てはいけません。

日本語/英語で書いて下さい。

(注：レーキーとアンドに書かれていたものと筆者の経験から)

## 6. 新しい授法

ニュージーランドの高校では教室の中で教師が一番偉い人ではなくて、生徒と対等である。もちろん教師は授業を指導するが、生徒の行いによって、授業が途中で変わるかもしれない。教師と生徒の関係は友好的である。また、授業の雰囲気はけっこうリラックスしている。しかし、いつもそうではない。

### 6.1 ニュージーランドの高校生に日本語を上手に教えること

最初に教師は必ずニュージーランドの高校生の信頼を得なければならない。得ると、教師は生徒に言うことを聞かせられるそうである。

レーキーとアンドによると、教師は次の方法で生徒の信頼を得られる。これはとても一般的な文章なので、どんな場合にも必ずしも当てはまるとは限らない。

- 1) 日本語に対する熱意を見せてあげることが必要である。教師の熱意は絶対に生徒の日本語に対する勉強に影響する。つまり、教師の熱意が生徒に伝わると、高校生は日本語を好きになり、さらにもっと進んでいる勉強を頑張るようになる。
- 2) 教師はクラスに十分な準備をしなければならない。もしそうしなければ、生徒は授業を楽しむようにならない。そして、日本語の授業を嫌いになる。
- 3) 生徒にご褒美を与える。レーキーとアンドは褒美に5円玉を与えると、『教師に対して生徒は好意を(取りあえずはしばらくの間は)持つし、5円玉には真ん中に穴が空いているので、ペンダントを作って楽しむ』と書いた。しかし、ご褒美を与えれば、もらえない生徒の恨みを買う事にもなる。そうすると、クラスの雰囲気が暗くなってしまおうとレーキーとアンドは書いている。

次に、教師は生徒が勉強を十分にやった時に注意しなければならない。もしそうしなければ、高校生が新しい勉強でも、教師の言う事を全然聞いてくれない。勉強に飽きたからだ。その場合、教える方法を変えるか、全く違う事を始めさせる。そうすれば、高校生は退屈にならない。

それから、新しい事や難しい事を教えたい時、午前中の授業に教えさせた方がいい。ニュージーランドの高校生は午前に勉強すると理解率が高くなるらしいからだ。

レーキーとアンドは『NZの学校で日本語を教える日本人を何人か見て来ましたが、皆さん非常に丁寧であったり、楽しい授業にしようと精一杯やっているにもかかわらず、基本的な説明でさえも生徒には充分理解されずに終わってしまっている場合がたくさんあります。』と書いた。そのため、一年間で教師がたくさん教えられなかったり生徒が真面目に勉強でもなかったり、教師が授業の教材を済ませられなかったりする恐れがある。そのため、もし教師は生徒に日本語の勉強を分かってほしかったら、コミュニケーション能力が、生徒にきちんと教える際には必要である。

## 7. おわりに

私は1994年に高校を卒業した。その時、教師や教授法は今と比べて少し違った。例えば、日本人の教師の人数の方がニュージーランドの教師の人数より多かった。しかし、日本語は高校でとても人気のある科目なので、日本語で卒業する人が急に増えた。そして、学校には、ニュージーランドで卒業した教師は外国で卒業した教師と比べて、給料の方が安かったので、ニュージーランド人の教師の人数が増えた。そのため、1990年からニュージーランドでは日本人の教師の人数が減った。

調査からニュージーランド人の教師の日本語のレベルはまだ充分ではないことが分かった。私の高校1年生の日本語の教師もニュージーランド人だった。そして、勉強している間とてもいい教師だと思った。でも、止めた後、日本人の教師がうちの学校に来て、日本語の勉強を続けてくれた。そうすると、前のニュージーランド人の教師は本当にだめだったと分かった。だから、先に書いたが、教師は本当に日本語を有効に教えたかったら、自分の日本語のレベルをもっと上げなければならない。生徒の将来は自分の勉強だけではなく、教師の教授法にもよる。だから、教師も先生になった後、自分の日本語の勉強を続けた方がいいだろう。教える前、いつか日本語能力試験の1・2級を受けて合格した方がいいだろう。それと、教える時も、自分の日本語のレベルを知るために、2年1回は能力試験をまた受けてみる方がいいだろう。

もし、ニュージーランドの高校生の日本語能力が上達させたいなら：

教師の自分のレベルを上げなければならない。

生徒の半分ぐらいが授業の内容を分かってからでないと、新しい話題に始めない。

高校1年生と2年生に仮名の書き順をきちんと教えさせる。

授業に会話を練習する時、生徒が日本人の発音やアクセント、トーンなどを耳になれるなれるさせるために、日本人をその授業に招待して方がいいだろう。そうすれば、生徒のアクセントがそんなにニュージーランドっぽくならないかもしれない。

仮名が読めたら、読解の練習をすぐ始める。

最後に、ニュージーランドの日本語の教師の日本語を教える目的は、5年間で生徒の日本語能力レベルが自分のレベルと一緒にになるか、それに近くになることだろう。時間が少ないが、できるだろう。2・3年間日本に住んだら、上手になるので、5年間高校で勉強したら無理ではないだろう。

#### 参考文献

- 1) 日暮嘉子(1998)「Elementary Functional Japanese: Intercultural Communication Volume 1 – 初級実践日本語1」アルク,東京
- 2) Peddie, R., Gunn, C. & Lewis, M. (1999)“ Starting Younger: The Second Language Learning Project Evaluation – Final Report ” Auckland Uniservices Ltd., Auckland
- 3) Reekie, J. & Ando, E. (1998)“ Talk About Teaching ” Craig Printing Co. Ltd., Invercargill





6. How many students are learning the Japanese Language this year at your school?

Less than 20                      21~40                      41~60                      61~80                      81~100  
 101~120                      121~140                      141~160                      161~180                      181+

7. How many Japanese classes are taught in each Year and for how long? Eg:

Year (No. of Classes)	Hours x Min./Week	Length
Year 7 (2)	3 x 55 Min./Week	20 Weeks
Year 12 (1)	4 x 55 Min./Week	Full year

Year 1 ( )	x Min./Week	
Year 2 ( )	x Min./Week	
Year 3 ( )	x Min./Week	
Year 4 ( )	x Min./Week	
Year 5 ( )	x Min./Week	
Year 6 ( )	x Min./Week	
Year 7 ( )	x Min./Week	
Year 8 ( )	x Min./Week	
Year 9 ( )	x Min./Week	
Year 10 ( )	x Min./Week	
Year 11 ( )	x Min./Week	
Year 12 ( )	x Min./Week	
Year 13 ( )	x Min./Week	

8. What other languages are offered at your school?

Maori                      German                      French                      Samoan                      Chinese                      Mandarin  
 Latin                      Other, please specify:

9. Are **YOU** the Japanese Teacher at the school stated in question One?

Yes                      No

If you answered "Yes", please go on to **Q8**. If you answered "No", please go on to **Q24**. **NB:** You may want to ask people in the Japanese Language department to help with some of the questions in the latter part of this section, if you are not the Japanese Teacher.

1 0. How long have you been teaching the Japanese Language for?

1 1. How long have you been teaching the Japanese Language at your present school for?

1 2. Are you of Japanese origin?

Yes                      No

If you answered "Yes", please go on to **Q16**. If you answered "No", please go on to **Q11**.

1 3. Please state your Nationality.

1 4. How long have you been studying the Japanese Language?

1 5. Please rank your own Japanese level ability. For Instance: Japanese Proficiency Level One – 1999 or Learning the Language as you are teaching it.

1 6. What are your reasons for teaching the Language at your school? Please be specific.

1 7. Do you feel the Japanese Level could be improved at your school? How?

Yes                      No

If you answered **Q11 to Q15**, please go on to **Q28**.

- 1 8. How long have you been in New Zealand?
- 1 9. How long have you been teaching at your present school?
- 2 0. How long do you intend to continue working at your present school? Why?
- 2 1. What were your initial reasons for wanting to come to New Zealand?
- 2 2. How do you mainly communicate with your students during class? Why?
- Japanese                      English                      Other; please specify
- 2 3. How do mainly communicate with your students outside class time? Why?
- Japanese                      English                      Other; please specify
- 2 4. How good do you feel the Japanese Level is amongst the students in your school?
- 2 5. Do you feel that the Japanese Level could be improved in your School? How?
- Yes                      No

If you answered **Q16 to Q23**, please go on to **Q28**.

- 2 6. What position do you hold in your school?
- 2 7. What relationship does your position have with the Japanese Language department?
- 2 8. Please express the good and the bad points of the Japanese department that you have noticed in your school. Please be specific.
- 2 9. Do you feel the Japanese Language could be improved in your school? How?
- Yes                      No
- 3 0. What do you consider to be the main advantages and disadvantages of students learning Japanese in your school?

#### ADVANTAGES

#### DISADVANTAGES

- 3 1. Do you think the Japanese Language offered in your school is beneficial to the students? Why/Why Not?
- Yes                      No
- 3 2. How important do you think the learning of a Foreign Language, in particular Japanese, is in Primary & Intermediate Schools today? Why?
- 3 3. Do you think it should be compulsory for all schools to offer at least one Foreign Language in Primary & Intermediate Schools? Why/Why Not?
- Yes                      No
- 3 4. If a Foreign Language is offered at a Primary or Intermediate School, do you think the language should be compulsory, available to all who choose, or should the school select the students? Why? If you think a school should select, how?
- 3 5. What is **YOUR** opinion on Foreign Language classes being taught from an early age in School Education? Why?
- 3 6. From your own observation, what has been the main difference between students who start learning Japanese in Primary School to those who start learning Japanese in Secondary School? Please tick those appropriate:

Pronunciation is clearer                      Writing is more fluent                      Listening ability is better  
 Reading ability is stronger                      More determination to Study the Language  
 Greater interest for Japan                      Other: Please Specify Below:

- 3 7. Do **YOU** feel that it would be more beneficial for children in lower levels (Primary & Intermediate Levels) of education to be taught a Foreign Language in a short 6-week course or in one-year blocks? Why/Why Not?
- 3 8. Would you like to add any other comments about when, what, how and if a foreign language (in Particular Japanese) should be introduced in to the lower levels (Primary & Intermediate Levels) of school education?

## **PART B: TEACHING OBSERVATION**

- a. How would you rate the need for the following skills amongst your students? (Please rank from 1 to 4, 1 = Most Important & 4 = Least Important)

Writing                      Reading                      Listening                      Speaking

- b. Please indicate as specifically as possible what types of resources are used to teach the foreign languages in your school. (You may tick as many as you like)

Textbooks (For the Japanese Classes, please state the name of the texts you use)

Computers, Please tick, which programs you use below;

Teacher-made-programs                      CD - R o m                      The Internet  
 e - mail links, etc.                      Other interactive programs ,

For the Japanese Classes, please state below the names of the programs used above.

T.V Programmes/Video

Card Games/Memory Games

Slides/Photos

Radio/Tapes

Other Resources, please state below

If you answered **Part A**, please go on to **Q3**. If you answered **Part B**, please go on to **Q5**.

- c. The textbooks that you use, are they mainly written in:

R o m a j i                      Half Romaji/Half Japanese Writing                      Japanese Writing

- d. In your opinion, should school textbooks always be in "Romanised" form?

Y e s                      No

- 4.1 **If YES**, what are the reasons for the above answer? (You may tick more than one)

Easier and more effective for the students to master the Japanese Language

The course duration is too short to teach Katakana, Hiragana and Kanji

My main objective is to get the student's communication skills developed

Others, Please Specify Below:

4.2 **If NO**, what are the reasons for your answer in **Q3**? (You may tick more than one)

By using the "Romanised" form it will affect the correct pronunciation of the student's Japanese

I think it is more important for students to learn Katakana, Hiragana and Kanji first because otherwise there will be confusion later on when it is introduced

Other, Please Specify Below:

e、 What topics are taught in the Foreign Language Classes? (You may tick more than one)

Lifestyle	Tourist Spots	Science and Technology	Sport	
Food	Music	History	Education	Art
Religion	Agriculture	Transportation	Geography	
Culture	Economy	Other, please specify below.		

f、 Besides classroom teaching, what other activities do the students experience?

Learning traditional parts of the culture (For instance; Japanese Tea Ceremony, Traditional Japanese Dances, Floral Arrangements, etc)

Involved with "Home-stay" Exchange Programmes

School trips (Not an Exchange Programme) to the country of the Language being learnt

Visiting (For instance; Japanese Companies, Cultural Centers, Embassies)

Other, please specify below

g、 Have you heard of the teaching aid Total Physical Response (TPR) before?

Yes

No

If your answer to **Q7** was **YES**, please go on to **Q8**. If your answer to **Q7** was **NO**, please go on to **Q10**.

- h、 What are your opinions on using TPR as a teaching aid when teaching a Foreign Language?
- i、 Do you think it would be worth while using TPR as a teaching aid in NZ schools, especially when teaching Foreign Languages to beginner students? Why/Why Not?
- j、 Finally, What is the most developed skill amongst the language students at your school? You may tick more than one, but please explain below, **WHY** each one is the most developed.

Writing/Grammar

Hand-Writing

Speaking

Listening

Pronunciation

Vocabulary

Reading

Thank you very much for spending your time on completing this survey. It will be a great help to me in completing my assigned work. Thank you very much.



# 移民

## - 東アジア人の場合 -

施 映汝

### はじめに

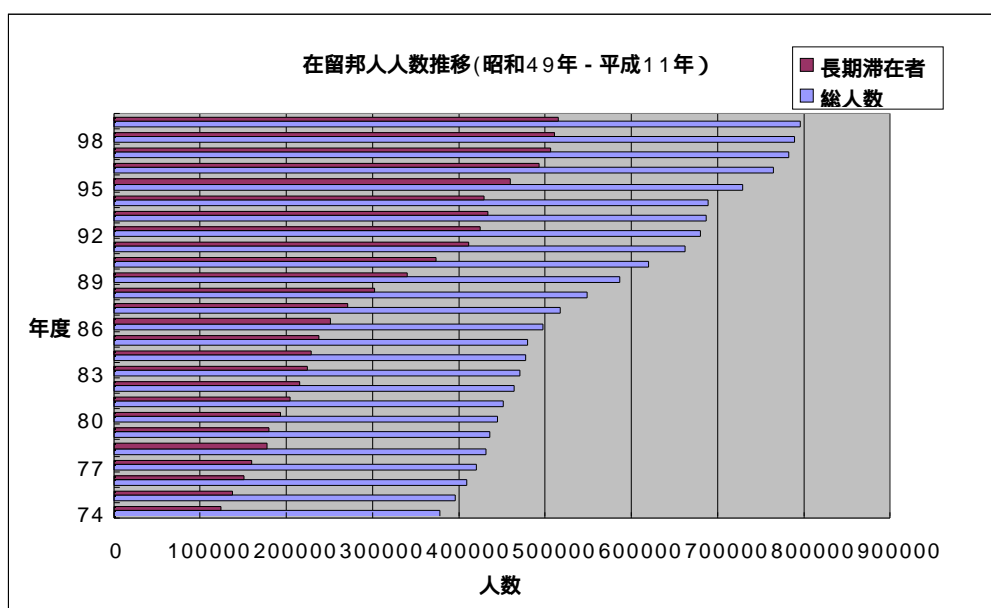
私は台湾に生まれて、家の近くの幼稚園に二年間、小学校に六年間通って、中学校二年間隣の県の私立カスツク寄宿学校で勉強していた。そして、中学校三年生のとき家族とニュージーランドに移民した。ニュージーランドの高校、大学を卒業して、そして今年の一月に文部省の日本語・日本文化の研修生として広島大学に来ました。こうして私は世界中のいろいろな国の人々と接して、新しい環境に対しての適応性もかなり身につけた。しかし、始めてニュージーランドに行った時、学校を適応すること、新しい言葉で話すこと、自分のアイデンティティ - を確かめることなど対面しなければならなかった。そのボログレースのなかで、新鮮さがいっぱいだったが、時々寂しさ、時々辛さ、私を感じていた。移民というのは、今でも昔でもプラス面とマイナス面がある。何かを失うとき何かを得るというわけだと思う。しかし、昔の移民たちと比べたら、自分がどんなに幸せだろうと『華人の歴史』を読んでいたとき痛感した。

### 1 . 私が見た現代移民たち - ニュージーランドの場合

台湾人と香港人がニュージーランドへ移民するのは80年代後半から1996年ぐらいまで大ブームになった。その理由の一つは言うまでもなく、1997年にイギリスが香港を中国に帰還することだと考えられる。しかし、単なる親たちが子供たちにもっと自由の教育環境で勉強させたい、もっといい環境で成長させたい、という気持ちで移民した人もいた。もちろんニュージーランドの移民政策の変革も主な理由だと思う。80年代の半ばから商業移民の開放と92年からの技術移民である。その時期の移民は大体社会の中産階級の40代であり、つまり会社の管理職、医者、エンジニア、会社の経営者たちが多い。しかし、こういう人たちは実際ニュージーランドで再就職せず、半定年という形で、故国での仕事とニュージーランドにいる家族のあいだ行ったり来たりしている人が多い。こういう父たちは「空中飛人」と言い、つまり一年中父たちは仕事のためや家族のため何度も故国とニュージーランドのあいだを飛んでいるからだ。一方、永住権を取得しても、子供だけニュージーランドを留学し、しばらく親戚やホームステイの家で暮らしている場合も多い。どっちかと言うと、親たちが子供のために犠牲している場合が多い。

韓国もほぼ同じ時期に、多くの人々がニュージーランドに移住した。今オークランドのショッピング街では韓国人のデリーショップや洋服ファッションショップがいっぱいある。しかし、この東アジアの移民ブームのなかに、日本からの移民はわずかの人数しかない。ニュージーランドにいる長期滞在の日本人はほとんど留学や仕事の関係である。あるいは、ニュージーランド人と結婚した人である。台湾や香港などのような商業移民や技術移民の形で移住してきた日本人はほとんどいない。

## 2. グラフから見た日本海外移住のトレンド



注：総人数 = 永住者 + 長期滞在者

2 ページのグラフは外務省出版の「海外在留邦人数統計」昭和41年から平成11年までのデータによって作られた。在留国から永住資格を得ている者、つまり在留国で骨を埋めるつもりで生活の本拠を日本からその国へ移住した人々は「永住者」とし、その以外の者、つまり在留国での生活は一時的なものでいずれ日本に戻るつもりの人々は「長期滞在者」として区別している。このグラフを見ると、1974年から1998年にかけての海外に在住する日本人長期滞在者が増えるにつれ、総人数が増える一方であるが、永住者の人数はほぼ変わっていない。こう考えると、留学や仕事の関係でしばらく外国で滞在する日本人が増えているが、実際移民の手続きや面接などのプロセスを通して海外に移住する人が少ない。

## 3. 移民とは何か

移民というのは「お金をもうけて故郷に錦を飾る。そのつもりで海を渡ったところが、



さまざまな事情で帰れなくなった。やむをえず現地にとどまって、そのまま居着いてしまった人たちなのだ。あるいは「日本の過去のある時代において、人口過剰に悩む日本政府によって、追い出され、切り捨てられた人たちである」と『海外移住の意義を求めて - 日本人に海外移住に関するシンポジウム』という本に書いてある。『華人の歴史』にも似たような事を述べている。日本人であろうか、中国人であろうか、昔の人々に対して移民のイメージは変わらないようだ。

このような理由で移民することを決めたのは現代移民のなかにはまずあるまい。なぜかというと、東アジアの日本や台湾や香港などでお金を儲けることはいまのところどこよりもできるからだ。定年後、のんびりした生活を送るために移民した人も少なくない。それに、航空交通の便利さで、移民ができた人ならある程度のお金を持っているから、いつでも故国に帰れることになった。政府によって追い出されることはおろか、国の人材や資産の流失を惜んでいるの方が正しいかもしれない。

#### 4 . 海外移住の歴史の要因 - 日本の場合

では、日本の移民ブームはいつ起こったか、どんな状況で起こったか検討していきたい。7ページの図1を見ると、歴史のイベントや政府の政策によって、移民の人数がけっこうアップ・エンド・ダウンがあることが分かる。大体、日本移民の要因は五つあると考えられている。第一に、海に囲まれた島国にいる日本人は海外志向性があること。移民県といわれる瀬戸内海に面している広島、山口、それに四囲を海に囲まれた沖縄は昔から移民人数が多かった現象から証明されている。第二に、失業などを伴った人口過剰問題。明治維新後倍増した人口で、いろいろな社会問題となったがゆえ、海外に移民することを取り上げられた。第三に、農村の経済不景気と凶作。第四に、政府の積極的な移民政策と移民会社の出現。第五に、優れた移民啓蒙家や指導者の出現や成功した先輩移民の刺激。

#### 5 . 契約移民

19世紀の中国人移民はほとんど契約労働者の形であった。つまり「クーリー」とも言い、契約を終えるまで働けなければならなかった。しかし、こうしていい条件の広告を見て、誘拐された人が多かった。移民先（主にキューバ、オーストラリア、ペルー、カリブ海の砂糖農園）に着いてからというもの、死ぬまで奴隷のように働かせられた日々だった。

一方、ブラジルで最初の日本移民は大体労働者としてブラジルのコーヒー農場の下に雇われて行った契約移民である。もちろんその後はほかの形で行った人もいたが、恐らくブラジルにおける日本人の80パーセント以上が契約移民としてブラジルに移住したと考えられている。お金を儲けたら、日本に戻るつもりでブラジルに渡った契約移民はブラジルが夢の叶われないところと感じ、多くの人が契約を無視して、命がけで逃げようとした。

## 6 . 差別問題

アメリカでは、19世紀末の革新主義の思想状況にも適合したこと、中国人移民の排斥、入国禁止があった。そして、日露戦争後、日本を脅威と感じたアメリカには「黄禍論」と「日本人移民の排斥」があった。ほぼ同じ時期、オーストラリアの白豪主義(White Australian Policy)は1901年オーストラリア連邦成立とともに「白人だけの理想郷」として確立された移民法である。その目的は有色人種の排斥と入国規制であった。人種の差別問題は移民に対して重要な問題だった。

私は移民として学校や社会での人種に関する差別を受けたことがなかった。ニュージーランドでは昔からオーストラリアと違って、人種差別問題が少なかったからだと思う。ところが、3年ぐらい前、ニュージーランド・ファーストという党のリーダー、ピータースは、アジア人移民の増加の現象に関して「こういう状況が続いたら、いつかニュージーランドがアジア人の国になる恐れがある」というように指摘し、国会でアジア移民を禁止されることを提案した。しかし、大多数の人が彼の提案を「レーシスト」と批判し、反対した。今の移民政策は前よりちょっと厳しくなったが、アジア移民はまだまだニュージーランド政府にとって経済的に有力なグループである。

## 7 . アイデンティティーの変化

どこの移民でもいつの時代の移民でも同じく、海外に移民してアイデンティティーの変化を対面しなければならない。近代移民の一世は母国語を話せるし、母国での生活もある程度送っていたから、母国に対する思い出を持っている。一方、二世になると、ほとんどの場合母国語を失ったし、考えや行動は西洋化になったし、いわゆる「バナナ」(外は黄色で、中身は白であること)になってしまった。しかし、現代移民は違うと私思う。21世紀に向かっている90年代の新移民たちは、ただ黙って一生懸命西洋人みたいになろうではなく、移民先での人とお互いに自分の文化を教えてあげ、自分が物に対する価値観を伝わなければならない。

私は高校の時、同じ学年に移民してきたアジア人は私しかいなかった。ほかに留学してきたアジア人がいたが、なぜか私がいつも線を引いて「私と彼らは違うよ！」と強調して、一生懸命「キーウィ -」になろうとした。しかし、こうすればするほど自分が一体何人かとよく分からなくなった。

ところが、大学に入って、いろいろな人と出会って、キーウィ -、二世中国人、新移民、ほかの国からの留学生たちと友達になった。知らずにいつの間にか、自分の新しいアイデンティティーを見つけた。

## 8 . 私のもう一つの故郷 - 「 Home Away From Home 」

広島大学合唱団で「故郷」を歌っていた。指揮者が「自分の故郷に対する思いを込めて歌わなければ、この曲の美しさが伝えられない。」と言った。そのとき、頭の中に、二つの風景が浮き上がっていた。今の私にとって台湾の南投もニュージーランドのタオランガも私の“ホームタウン”である。どっちに帰ってもほっとできる、親しく感じるからだ。

### 《参考文献》

『海外移住の意義を求めて - 日本人に海外移住に関するシンポジウム』外務省・国際協力事業団、1979

移民研究会『日本の移民研究』、紀伊国書店、1994

リン・パン『華人の歴史』、みすず書房、1995

『海外在留邦人数統計』、外務省、昭和41～平成11年



